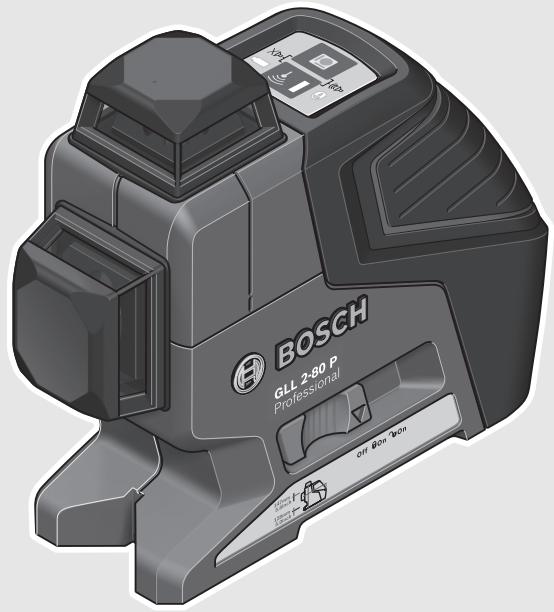
Robert Bosch GmbH
Power Tools Division
70764 Leinfelden-Echterdingen
Germany

www.bosch-pt.com

1 609 92A 0KK (2014.05) I / 221 **XXX**

1 609 92A 0KK



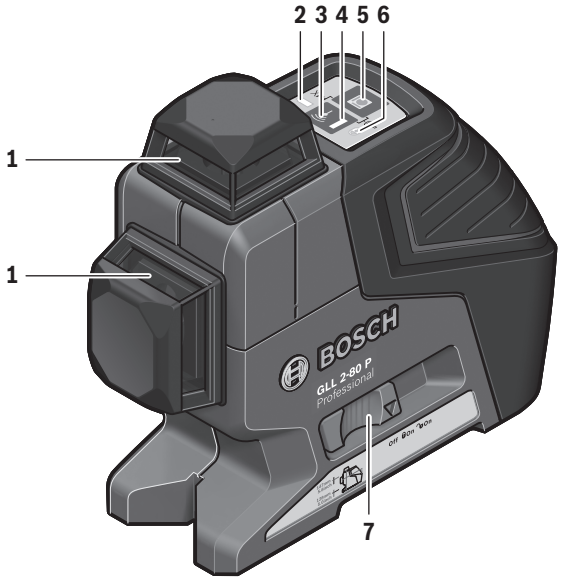
GLL 2-80 P Professional

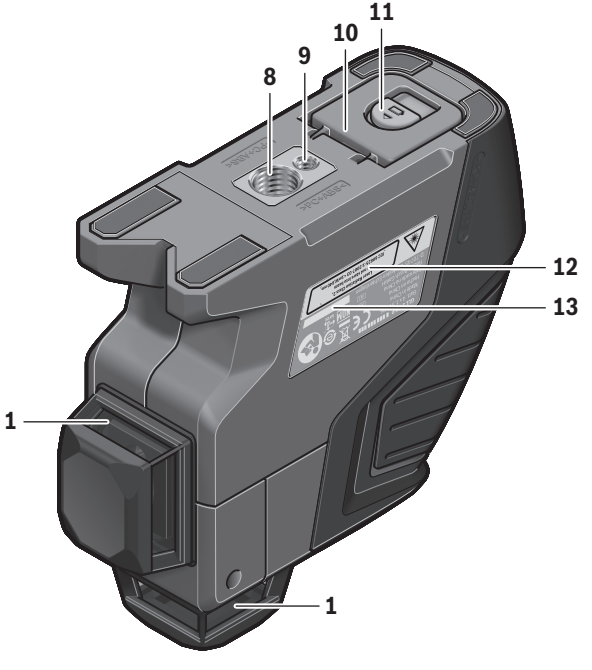
BOSCH

ja オリジナル取扱説明書
cn 正本使用说明书
tw 原始使用說明書
ko 사용 설명서 원본
th หนังสือคู่มือการใช้งานฉบับต้นแบบ
id Petunjuk-Petunjuk untuk

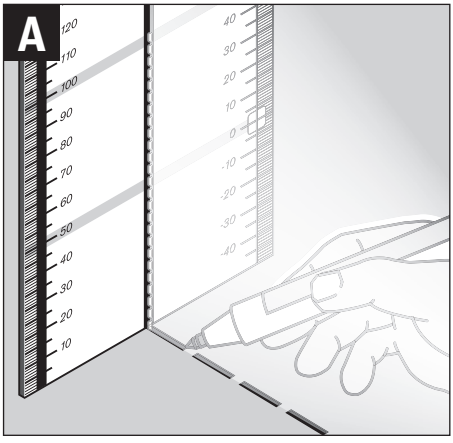
Penggunaan Orisinal
vi Bản gốc hướng dẫn sử dụng
ar تعليمات التشغيل الأصلية
fa دفترچه راهنمای اصلی

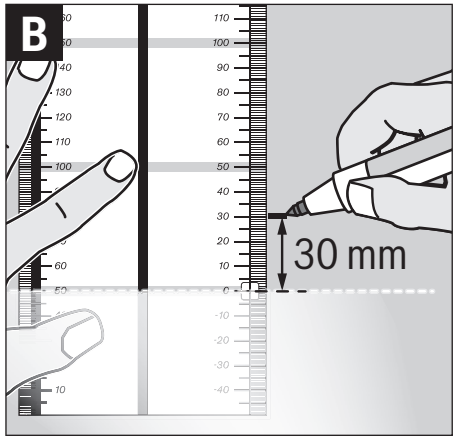
日本語 . . . . . ページ 168
中文 . . . . . 页 174
中文 . . . . . 頁 179
한국어 . . . . . 페이지 185
ภาษาไทย . . . . . หน้า 190
Bahasa Indonesia . . . . . Halaman 196
Tiếng Việt . . . . . Trang 201
عربي . . . . . صفحة 214
فارسی . . . . . صفحه 220

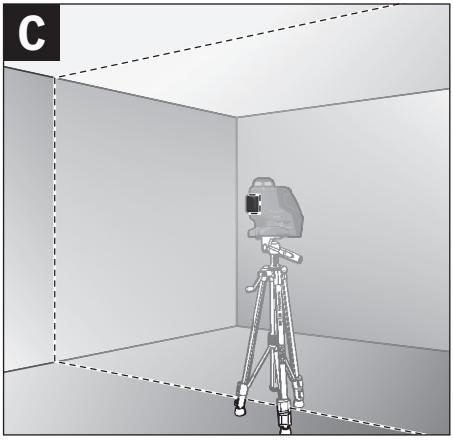


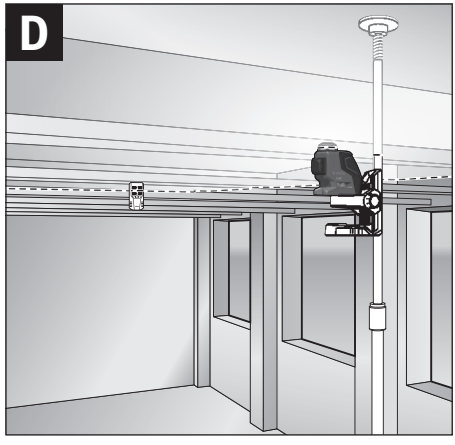


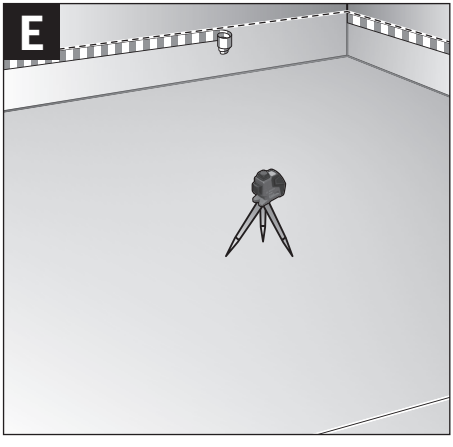
GLL 2-80 P

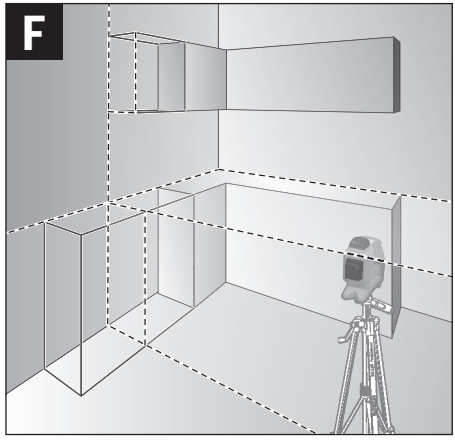

A

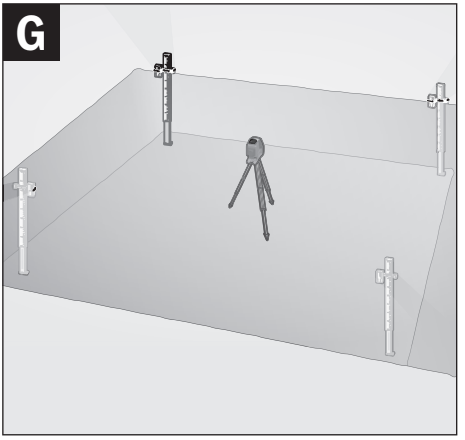

B
30 mm

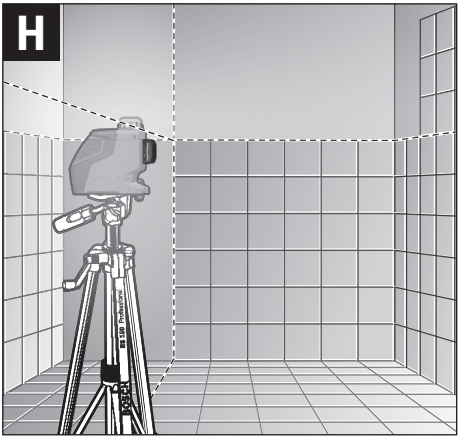

C

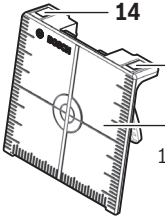

D


E


F







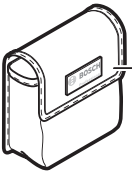
14

14

15
1 608 M00 80K

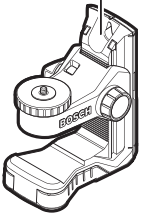
16
2 607 002 195

17
LR 2
0 601 069 100



18

19
BM 1
0 601 015 A00



20
BT 350
0 601 015 B00

21
2 607 990 031

22
BT 150
0 601 096 B00

日本語

安全上のご注意

ラインレーザー

メジャーリングツールを危険なく安全にお使いいただくために、すべての指示をよくお読みになり、指示に従って正しく使用してください。メジャーリングツールに貼られている警告ラベルが常に見える状態でお使いください。この取扱説明書を大切に保管し、ほかの人に貸し出す場合には一緒に取扱説明書もお渡しください。

- **ご注意 – ここに記載された操作・調整機器以外の機器を使用したり、指定以外の方法でお取り扱いになったりすると、危険な電磁波を放出する恐れがあります。**
- **メジャーリングツールには警告ラベルが貼られています（イラストページ上では 12 で表示されています）。**

- **日本語の警告ラベルが貼示されていない場合には、初めてご使用になる前に同梱の日本語ラベルを貼示中のラベル上に貼ってください。**

レーザー光を直接、または反射したレーザー光をのぞいたり、人や動物に向けたりしないでください。人に眩しさを与えたり、事故を引き起こしたり、目に障害を与えるおそれがあります。

- **レーザー光が目に入った場合、目を閉じてすぐにレーザー光から頭を逸らしてください。**
- **レーザー装置に変更を加えてはなりません。**
- **レーザーメガネを保護メガネとして使用しないでください。**レーザーメガネはレーザー光の視認を助けるものであり、レーザー光から目を保護するものではありません。
- **レーザーメガネをサングラスとして使用したり、道路交通上で着用したりしないでください。** レーザーメガネでは紫外線からの完全な保護はおこなえません。また、レーザーメガネは色の認識力を低下させます。
- **メジャーリングツールの修理は、必ずお買い求めの販売店、または電動工具サービスセンターにお申しつけください。専門知識を備えた担当スタッフが純正交換部品を使用して作業を行います。**こ

れによりメジャーリングツールの安全性が確実に保護されます。

- ▶ **目の届かない場所でお子様にレーザーメジャーリングツールを使用させないでください。** レーザー光が他者の目に入ると視力に影響を及ぼす場合があります。
- ▶ **爆発の危険性のある環境（可燃性液体、ガスおよび粉塵のある場所）ではメジャーリングツールを使用しないでください。**メジャーリングツールから火花が発生し、粉塵や蒸気に引火する恐れがあります。

レーザーターゲットパネル

メジャーリングツールとターゲットパネル 15 をペースメーカーの付近で使用しないでください。メジャーリングツールとターゲットパネルに装備されている磁気部で磁界が発生し、ペースメーカーの機能に障害をきたす恐れがあります。

- ▶ **メジャーリングツールとターゲットパネル 15 をデータ媒体や磁気に敏感な装置に近付けないでください。**メジャーリングツールとターゲットパネルの磁気作用により致命的なデータ消失につながる恐れがあります。

製品および性能について

わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。

用途

このメジャーリングツールは、垂線および水平線の測定・確認に使用します。

騒音

距離 1 m の場所における信号音の A 特性音圧レベルの代表値は 80 dB(A) です。
メジャーリングツールを耳に近づけないでください。

構成図の内容

以下の番号はイラストページのメジャーリングツール構成図に一致しています。

1 レーザー発光口
2 バッテリー警告
3 パルスモードボタン
4 パルスモード表示
5 運転モードボタン
6 固定ラインモード表示
7 オン／オフスイッチ
8 三脚取付部 5/8″
9 三脚取付部 1/4″
10 電池収納カバー
11 電池収納カバーロック
12 レーザー警告ラベル
13 シリアルナンバー
14 マグネット
15 レーザーターゲットパネル
16 メジャーリングプレート*
17 レーザー受光器*
18 保護ケース*
19 汎用ホルダー*
20 伸縮ロッド*
21 レーザーメガネ*
22 三脚*

*** イラストもしくは記述されたアクセサリーの全てが標準付属品に入っているとは限りません。**

仕様

ラインレーザー	GLL 2-80 P
製品番号	3 601 K63 2..
使用距離[1)]	
– 標準	20 m
– パルスモード使用	15 m
– レーザー受光器使用	5-80 m
水平精度	±0.2 mm/m
セルフレベリング調整可能範囲　代表値	±4°
レベル調整時間　代表値	<4 秒
使用温度範囲	-10 ° C ... +45 ° C
保管温度範囲	-20 ° C ... +70 ° C
最大相対湿度	90 %
レーザークラス	2
レーザーの種類	640 nm, <1 mW
C_6	1
最短パルス時間	1/1600 秒
三脚取付部	1/4″, 5/8″
乾電池	4 x 1.5 V LR06 (AA)
連続使用時間	
– 2 レーザーレベル	9 時間
– 1 レーザーレベル	18 時間
重量（EPTA-Procedure 01/2003 準拠）	0.7 kg
寸法（長さ × 幅 × 高さ）	159 x 54 x 141 mm
保護クラス	IP 54（防滴型）

1）受光に不利な環境下（直射日光のあたる場所など）で使用した場合、受光器が使用できる範囲が狭くなることがあります。
お客様のメジャーリングツールのシリアルナンバー **13** は銘板上に記載されています。

取り付け

電池の取り付け・交換

メジャーリングツールをご使用になる際には、アルカリマンガン乾電池のご使用をお奨めします。

電池収納部カバー **10** を開くには、ロック **11** を矢印の方向にずらしてください。電池を装着してください。この際、電池収納部カバー内の表示に従い、電池の向きに注意してください。

電池残量が少なくなった場合、シグナル音が 5 秒間鳴ります。電池残量警告 **2** が赤く持続的に点滅します。本機の使用時間は 2 時間以内となります。

電源を入れたときに電池残量が少ない場合は、電源を入れた直後にシグナル音が 5 秒間鳴ります。

電池交換の際には、常に新しい電池をセットで同時に交換してください。この際、メーカーおよび容量の異なる電池を同時に使用しないでください。

- ▶ **長期間にわたってメジャーリングツールをご使用にならない場合には、ツールから電池を取り出しておいてください。**長期間にわたって放置されると、電池の腐食および自然放電につながることがあります。

操作

使用方法説明

- ▶ **メジャーリングツールの使用中、操作によっては大きな信号音が鳴ることがあります。このため、メジャーリングツールを耳や周囲の人に近づけないでください。**大きな音が耳を傷める原因となることがあります。
- ▶ **メジャーリングツールを水分や直射日光から保護してください。**
- ▶ **極度に温度の高いまたは低い環境下、または極度に温度変化のある場所でメジャーリングツールを使用しないでください。**車の中などに長時間放置しないでください。周囲温度が急激に変化した場合、メジャーリングツールを周囲温度に順応させてからスイッチを入れてください。極度に高いまたは低い温度、または極度な温度変化はメジャーリングの精度を低下させることがあります。
- ▶ **メジャーリングツールに強度な衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。**メジャーリングツールが破損すると、精度が悪化する恐れがあります。メジャーリングツールが強度の衝撃を受けたり、落下した場合には、レーザーラインまたは垂直レーザー光を既存の水平・垂直線または確実な垂点と比較し、確認してください。
- ▶ **メジャーリングを運搬する場合には、必ずスイッチを切ってください。**強い衝撃を与えると破損する恐れのある揺動機構は、スイッチを切ることでロックされます。

スイッチ on/off

本機の**電源を入れる**には、オン / オフスイッチ **7** を**「on」**（固定ラインモード）または**「on」**（自動整準モード）までスライドさせます。電源を入れると直ちに、レーザー光照射口からレーザー光が照射されます **1**。

- ▶ **レーザー光を人や動物に向けないでください。距離が離れている場合にもレーザー光内を覗かないでください。**
- ▶ **メジャーリングツールのスイッチを入れたまま目の届かない場所に放置しないでください。ご使用後はメジャーリングツールのスイッチを切ってください。**レーザー光が他者の目に入ると視力に影響を及ぼす場合があります。

メジャーリングツールのスイッチを **切る** には、オン / オフスイッチ **7** の位置を**「off」**にしてください。スイッチを切ると揺動機構がロックされます。

許容作動温度 45 ° C を越えた場合には、レーザーダイオード保護のために電源が OFF になります。温度が低下した後、本機は再度使用可能状態になり、電源を再度入れることができます。

自動電源オフ機能の解除

約 30 分間にわたってメジャーリングツール上で何らかのボタン操作がおこなわれなかった場合、メジャーリングツールは自動的にスイッチオフとなり、これにより電池の消耗を防ぎます。

自動的に電源が OFF になった後で本機の電源を再度 ON にするには､オン / オフスイッチ **7** を**「off」**位置までスライドさせて本機の電源を入れ直すか、または運転モードボタン **5** またはパルスモードボタン **3** を 1 回押してください。

自動電源オフ機能を解除するには、（メジャーリングツールのスイッチが入った状態で）運転モードボタン **5** を 3 秒以上押したままにしてください。自動電源オフ機能が解除されると、レーザー光が短時間点滅します。

自動電源 OFF 機能を作動させるには、本機の電源を一旦 OFF にして再度電源を入れ直すか、または運転モードボタン **5** を 3 秒以上押し続けます。

シグナル音の入 / 切

本機の電源を入れた後は、必ずシグナル音が鳴ります。

シグナル音を入れたり、切ったりするには、運転モードボタン **5** とパルスモードボタン **3** を同時に 3 秒以上押し続けます。

シグナル音の「入 / 切」が行われたときは、確認のためにシグナル音が短く 3 回鳴ります。

探知モード

本機には 3 つの作動モードがあり、いつでも切り替えることができます。

- 水平モード：水平レーザーレベルを発します。
- 垂直モード：垂直レーザーレベルを発します。
- クロスラインモード：水平・垂直レーザーレベルを発します。

スイッチ投入時、メジャーリングツールは自動的に水平モードで始動します。運転モードを切り替えるには、運転モードボタン **5** を押してください。

どの運転モードに対してもオートレベリング機能の有無が選択できます。

パルスモード

レーザー受光器 **17** を使用して作業するときには、-選択した作動モード-に関係なく、パルスモードを作動させることができます。

パルスモードでは、非常に高い周波数でレーザーラインが点滅し、レーザー受光器 **17** で探知可能になります。

パルスモードを作動させるには、**3** ボタンを押します。パルスモードが作動しているときは、表示 **4** が緑色に点灯します。

パルスモードを作動させると、レーザーラインの視認性が低下しますので、レーザー受光器を使用しないで作業するときには、**3** ボタンを再度押してパルスモードを OFF にしてください。パルスモードを OFF にすると、表示 **4** が消えます。

オートレベリング機能

オートレベリング機能の使用

メジャーリングツールを水平な安定した地面上に設置するか、ホルダー **19** または三脚 **22** に固定してください。

オートレベリング機能を使用して作業する場合、オン／オフスイッチ **7** の位置を**「on」**にしてください。

自動補正範囲が ±4° 以内の場合、自動整準を行います。レーザーラインが動作しなくなると、整準は終了です。

自動整準が行えない場合（本機の設置面が水平面から 4° 以上差異がある場合など）、レーザーラインは速い速度で点滅し始めます。シグナル音が「入」になっているとき、シグナル音は速い速度で最長 30 秒間鳴ります。電源を入れてから 10 秒以内は、本機を設置できるようにするため、このシグナル音は作動しません。

本機を水平に配置し、整準されるまで待ってください。本機が ±4° の自動補正範囲内にあれば、ただちにレーザー光が持続的に照射され、シグナル音が停止します。

運転中、メジャーリングツールに衝撃を与えたり位置を変更したりすると、自動的に再度セルフレベリングがおこなわれます。再度レベリングをおこなった場合には、水平または垂直レーザーラインが参照点に一致しているかを再確認し、測定エラーを防いでください。

オートレベリング機能を使用しない作業

固定ラインモードでは オン / オフスイッチ **7** を**「on」**位置にスライドします。自動整準を OFF にすると、表示 **6** が赤く点灯し、レーザーラインが 30 秒間ゆっくりと点滅します。

オートレベリング機能がオフになっている場合、メジャーリングツールを手に持って、または勾配のある床面に設置して測定作業をおこなうことができます。クロスラインモードでは、2 本のレーザーラインが必ずしも相互に垂直に発光されるとは限りません。

水平精度

精度の影響

周囲の温度環境は測定精度に大きく影響を与えます。特に、床面に近い部分における温度が外気温度と異なると、レーザー光が適切に作用しなくなることがあります。

周囲温度と異なる温度層は床面付近で最も厚くなっていることから、測定距離が 20 m を超える場合には必ず三脚を使用してください。さらに、できるだけメジャーリングツールを作業面の中央に設置してください。

外部からの影響の他に、ツール特有の影響（落下または強度の衝撃など）により誤差が生じることもあります。このため、作業をおこなう前には必ずメジャーリングツールの精度チェックをおこなってください。

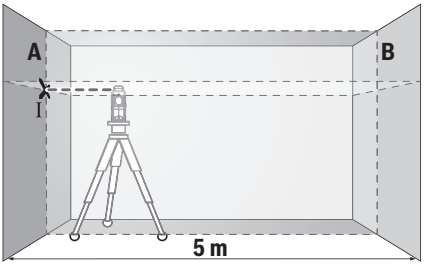
まず水平レーザーラインの水平精度を点検し、次に垂直レーザーラインの水平精度を点検します。

精度チェック中に検査結果が 1 回でも許容誤差を超えた場合には、ボッシュ・カスタマーサービスへメジャーリングツールのチェックをご依頼ください。

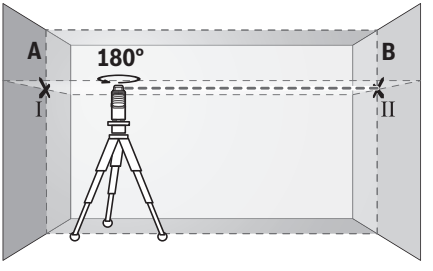
左右軸における水平レベリング精度のチェック

精度チェックをおこなうには、壁面（A および B）にはさまれた干渉物のない測定距離（5 m）と安定した設置面が必要となります。

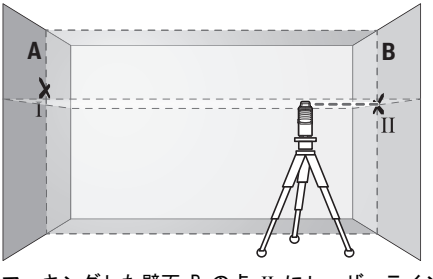
- メジャーリングツールを壁面 A の近くに設置し、三脚上に取付けるか、安定した平坦な床面に設置してください。メジャーリングツールのスイッチを入れてください。クロスラインモードを選択し、オートレベリング機能をオンにしてください。



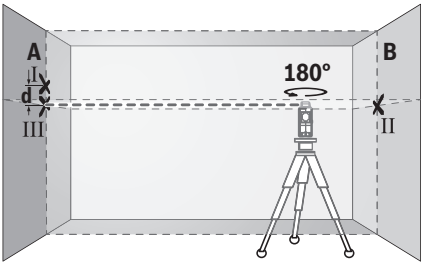
- レーザー光を壁 A の付近に照準し、メジャーリングツールのセルフレベリングを開始させてください。壁面上で 2 本のレーザーラインが交差する点の中心をマーキングしてください（点 I）。



- メジャーリングツールを 180° 回転させ、セルフレベリングをおこなった後で反対側の壁面 B のレーザーライン交差点をマーキングします（点 II）。
- メジャーリングツールを 回さずに 壁 B 付近にあて、スイッチを入れてからセルフレベリングをおこなってください。



- マーキングした壁面 B の点 II にレーザーラインの交差点がくるように、三脚の高さを変更するかツール下部に何か置いてメジャーリングツールの高さを調整します。



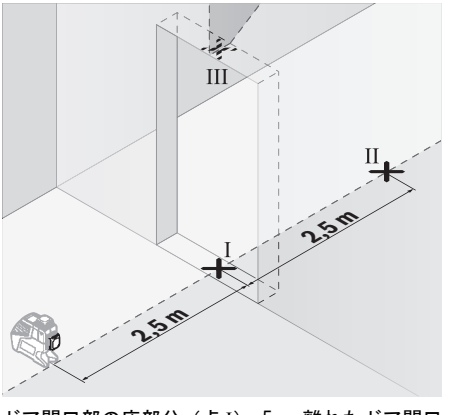
- メジャーリングツールを 180° 回転させてください。壁面 A 上で既にマーキングした点 I を垂直レーザーラインが通るようにメジャーリングツールを調整してください。メジャーリングツールのセルフレベリングが完了した後、壁面 A 上のレーザーライン交差点をマーキングします（点 III）。
- 壁面 A 上でマーキングしたポイント I と III の差 **d** は、左右軸に沿った本機の実際の高さの誤差になります。

測定距離 2 x 5 m = 10 m での最大許容誤差：
10 m x ±0.2 mm/m = ±2 mm。
ポイント I と III 間の差 **d** が 2 mm 以内であれば正常です。

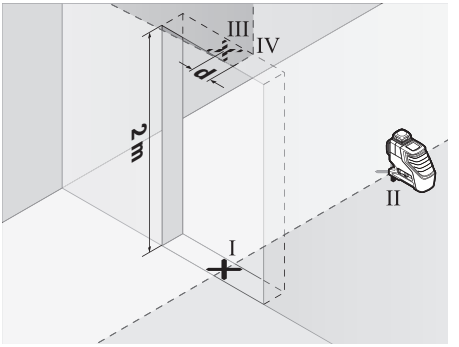
垂直ラインの水平精度の検査

垂直ラインの水平精度チェックをおこなうには、ドア用開口部が必要となります。この際、ドアの前後両側に 2.5 m 以上のスペースがあること、および安定した床面が必要です。

- 本機をドア開口部から 2.5 m 離れた、堅い平らな床面に設置します（三脚上ではなく）。本機を垂直モードで自動整準させ、レーザーラインをドア開口部に向けます。



- ドア開口部の床部分（点 I）、5 m 離れたドア開口部の向こう側（II）およびドア開口部の上枠部分（III）にある垂直レーザーラインの中心点にマーキングしてください。



- 本機を 180° 回転させた向きで設置し、ドア開口部の反対側、ポイント II のすぐ後方に配置します。本機を整準させ、垂直レーザーラインの中心がポイント I と II を通るようにします。
- ドア開口部の上端に照射されているレーザーラインの中心をポイント IV としてマーキングします。
- マーキングされたポイント III と IV の差 **d** は、本機の鉛直ラインに対する実際の誤差となります。
- ドア開口部の高さを測定してください。

最大許容誤差は以下のように計算します：
2 x ドア開口部の高さ x 0.2 mm/m
例：ドア開口部の高さが 2 m の場合
2 x 2 m x ±0.2 mm/m = ±0.8 mm ポイント III と IV が 0.8 mm 以内であれば正常です。

操作上の留意点

▶ **必ずレーザーラインの中心をマーキングしてください。**レーザーラインの幅は測定距離に応じて変化します。

ターゲットパネルを使用しての作業

ターゲットパネル **15** の使用によって、測定に不利な環境や測定距離が遠い場合にもレーザー光が見えやすくなります。

レーザーターゲット **15** の半分は反射体となっていることから、レーザーラインが見えやすくなります。また、他の半分は透明となっていますので、後方からでもレーザーラインを確認することができます。

三脚を使用した作業 （アクセサリー）

三脚を使用すると、メジャーリングツールの高さ調整が可能となるとともに安定した測定が可能となります。メジャーリングツールの 1/4″ 三脚取付部 **9** を三脚 **22** または市販のカメラ用三脚のネジ上に取り付けてください。市販の測量用三脚を使用する場合には、5/8″ 三脚取付部 **8** を使用してください。

三脚の固定ネジでメジャーリングツールをしっかりと固定してください。

汎用ホルダーへの取り付け （アクセサリー）（図 D 参照）

汎用ホルダー **19** によって、垂直面、筒、磁性体などへのメジャーリングツールの固定が可能となります。汎用ホルダーは床用三脚にも適しています。これによってメジャーリングツールの高さ調整が容易に行なえるようになります。

メジャーリングプレートを使用しての作業 （アクセサリー）（図 A-B 参照）

メジャーリングプレート **16** の使用により、床上へのレーザーマーキングおよび壁面でのレーザー高測定が可能となります。

標尺に表示された 0 領域および目盛りを利用して、任意の高さとの誤差を測定したり別の位置へマーキングしたりする作業がおこなえます。これにより、必要とされる高さへメジャーリングツールを正確に調整する手間をはぶけます。

レーザー光の可視性を高めるため、メジャーリングプレート **16** の表面には反射コーティングがなされています。このため、遠い位置や太陽光照射の強い場所からでも視認しやすくなっています。明暗強度はレーザー光に沿ってメジャーリングプレートを見た場合にのみ認識できます。

レーザー受光器を使用しての作業 （アクセサリー）（図 D 参照）

光の状態が好適でない場合（周囲が明るい、直射日光）や距離が離れている場合には、レーザーラインを良好に探知するためにレーザー受光器 **17** を使用してください。レーザー受光器を使用して作業するときは、パルスモードを作動させてください（「パルスモード」参照、170 ページ）。

レーザーメガネ （アクセサリー）

レーザーメガネには偏光フィルターが装備されています。これにより、レーザー光のもつ赤い光に対する視認性が高まります。

▶ **レーザーメガネを保護メガネとして使用しないでください。**レーザーメガネはレーザー光の視認を助けるものであり、レーザー光から目を保護するものではありません。

▶ **レーザーメガネをサングラスとして使用したり、道路交通上で着用したりしないでください。** レーザーメガネでは紫外線からの完全な保護はおこなえません。また、レーザーメガネは色の認識力を低下させます。

応用例（図 C-H を参照）

メジャーリングツールの用途例はイラストページに記載されています。

保守とサービス

保守と清掃

メジャーリングツールを保管・運搬する際には、必ずツールを付属の保護ケースに収納してください。

メジャーリングツールはきれいな状態を保ってください。

メジャーリングツールを水中やその他の液体中に入れないでください。

汚れは湿ったやわらかい布で拭き取ってください。洗浄剤や溶剤のご使用はお避けください。

レーザー光の発光口を特に定期的に掃除し、綿くず等が残らないように注意してください。

製品およびテストには細心の注意を払っていますが、メジャーリングツールが万一故障した場合には、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理をご相談ください。メジャーリングツールをご自分で分解しないでください。

お問い合わせや部品のご注文の際には、必ずメジャーリングツールの銘板上に記載された 10 桁の製品番号を記入してください。

メジャーリングツールを保管・運搬する際には、必ずツールを付属の保護ケース **18** に収納してください。

アフターサービスおよびカスタマーサポート

製品の修理やメンテナンスおよび交換パーツに関するお問い合わせはボッシュ電動工具サービスセンターで承っております。
製品やパーツのご購入、使用方法、調整方法に関するご相談はボッシュ・コールセンターフリーダイヤルへお問い合わせください。

日本

ボッシュ株式会社　電動工具事業部
ホームページ： http://www.bosch.co.jp
〒 150-8360　東京都渋谷区渋谷 3-6-7
コールセンターフリーダイヤル 0120-345-762
(土・日・祝日を除く、午前 9:00 ～午後 6:00)

処分

メジャーリングツール、アクセサリーおよび梱包資材は、環境にやさしい資源リサイクルのために分別しましょう。

メジャーリングツールおよびバッテリー / 電池を家庭用ゴミとして捨てないでください。

EU 諸国のみ：

欧州指令 2012/19/EU に従い、使用済みのメジャーリングツールは環境に準じたリサイクル用として分別回収しなければなりません。また、欧州指令 2006/66/EC に従い、故障したまたは使用済みのバッテリー / 電池は環境に準じたリサイクル用として分別回収しなければなりません。

表記の内容を予告なく変更することがあります。

中文

安全规章

线段激光测量仪器

必须阅读并注意所有说明，从而安全可靠地使用测量仪。测量仪上的警戒牌应保持清晰可读的状态。请妥善保存本说明书，并在转交测量仪时将本说明书一起移交。

- **注意 – 如果未按照本说明书中的指示操作仪器，未使用本说明书推荐的调整装备，或者使用本仪器进行其它的用途，都可能导致危险的辐射爆炸。**
- **本测量仪器上贴着一个警戒牌 （参考仪器详解图上，以号码 12 标示的部位）。**

- **如果警戒牌不是以贵国语言书写的，在首度使用仪器之前，先将以贵国语言书写的贴纸贴在该警戒牌上。**

不要将激光束指向人或动物，请勿直视激光束。 它会扰乱旁人的视觉能力，造成事故或者伤害眼睛。

- **如果激光光束射进您的眼睛，请有意识地闭上眼睛并马上将头转出激光光束范围。**
- **请不要对激光装置进行任何更改。**
- **激光辨识镜不可以充当防护眼镜。** 戴上激光辨识镜之后，可以帮助您辨识激光，它并不能保护您免受激光辐射伤害。
- **不可以使用激光辨识镜充当太阳眼镜，也不可以戴着激光辨识镜上街。** 激光辨识镜不具备防护紫外线的功能，并且会减弱您对颜色的识别能力。

- ▶ **本仪器只能交给合格的专业人员修理，而且只能使用原厂的备件。** 如此才能够确保仪器的安全性能。
- ▶ **不可以让儿童在无人监护的情况下使用激光测量仪。** 他们会因为不留心而扰乱旁人的视线。
- ▶ **不要在易爆环境，如有易燃液体、气体或粉尘的环境下操作测量仪器。** 测量仪器内可能产生火花并点燃粉尘和气体。

激光瞄准靶

不可以让本测量仪器和激光靶 15 靠近心脏起搏器。 仪器和激光靶上的磁铁会产生磁场，这个磁场会影响心脏起搏器的功能。

- ▶ **仪器和激光靶15都必须远离带磁性的记忆体和容易受磁场干扰的机器。** 透过仪器和激光靶的磁铁的干扰，可能造成无法捕救的资料损失。

产品和功率描述

请翻开标示了仪器图解的折叠页，阅读本说明书时必须翻开折叠页参考。

按照规定使用机器

本测量仪适合测量和检验水平线、垂直线。

噪音说明

该信号音的 A 加权声压级在一米距离内为 80 dB（A）。

不要将测量仪紧贴耳朵！

插图上的机件

机件的编号和仪器详解图上的编号一致。

1 激光放射口
2 电池电量警告标志
3 脉冲功能键
4 脉冲功能显示灯
5 操作功能转换键
6 关闭自动找平功能时的指示灯
7 起停开关
8 5/8" 的三脚架接头
9 1/4" 的三脚架接头
10 电池盒盖
11 电池盒盖的固定扳扣
12 激光警戒牌
13 序列号码
14 磁铁
15 激光靶
16 带脚架的测量板*
17 激光接收器*
18 保护套*
19 通用支撑*
20 伸缩杆*
21 激光辨识镜*
22 三脚架*

***图表或说明上提到的附件，並非包含在供货范围中。**

技术数据

线段激光测量仪器	GLL 2–80 P
物品代码	3 601 K63 2..
测量范围[1)]	
– 基本	20 米
– 使用脉冲功能	15 米
– 使用激光接收器	5 – 80 米
找平精度	±0.2 毫米 / 米
一般的自动找平范围	±4°
一般的找平时间	<4 秒
工作温度范围	– 10 ° C ... +45 ° C
储藏温度范围	– 20 ° C ... +70 ° C
最大相对空气湿度	90 %
激光等级	2
激光种类	640 纳诺米，<1 毫瓦
C_6	1
最短的脉冲时间	1/1600 秒
三脚架接头	1/4", 5/8"
电池	4 x 1.5 伏特 LR06 (AA)
操作时间	
– 使用 2 个激光平面	9 小时
– 使用 1 个激光平面	18 小时
重量符合 EPTA–Procedure 01/2003	0.7 公斤
尺寸 （长 x 宽 x 高）	159 x 54 x 141 毫米
保护种类	IP 54（防尘埃和防水花）

1) 不良的测量环境 （例如直接的日照）会缩小测量的范围。

仪器铭牌上的序列号码（仪器详解上标示著 **13** 的位置）便是仪器的识别码。

安装

安装 / 更换电池

操作本测量仪时最好使用碱性锰电池。

打开电池盒盖 **10** 时，得先朝着箭头的方向推压固定扳扣 **11**，接著再掀开电池盒盖。安装好附带的电池。安装时请注意电池极性的正确安装方向，电池室中有正确的安装参考图。

电池如果太弱了，仪器会响起一道长达 5 秒钟的信号声。电池电量警告标志 **2** 会持续闪烁红灯。此时测量仪器最多只能再使用 2 个小时。

如果在开动仪器时电池已经太弱了。开动之后仪器马上就会发出一道长达 5 秒钟的信号声。

务必同时更换所有的电池。请使用同一制造厂商，相同容量的电池。

- ▶ **不使用测量仪时，必须从仪器中取出电池。** 长期搁置之后，电池会腐蚀或自行放电。

正式操作

正式操作仪器

- ▶ **在某些操作状况下测量仪会发出响亮的信号声。此时测量仪必须远离耳朵和旁观者。** 这个响亮的信号声可能损坏您的听觉。
- ▶ **不可以让湿气渗入仪器中，也不可以让阳光直接照射在仪器上。**
- ▶ **仪器不可以曝露在极端的气候下，也不可以把仪器放在温差相当大的环境中。** 仪器不可以长期放置在汽车中。如果仪器先后曝露在温差相当大的环境中，必须先等待仪器温度恢复正常后再使用仪器。如果仪器曝露在极端的气候下或温差相当大的环境中，会影响仪器的测量准确度。
- ▶ **不可以剧烈地撞、摔测量仪。** 仪器如果损坏了会影响测量精度。经过强烈的外力冲撞后，为了检查仪器的测量精度，可以将激光线段或铅垂光束和您熟悉的水平、垂直线段或经过检验的铅垂点做比较。
- ▶ **搬运仪器之前必须先关闭仪器。** 关机后摆动零件会被锁定，否则摆动零件可能因为强烈的震动而受损。

开动 / 关闭

开动测量仪器，把起停开关 **7** 推移到 **"on"** 位置（不使用自动找平功能操作仪器时），或 **"on"** 位置 （使用自动找平功能操作仪器时）。开机后测量仪器马上从激光放射口 **1** 投射出激光线段。

- ▶ **不可以把激光指向人或动物。您本人也不可以直视激光。就算您与激光之间尚有一段距离，也不可忽视激光的伤害力。**
- ▶ **看管好已经开动的仪器。使用完毕后务必随手关闭仪器。** 激光可能扰乱旁人的视线。

关闭测量仪器，把起停开关 **7** 推移到 **"off"** 位置。关闭仪器后，仪器的摆动单元会被锁定。

如果超过最高许可操作温度 45 ° C，仪器会自动关闭以便保护激光二极管。待测量仪器冷却后便能够再度操作，此时您又可以再度开动仪器了。

关闭仪器的自动关机功能

如果长达 30 分钟未按下测量仪器上的任何按键，为了保护电池测量仪器会自动关闭。

在仪器自动关闭之后如果要再度启动仪器，可以先将起停开关 **7** 推到 **"off"** 的位置，然后再重新开动仪器，或者按一次操作功能转换键 **5** 或脉冲功能键 **3**。

要关闭自动关机功能，（如果测量仪器已经被启动了）必须按住操作功能转换键 **5**，最少按 3 秒钟。在关闭了自动关机功能后，激光光束会短暂闪烁以做回应。

关闭测量仪器然后再开动仪器，或按住功能转换键 **5** 至少 3 秒钟，便可以再启动自动关机功能。

关闭信号声功能

开动测量仪器时信号声功能便随著被启动。

要关闭或启动信号声必须同时按住操作功能转换键 **5** 和脉冲功能键 **3**。至少得按住 3 秒钟。

在关闭和启动信号声功能时，仪器都会发出三道短暂的信号声来确认。

操作功能

本测量仪器有三种不同的测量功能， 您可以随时在这些功能之间进行转换：

- 水平操作模式：会产生水平激光面，
- 垂直操作模式：会产生垂直激光面，
- 十字激光操作模式：会产生一个水平和一个垂直的激光面。

开动仪器后，测量仪是设定为水平找平。按下操作功能转换键 **5** 后能够改变仪器的测量功能。

以上三种测量方式，都可以使用自动找平功能。

脉冲功能

使用激光接收器 **17** 时，不管选择何种测量方式，都必须开启脉冲功能。

启动脉冲功能后，激光线段会以极高的频率闪烁， 这样激光接收器 **17** 才能够接收仪器投射出的激光。

按下按键 **3** 可以开动脉冲功能。启动脉冲功能之后显示灯 **4** 会亮起绿光。

就肉眼而言，在启动脉冲功能之后，激光线段的辨识程度会降低。 因此不使用激光接收器时，最好重新按下按键 **3** 来关闭脉冲功能。关闭脉冲功能之后显示灯 **4** 会熄灭。

自动找平功能

使用自动找平功能进行测量

把测量仪器放置在平坦、坚固的地面上，或者把它固定在支撑 **19** 或三脚架 **22** 上。

使用自动找平功能测量时必须把起停开关 **7** 推到 **"on"** 的位置。

自动找平功能能够校平小的起伏，它的校平范围在 ± 4° 度之间。只要激光束不再移动，则表示测量仪已经完成找平的工作。

如果不可能进行找平， 例如测量仪器的放置位置的水平倾斜度超过 4° ， 激光会快速闪烁。如果启动了信号声功能，仪器会发出快速信号声，最长可达 30 秒。在开动仪器后 10 秒钟之内，这个警告功能便会被解除， 以便操作者能够调整好测量仪器。

把测量仪器摆好在水平的位置上，并且让仪器自动找平。只要测量仪器放置的位置在仪器自动找平的范围内 （± 4° 度），激光便会持续亮着而且信号声会被关闭。

如果在测量中途碰了仪器或移动了仪器，仪器会重新自动找平。此时，最好拿一个基准点重新检查水平激光束和垂直激光束的位置，以避免测量错误。

不使用自动找平功能时的测量工作

操作仪器时如果不想使用自动找平功能， 要将起停开关 **7** 推向 **"on"**。关闭了自动找平功能之后， 指示灯 **6** 会亮起红光，激光线段会缓慢地闪烁 30 秒。

关闭了自动找平功能后，便可以把测量仪拿在手上，或者放在合适的底垫上操作。进行交叉测量时，水平激光束和垂直激光束的交叉角便不会被强制成 90 度。

找平精度

影响精度的因素

操作环境的温度是最大的影响因素。尤其当温度从地面朝著天花板逐渐改变时，极可能改变激光束的投射方向。

由于接近地面的温度积层最大，所有当测量距离超过 20 米时最好把仪器安装在三脚架上。另外，尽可能把测量仪摆在测量场所的中央。

除了外来的影响因素之外，仪器本身的状况 （例如仪器摔落了或遭受强烈撞击）也会影响找平精度。所以操作仪器之前，一定要先检查仪器的精度。

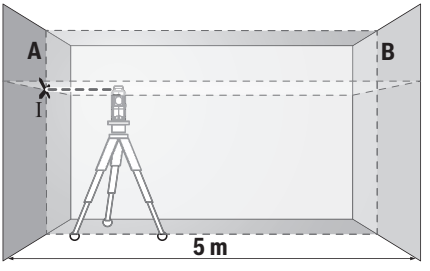
先检测水平激光线段的找平精度，接著再检查垂直激光线段的找平线段。

如果在检查时发现测量仪器的偏差超过最大极限。必须把仪器交给博世顾客服务处修理。

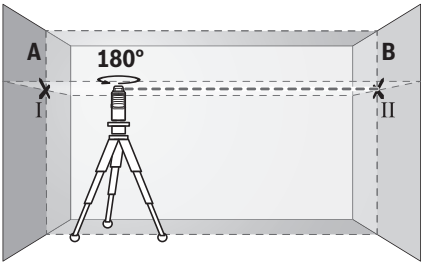
检查横轴的水平水准精度

针对这项检查，您必须找一段无障碍物的 5 米长线段，而且该测量线段必须介于两面墙 A 和 B 之间。

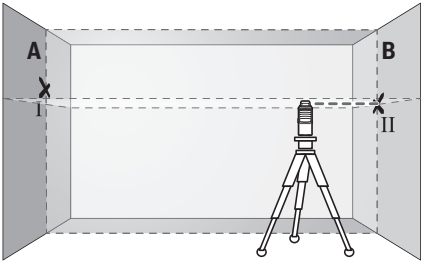
- 把测量仪安装在三脚架上，并把三角架摆在靠近墙 A 的位置，或者把仪器放置在靠近墙的坚实，平坦的地面上。开动测量仪，并选择有自动找平功能的交叉测量。



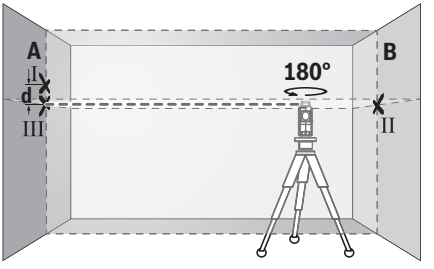
- 把激光束对准比较靠近的墙 A，并让测量仪找平。找出激光束在墙上的交叉点，并在该点的中心位置打上记号 （点 I）。



- 把测量仪旋转 180 度，让仪器找平。找出激光束在墙 B 上的交叉点，并在该点的中心位置打上记号 （点 II）。
- 把测量仪移近墙 B （无须旋转测量仪），开动测量仪，并让仪器找平。



- 调整测量仪的高度 （借助三脚架，必要时得使用垫块），让激光束的交叉点，准确地投射在墙 B 的点 II 上。



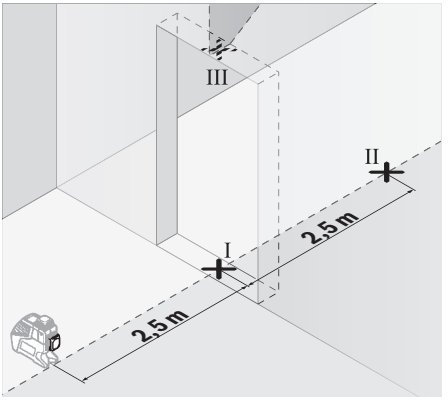
- 把测量仪旋转 180 度，但是不可改变测量仪的高度。调整测量仪，让垂直方向的激光束穿过墙 A 的点 I。让测量仪找平，并且在墙 A 的激光束交叉点上做记号 （点 III）。
- 墙 A 上点 I 和点 III 的差距 **d**，便是测量仪在横轴上的实际高度偏差。

测量的距离是 2 x 5 米 = 10 米。而最大的许可误差为：10 米 x ± 0.2 毫米 / 米 = ± 2 毫米 。
点 I 和点 III 的差距 **d** 不可以超过 2 毫米。

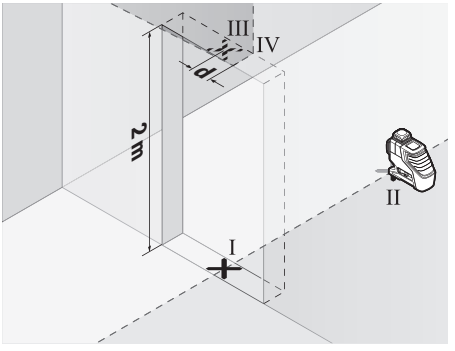
检查垂直方向的激光束的找平精度

针对这项检验，您必须寻找一处有门孔而且地板坚实的场地。此外，门孔的前后两侧至少要有 2.5 米的空间。

– 把测量仪放置在距离门孔 2.5 米处的坚实、平坦的地面上 （不可以使用三脚架）。让测量仪在垂直测量的功能上自动找平，并且把激光束朝向门孔。



– 找出投射在门孔地板上的垂直激光束的中心点，并在该中心点打上记号 （点 I）。在门孔的另一侧约 5 米远处再做一个记号 （点 II），在门孔的上缘做第三个记号 （点 III）。



– 先把测量仪器旋转 180 度 并将它放在门孔的另一侧，要直接放在点 II 之下。让测量仪器找平，调整垂直激光线段让激光束的中心点准确地穿过点 I 和点 II。
– 在门孔上缘的激光线段中心点打记号，并将它定为点 IV。
– 点 III 和点 IV 的差距 **d** 便是测量仪在垂直方向的实际偏差。
– 测量门孔的高度。

最大许可偏差的计算方式如下：
双倍门孔高度 x 0.2 毫米 ／ 米
例子：如果门孔的高度为 2 米，那麼最大的许可偏差为
2 x 2 米 x ±0.2 毫米 ／ 米 = ±0.8 毫米。 在接下的测量过程中点 III 和点 IV 的最大距离不可以超过 0.8 毫米。

有关操作方式的指点

▶ **记号一定要打在激光束的中心位置。** 激光束的宽度会随著距离的远近而改变。

使用激光靶工作

在工作环境条件不良以及测量距离遥远时，使用激光靶 **15** 可以改善激光光束的能见度。

激光靶 **15** 上的反射部分，能够改善激光的辨识度。如果使用激光靶的透明部分，也能够从激光靶的背面看见激光。

使用三脚架工作 （附件）

三脚架是稳固而且能够改变高度的测量底架。把测量仪器的 1／4" 三脚架接头 **9** 拧入三脚架 **22** 上的螺杆中，或一般的三脚架中。如果把仪器安装在一般的工地用三脚架上，则要使用 5／8" 的三脚架接头 **8**。使用三脚架上的固定螺丝固定好测量仪器。

使用通用支撑固定 （附件）（参考插图 D）

使用通用支架 **19** 可以将测量仪器固定在倾斜面、管子或能够让磁铁吸附的材料上。通用支撑也可以充当地面三脚架，它可以减轻调整测量仪器高度的工作。

使用测量板工作 （附件）（参考插图 A – B）

借助测量板 **16**，可以把地板上的激光记号点，或者把激光的高度转载到墙上。

使用零面和刻度盘可以测量改变高度后的位移距离，并且把它转载到其它的位置。因此不必重新调整测量仪的高度。

测量板 **16** 覆盖了反射膜，可以帮助操作者在远距离或日照强烈的环境中辨识激光束。当您的视线与激光平行时，才能体会反射膜的加强激光功能。

操作仪器时使用激光接收器 （附件）（参考插图 D）

在光线不利操作的环境中 （操作环境太亮，直接日照）以及测量距离很远时，为了容易辨识激光可以使用激光接收器 **17**。使用激光接收器时得开动脉冲功能（参考 " 脉冲功能 "，页数 175）。

激光辨识镜 （附件）

激光辨识镜会过滤周围环境的光线。因此激光束的红光会显得更亮。

▶ **激光辨识镜不可以充当防护眼镜。** 戴上激光辨识镜之后，可以帮助您辨识激光，它并不能保护您免受激光辐射伤害。

▶ **不可以使用激光辨识镜充当太阳眼镜，也不可以戴着激光辨识镜上街。** 激光辨识镜不具备防护紫外线的功能，并且会减弱您对颜色的识别能力。

工作范例 (参考插图 C – H)

有关测量仪器的使用范例请参考说插图说明。

维修和服务

维修和清洁

使用附带的保护套储存和携带仪器。

测量仪器必须随时保持清洁。

不可以把仪器放入水或其它的液体中。

使用潮湿，柔软的布擦除仪器上的污垢。不可以使用洗涤剂或溶剂清洁仪器。

务必定期清洁激光出口，清洁时不可以在出口残留绒毛。

虽然本公司生产的仪器在出厂之前都经过严格的品质检验，如果仍然发生故障，请将仪器交给博世电动工具公司授权的客户服务处修理。不可以擅自打开测量仪器。

查询和订购备件时，务必提供仪器铭牌上标示的 10 位数物品代码。

将仪器送修之前，必须先把仪器放入防护套 **18** 中。

顾客服务处和顾客咨询中心

本公司顾客服务处负责回答有关本公司产品的修理，维护和备件的问题。以下的网页中有爆炸图和备件的资料：

www.bosch-pt.com

博世顾客咨询团队非常乐意为您解答有关本公司产品及附件的问题。

有关保证，维修或更换零件事宜，请向合格的经销商查询。

中国大陆

博世电动工具（中国）有限公司
中国 浙江省 杭州市
滨江区滨康路 567 号
邮政编码：310052
免费服务热线： 4008268484
传真：(0571) 87774502
电邮：contact.ptcn@cn.bosch.com
www.bosch-pt.com.cn

羅伯特·博世有限公司
香港北角英皇道 625 號 21 樓
客戶服務熱線：+852 2101 0235
傳真：+852 2590 9762
電郵：info@hk.bosch.com
網站：www.bosch-pt.com.hk

制造商地址：

罗伯特博世有限公司
营业范围电动工具
邮箱号码 100156
70764 Leinfelden – Echterdingen （莱菲登 – 艾希德登）
Deutschland （德国）

处理废弃物

必须以符合环保要求的方式回收再利用损坏的仪器，附件和包装材料。

不可以把损坏的探测仪和蓄电池 / 电池丢弃在一般的家庭垃圾中！

只针对欧盟国家：

根据欧洲的法规 2012/19/EU，必须把不再使用的测量仪器，根据欧洲的法规 2006/66/EG，必须把损耗的蓄电池 / 电池，分开收集 并且以符合环保要求的方式回收再利用。

保留修改权。

中文

安全規章

線段激光測量儀器

為確保能夠安全地使用本測量工具，您必須完整詳讀本安全規章並確實遵照其內容。謹慎對待測量工具上的警告標示，絕對不可讓它模糊不清而無法辨識。請妥善保存本安全規章，將測量工具轉交給他人時應一併附上本安全規章。

- **注意 – 如果未按照本說明書中的指示操作儀器，未使用本說明書推薦的調整裝備，或者使用本儀器進行其它的用途，都可能導致危險的輻射爆炸。**
- **本測量儀器上貼著一個警戒牌（參考儀器詳解圖上，以號碼 12 標示的部位）。**

- **如果警戒牌不是以貴國語言書寫的，在首度使用機器之前，先將以貴國語言書寫的貼紙貼在該警戒牌上。**

勿將雷射光束正對人員或動物，您本身亦不應該盯著直射或反射的雷射光束。 因為它們可能會造成人員視盲進而導致意外事故發生，或者甚至傷害眼睛。

- **萬一雷射光不小心掃向眼睛，應機警地閉上眼睛並立刻將頭轉離光束範圍。**
- **請勿對本雷射裝備進行任何改造。**
- **雷射光束辨識鏡不可以充電防護眼鏡。** 戴上雷射光束辨識鏡之后，可以幫助您辨識雷射光束，它並不能保護您免受雷射光束輻射傷害。

- ▶ **不可以使用雷射光束辨識鏡充當太陽眼鏡，也不可以戴著雷射光束辨識鏡上街。** 雷射光束辨識鏡不具備防止紫外線功能，而且會減弱您對顏色的辨識能力。
- ▶ **本測量儀只能交給合格的專業人員修理，而且只能使用原廠的備件。** 如此才能夠確保儀器的安全性能。
- ▶ **不可以讓兒童在無人監護的情況下使用雷射光束測量儀。** 他們可能會因為輕心而擾亂旁人的視線。
- ▶ **不要在易爆環境，如有易燃液體、氣體或粉塵的環境下操作測量儀器。** 測量儀器內可能產生火花並點燃粉塵和氣體。

激光瞄準靶

不可以讓本測量儀器和激光靶 15 靠近心髒起搏器。 儀器和激光靶上的磁鐵會產生磁場，這個磁場會影響心髒起搏器的功能。

- ▶ **儀器和激光靶 15 都必須遠離帶磁性的記憶體 和容易受磁場干擾的機器。** 透過儀器和激光靶的磁鐵的干擾，可能造成無法捕救的資料損失。

產品和功率描述

請翻開標示了儀器圖解的折疊頁，閱讀本說明書時必須翻開折疊頁參考。

按照規定使用機器

本測量儀適合測量和檢驗水平線、垂直線。

噪音說明

訊號音在距離一公尺處的音壓強度評等為 A 級，其值為 80 dB(A)。

請勿將本測量工具直接靠在耳邊！

插圖上的機件

機件的編號和儀器詳解圖上的編號一致。

1 激光放射口
2 電池電量警告標志
3 脈沖功能鍵
4 脈沖功能顯示燈
5 操作功能轉換鍵
6 關閉自動找平功能時的指示燈
7 起停開關
8 5/8" 的三腳架接頭
9 1/4" 的三腳架接頭
10 電池盒蓋
11 電池盒蓋的固定扳扣
12 雷射光束警戒牌
13 序列號碼
14 磁鐵
15 雷射光束靶
16 帶腳架的測量板*
17 激光接收器*
18 保護套*
19 通用支撐*
20 伸縮桿*
21 雷射光束辨識鏡*
22 三腳架*

***插圖中或說明書中提到的附件，并不包含在正常的供貨範圍中。**

技術性數據

線段激光測量儀器	GLL 2–80 P
物品代碼	3 601 K63 2..
測量範圍[1]	
– 基本	20 米
– 使用脈沖功能	15 米
– 使用激光接收器	5 – 80 米
找平精度	±0.2 毫米 / 米
一般自動測平範圍	±4°
典型的找平時間	<4 秒
工作溫度範圍	– 10 ° C ... +45 ° C
儲藏溫度範圍	– 20 ° C ... +70 ° C
最大相對空氣濕度	90 %
雷射光束等級	2
雷射光束種類	640 納米，<1 豪瓦
C_6	1
最短的脈沖時間	1/1600 秒
三腳架接頭	1/4", 5/8"
電池	4 x 1.5 伏特 LR06 (AA)
操作時間	
– 使用 2 個激光平面	9 小時
– 使用 1 個激光平面	18 小時
重量符合 EPTA–Procedure 01/2003	0.7 公斤
尺寸 （長 x 寬 x 高）	159 x 54 x 141 毫米
保護種類	IP 54 （防灰塵和防水花）

1) 不良的測量環境（例如直接的日照）會縮小測量的範圍。
儀器銘牌上的序列號碼 （儀器詳解圖上標示 **13** 的位置）便是儀器的識別碼。

安裝

安裝 / 更換電池

操作本測量儀時最好使用鹼性錳電池。

打開電池盒蓋 **10** 時，得先朝著箭頭的方向推壓固定扳扣 **11**，接著再掀開電池盒蓋。安裝好附帶的電池。安裝時請注意電池極性的正確安裝方向，電池室中有正確的安裝參考圖。

電池如果太弱了，儀器會響起一道長達 5 秒鐘的信號聲。電池電量警告標志 **2** 會持續閃爍紅燈。此時測量儀器最多只能再使用 2 個小時。

如果在開動儀器時電池已經太弱了。開動之后儀器馬上就會發出一道長達 5 秒鐘的信號聲。

務必同時更換所有的電池。請使用同一制造廠商，容量相同的電池。

- ▶ **如果長期不使用測量儀，必須從測量儀器中取出電池。** 經過長期擱置，電池會腐蝕或自行放電。

正式操作

操作

- ▶ **在某些操作狀況下測量儀會發出響亮的信號聲。此時測量儀必須遠離耳朵和旁觀者。** 這個響亮的信號聲可能損壞您的聽覺。
- ▶ **不可以讓濕氣滲入儀器中，也不可以讓陽光直接照射在儀器上。**
- ▶ **儀器不可以曝露在極端的氣候下，也不可以把儀器放在溫差相當大的環境中。** 例如儀器不可以長期放置在汽車中。如果儀器先后曝露在溫差相當大的環境中，必須先等待儀器的溫度恢復正常後再使用儀器。如果儀器曝露在極端的氣候下或溫差相當大的環境中，會影響儀器的測量準確度。
- ▶ **不可以劇烈地撞、摔測量儀。** 儀器如果損壞了會影響測量精度。經過強烈的外力沖撞後，為了檢查儀器的測量精度，可以將激光線段或鉛垂光束和您熟悉的水平、垂直線段或經過檢驗的鉛垂點做比較。
- ▶ **搬運儀器之前必須先關閉儀器。** 關機後擺動零件會被鎖定，否則擺動零件可能因為強烈的震動而受損。

開動 / 關閉

開動測量儀器，把起停開關 **7** 推移到 **"on"** 位置（不使用自動找平功能操作儀器時），或 **"on"** 位置 （使用自動找平功能操作儀器時）。開機後測量儀器馬上從激光放射口 **1** 投射出激光線段。

- ▶ **不可以把雷射光束指向人或動物，您本人也不可以直視雷射光束。就算您與雷射光束之間尚有一段距離，也不可以忽視雷射光束的傷害力。**
- ▶ **看管好已經開動的儀器。使用完畢後務必隨手關閉儀器。** 雷射光束可能擾亂旁人的視線。

關閉測量儀器，把起停開關 **7** 推移到 **"off"** 位置。關閉儀器後，儀器的擺動單元會被鎖定。

如果超過最高許可操作溫度 45 ° C，儀器會自動關閉以便保護激光二極管。待測量儀器冷卻後又能夠再度操作，此時您又可以再度開動儀器了。

關閉儀器的自動關機功能

如果長達 30 分鐘未按下測量儀器上的任何按鍵，為了保護電池測量儀器會自動關閉。

在儀器自動關閉之后如果要再度啟動儀器，可以先將起停開關 **7** 推到 **"off"** 的位置，然后再重新開動儀器，或者按一次操作功能轉換鍵 **5** 或脈沖功能鍵 **3**。

要關閉自動關機功能，（如果測量儀器已經被啟動了）必須按住操作功能轉換鍵 **5**，最少按 3 秒鐘。在關閉了自動關機功能後，激光光束會短暫閃爍以做回應。

關閉測量儀器然后再開動儀器，或按住功能轉換鍵 **5** 至少 3 秒鐘，便可以再啟動自動關機功能。

關閉信號聲功能

開動測量儀器時信號聲功能便隨著被啟動。

要關閉或啟動信號聲必須同時按住操作功能轉換鍵 **5** 和脈沖功能鍵 **3**。至少得按住 3 秒鐘。

在關閉和啟動信號聲功能時，儀器都會發出三道短暫的信號聲來確認。

操作方式

本測量儀器有三種不同的測量功能，您可以隨時在這些功能之間進行轉換：

- 水平操作模式：會產生水平激光面，
- 垂直操作模式：會產生垂直激光面，
- 十字激光操作模式：會產生一個水平和一個垂直的激光面。

開動儀器後，測量儀是設定為水平找平。按下操作功能轉換鍵 **5** 後能夠改變儀器的測量功能。

進行以上三種測量方式時，可以開動自動找平功能或關閉自動找平功能。

脈沖功能

使用激光接收器 **17** 時，不管選擇何種測量方式，都必須開啟脈沖功能。

啟動脈沖功能後，激光線段會以極高的頻率閃爍，這樣激光接收器 **17** 才能夠接收儀器投射出的激光。

按下按鍵 **3** 可以開動脈沖功能。啟動脈沖功能之后顯示燈 **4** 會亮起綠光。

就肉眼而言，在啟動脈沖功能之后，激光線段的辨識程度會降低。因此不使用激光接收器時，最好重新按下按鍵 **3** 來關閉脈沖功能。關閉脈沖功能之后顯示燈 **4** 會熄滅。

自動找平功能

使用自動找平功能進行測量

把測量儀器放置在平坦、堅固的地面上，或者把它固定在支撐 **19** 或三腳架 **22** 上。

使用自動找平功能測量時必須把起停開關 **7** 推到 **"on"** 的位置。

自動找平功能能夠校平小的起伏，它的校平範圍在 ±4° 之間。只要激光束不再移動，則表示測量儀已經完成找平的工作。

如果不可能進行找平，例如測量儀器的放置位置的水平傾斜度超過 4° 度，激光會快速閃爍。如果啟動了信號聲功能，儀器會發出快速信號聲，最長可達 30 秒。在開動儀器后 10 秒鐘之內，這個警告功能便會被解除，以便操作者能夠調整好測量儀器。

把測量儀器擺好在水平的位置上，並且讓儀器自動找平。只要測量儀器放置的位置在儀器自動找平的範圍內 （±4° 度），激光便會持續亮著而且信號聲會被關閉。

如果在測量中途踫了儀器或移動了儀器，儀器會重新自動找平。此時，最好拿一個基準點重新檢查水平激光束和垂直激光束的位置，以避免測量錯誤。

不使用自動找平功能時的測量工作

操作儀器時如果不想使用自動找平功能，要將起停開關 **7** 推向 **"on"**。關閉了自動找平功能之後，指示燈 **6** 會亮起紅光，激光線段會緩慢地閃爍 30 秒。

關閉了自動找平功能後，便可以把測量儀拿在手上，或者放在合適的底墊上操作。進行交叉測量時，水平激光束和垂直激光束的交叉角便不會被強制成 90 度。

找平精度

影響精度的因素

操作環境的溫度是最大的影響因素。尤其當溫度從地面朝著天花板逐漸改變時，極可能改變激光束的投射方向。

由于接近地面的溫差最大，所以當測量距離超過 20 米時最好把測量儀安裝在三腳架上，另外盡可能把測量儀器放置在測量場所的中央。

除了外來的影響因素之外，儀器本身的狀況 （例如儀器摔落了或遭受強烈撞擊）也會影響找平精度。所以操作儀器之前，一定要先檢查儀器的精度。

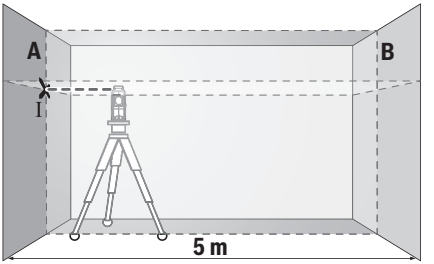
先檢測水平激光線段的找平精度，接著再檢查垂直激光線段的找平線段。

如果在檢查時發現測量儀器的偏差超過最大極限。必須把儀器交給博世顧客服務處修理。

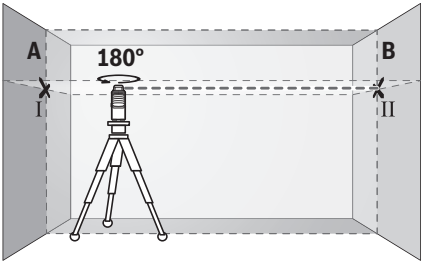
檢查橫軸的水平水準精度

針對這項檢查，您必須找一段無障礙物的 5 米長線段，而且該測量線段必須介于兩面牆 A 和 B 之間。

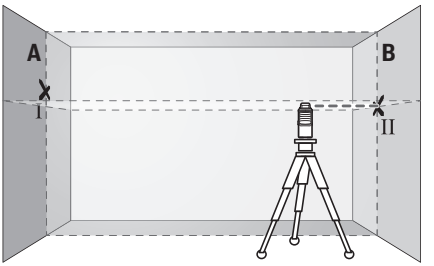
– 把測量儀安裝在三腳架上，並把三腳架擺在靠近牆 A 的位置，或者把儀器放置在靠近牆的堅實、平坦的地面上。開動測量儀，並選擇有自動找平功能的交叉測量。



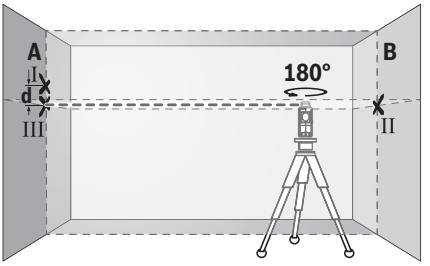
– 把激光束對準比較靠近的牆 A，並讓測量儀找平。找出激光束在牆上的交叉點，並在該點的中心位置打上記號 （點 I）。



– 把測量儀旋轉 180 度，讓儀器找平。找出激光束在牆 B 上的交叉點，並在該點的中心位置打上記號（點 II）。
– 把儀器移近牆 B （無須旋轉測量儀），開動測量儀，並讓儀器找平。



– 調整測量儀的高度 （借助三腳架，必要時得使用墊塊），讓激光束的交叉點，準確地投射在牆 B 的點 II 上。



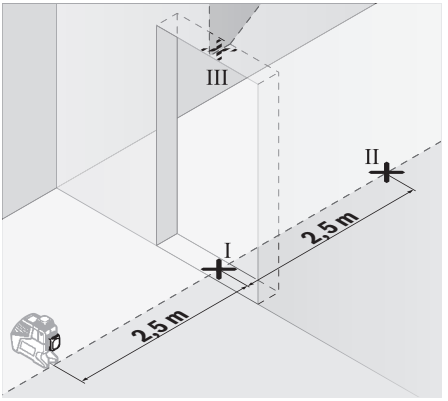
– 把測量儀旋轉180度，但是不可改變測量儀的高度。調整測量儀，讓垂直方向的激光束穿過牆 A 的點 I。讓測量儀找平，並且在牆 A 的激光束交叉點上做記號 （點 III）。
– 牆 A 上點 I 和點 III 的差距 **d**，便是測量儀在橫軸上的實際高度偏差。

測量的距離是 2 x 5 米 = 10 米。而最大的許可誤差為：
10 米 x ±0.2 毫米／米 = ±2 毫米。
點 I 和點 III 的差距 **d** 不可以超過 2 毫米。

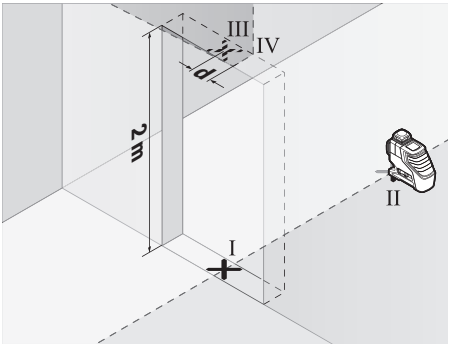
檢查垂直方向的激光束的找平精度

針對這項檢驗，您必須尋找一處有門孔而且地板堅實的場地。此外，門孔的前后兩側至少要有 2.5 米的空間。

– 把測量儀放置在距離門孔 2.5 米處的堅實、平坦的地面上 （不可以使用三腳架）。讓測量儀在垂直測量的功能上自動找平，並且把激光束朝向門孔。



– 找出投射在門孔地板上的垂直激光束的中心點，並在該中心點打上記號 （點 I）。在門孔的另一側約 5 米遠處再做一個記號 （點 II），在門孔的上緣做第三個記號 （點 III）。



– 先把測量儀器旋轉180度並將它放在門孔的另一側，要直接放在點 II 之下。讓測量儀器找平，調整垂直激光線段讓激光束的中心點準確地穿過點 I 和點 II。
– 在門孔上緣的激光線段中心點打記號，並將它定為點 IV。
– 點 III 和點 IV 的差距 **d** 便是測量儀在垂直方向的實際偏差。
– 測量門孔的高度。

最大許可偏差的計算方式如下：
雙倍門孔高度 x 0.2 毫米／米
例子：如果門孔的高度為 2 米，那麼最大的許可偏差為
2 x 2 米 x ±0.2 毫米／米 = ±0.8 毫米。在接下的測量過程中點 III 和點 IV 的最大距離不可以超過 0.8 毫米。

有關操作方式的指點

▶ **記號一定要打在激光束的中心位置。** 激光束的寬度會隨著距離的遠近而改變。

使用激光靶工作

在工作環境條件不良以及測量距離遙遠時，使用激光靶 **15** 可以改善激光光束的能見度。

激光靶 **15** 上的反射部分，能夠改善激光的辨識度。如果使用激光靶的透明部分，也能夠從激光靶的背面看見激光。

使用三腳架工作 （附件）

三腳架是穩固而且能夠改變高度的測量底架。把測量儀器的 1/4" 三腳架接頭 **9** 擰入三腳架 **22** 上的螺桿中，或一般的三腳架中。如果把儀器安裝在一般的工地用三腳架上，則要使用 5/8" 的三腳架接頭 **8**。使用三腳架上的固定螺絲固定好測量儀器。

使用通用支撐固定 （附件）（參考插圖 D）

使用通用支架 **19** 可以將測量儀器固定在傾斜面、管子或能夠讓磁鐵吸附的材料上。通用支撐也可以充當地面三腳架，它可以減輕調整測量儀器高度的工作。

使用測量板工作 （附件）（參考插圖 A – B）

借助測量板 **16**，可以把地板上的激光記號點，或者把激光的高度轉載到牆上。

使用零面和刻度盤可以測量改變高度後的位移距離，並且把它轉載到其它的位置。因此不必重新調整測量儀的高度。

測量板 **16** 覆蓋了反射膜，可以幫助操作者在遠距離或日照強烈的環境中辨識激光束。當您的視線與激光平行時，才能體會反射膜的加強激光功能。

操作儀器時使用激光接收器 （附件）（參考插圖 D）

在光線不利操作的環境中 （操作環境太亮，直接日照）以及測量距離很遠時，為了容易辨識激光可以使用激光接收器 **17**。使用激光接收器時得開動脈沖功能（參考 " 脈沖功能 "，頁數 180）。

激光辨識鏡 （附件）

激光辨識鏡會過濾周圍環境的光線。因此激光束的紅光會顯得更亮。

- ▶ **雷射光束辨識鏡不可以充電防護眼鏡。** 戴上雷射光束辨識鏡之后，可以幫助您辨識雷射光束，它並不能保護您免受雷射光束輻射傷害。
- ▶ **不可以使用雷射光束辨識鏡充當太陽眼鏡，也不可以戴著雷射光束辨識鏡上街。** 雷射光束辨識鏡不具備防止紫外線功能，而且會減弱您對顏色的辨識能力。

操作範例 （參考插圖 C – H）

有關測量儀器的使用範例請參考說插圖說明。

維修和服務

維修和清潔

使用附帶的保護套儲存和攜帶儀器。

測量儀器必須隨時保持清潔。

不可以把儀器放入水或其它的液體中。

使用潮濕、柔軟的布擦除儀器上的污垢。不可以使用洗滌劑或溶劑清潔儀器。

務必定期清潔激光出口，清潔時不可以在出口殘留絨毛。

雖然本公司生產的儀器在出廠之前都經過嚴格的品質檢驗，如果仍然發生故障，請將儀器交給博世電動工具公司授權的客戶服務處修理。不可以擅自打開測量儀器。

查詢和定購備件時，務必提供儀器銘牌上標示的 10 位數物品代碼。

將儀器送修之前，必須先把儀器放入防護套 **18** 中。

顧客服務處和顧客咨詢中心

本公司顧客服務處負責回答有關本公司產品的修理，維護和備件的問題。以下的網頁中有爆炸圖和備件的資料：

www.bosch-pt.com

博世顧客咨詢團隊非常樂意為您解答有關本公司產品及附件的問題。

台灣

台灣羅伯特博世股份有限公司
建國北路一段 90 號 6 樓
台北市 10491
電話：(02) 2515 5388
傳真：(02) 2516 1176
www.bosch-pt.com.tw

制造商地址：

羅伯特博世有限公司
營業範圍電動工具
郵箱號碼 100156
70764 Leinfelden – Echterdingen （萊菲登 – 艾希德登）
Deutschland （德國）

處理廢棄物

必須以符合環保要求的方式回收再利用損壞的儀器、附件和包裝材料。

不可以把損壞的測距儀和蓄電池 / 電池丟棄在一般的家庭垃圾中！

只針對歐盟國家：

根據歐洲的法規 2012/19/EU，必須把不再使用的測量儀器，根據歐洲的法規 2006/66/EG，必須把損耗的蓄電池 / 電池，分開收集 並且以符合環保要求的方式回收再利用。

保留修改權。

한국어

안전 수칙

라인 레이저 레벨

측정공구의 안전한 사용을 위해 모든 수칙들을 숙지하고 이에 유의하여 작업하시기 바랍니다. 측정공구의 경고판을 절대로 가려서는 안됩니다. 안전수칙을 잘 보관하고 공구 양도 시 측정공구와 함께 전달하십시오.

- **주의 – 여기에 나와있는 사용장치나 조절장치가 아닌 것을 사용하거나 다른 방법으로 작업할 경우 위험한 방사선 노출을 유발할 수 있습니다.**
- **본 측정공구는 경고판과 함께 공급됩니다 (측정공구 도면에 12 로 표시).**

- **경고판이 한국어로 되어 있지 않으면 처음 사용하기 전에 함께 공급되는 한국어 스티커를 그 위에 붙이십시오.**

사람이나 동물에게 레이저 광선을 비춰서는 안되며, 레이저의 직사광이나 반사광을 직접 쳐다봐서는 안됩니다. 사람의 눈이 멀거나 사고가 발생할 수 있으며, 눈에 손상을 입을 수 있습니다.

- **레이저 광선이 눈에 닿으면, 즉시 눈을 감고 광선을 피해 머리를 돌리십시오.**
- **레이저의 방향을 바꾸지 마십시오.**
- **레이저용 안경을 보안경으로 사용하지 마십시오.** 레이저용 안경은 레이저빔을 더 잘 보기 위해 사용하는 것으로 레이저 방사로부터 보호하지 않습니다.
- **레이저용 안경을 선글라스로 착용하거나 운전할 때 사용하지 마십시오.** 레이저용 안경을 사용해도 UV 자외선으로부터 완전히 보호할 수 없으며 색상 감별력이 감소합니다.
- **측정공구의 수리는 해당 자격을 갖춘 전문 인력에게 맡기고, 수리 정비 시 순정 부품만 사용하십시오.** 이 경우에만 측정공구의 안전성을 오래 유지할 수 있습니다.
- **레이저 측정공구를 어린이 혼자 사용하지 않도록 하십시오.** 실수로 다른 사람의 눈을 일시적으로 안 보이게 할 수 있습니다.
- **가연성 유체나 가스 혹은 분진 등 폭발 위험이 있는 곳에서 측정공구를 사용하지 마십시오.** 측정공구에 분진이나 증기를 점화하는 스파크가 생길 수 있습니다.

레이저 표적판

측정공구와 레이저 표적판 15 을 심장 박동 조절장치에 가까이 하지 마십시오. 측정공구와 레이저 표적판의 자석으로 인해 자기장이 형성되어 심장 박동 조절장치의 기능에 지장을 줄 수 있습니다.

- **측정공구와 레이저 표적판 15 를 자기 데이터 매체나 자력에 예민한 기기에서 멀리 두십시오.** 측정공구와 레이저 표적판의 자석의 영향으로 데이터가 영구적으로 손실될 수 있습니다.

제품 및 성능 소개

사용 설명서를 읽는 동안 측정공구의 그림이 나와있는 접힌 면을 펴 놓고 참고하십시오.

규정에 따른 사용

본 측정공구는 수평선과 수직선을 계산하고 확인하는데 사용해야 합니다.

소음에 관한 정보

신호음의 A– 분석 음압 레벨은 1 m 간격으로 80 dB(A) 에 달합니다.
측정공구를 귀 가까이로 가져가지 마십시오!

제품의 주요 명칭

제품의 주요 명칭에 표기되어 있는 번호는 측정공구의 그림이 나와있는 면을 참고하십시오.

1 레이저빔 발사구
2 배터리 경고 표시
3 펄스 기능 버튼
4 펄스 기능 표시기
5 작동 모드 버튼
6 자동 레벨링 기능 없이 작동 시 표시기
7 전원 스위치
8 삼각대 연결 부위 5/8"
9 삼각대 연결 부위 1/4"
10 배터리 케이스 덮개
11 배터리 케이스 덮개 잠금쇠
12 레이저 경고판
13 일련 번호
14 자석
15 레이저 표적판
16 받침대가 있는 측정판 *
17 레이저 리시버*
18 안전 케이스*
19 유니버설 홀더*
20 망원경*
21 레이저용 안경*
22 삼각대 *

***도면이나 설명서에 나와 있는 액세서리는 표준 공급부품에 속하지 않습니다.**

제품 사양

라인 레이저 레벨	GLL 2-80 P
제품 번호	3 601 K63 2..
작업 범위[1]	
- 일반	20 m
- 펄스 기능 사용 시	15 m
- 레이저 리시버 사용 시	5-80 m
레벨링 정확도	±0.2 mm/m
자동 레벨링 범위, 평균	±4°
레벨링 시간, 평균	〈4 s
작동 온도	− 10 °C ... +45 °C
보관 온도	− 20 °C ... +70 °C
상대 습도, 최대	90 %
레이저 등급	2
레이저 유형	640 nm, 〈1 mW
C_6	1
최단 펄스 지속기간	1/1600 s
삼각대 연결 부위	1/4", 5/8"
배터리	4 x 1.5 V LR06 (AA)
작동 시간	
- 2 레이저면	9 h
- 1 레이저면	18 h
EPTA 공정 01/2003 에 따른 중량	0.7 kg
크기 (길이 x 너비 x 높이)	159 x 54 x 141 mm
보호 등급	IP 54 (분진 및 튀기는 물에 안전함)

1) 직접 햇볕이 드는 등의 불리한 환경 조건에서는 작업 범위가 감소할 수 있습니다.

귀하의 측정공구를 정확히 식별하려면 타입 표시판에 나와있는 일련번호 **13** 을 확인하십시오.

조립

배터리 끼우기 / 교환하기

측정공구를 작동하기 위해 알칼리 망간 배터리를 사용하는 것이 좋습니다.

배터리 케이스 덮개 **10** 을 열려면 잠금쇠 **11** 를 화살표 방향으로 밀고 배터리 케이스 덮개를 젖히면 됩니다. 배터리를 끼우십시오. 이때 전극이 배터리 케이스 덮개 안쪽에 나와있는 것처럼 올바로 끼워야 합니다.

배터리가 약하면 5 초간 신호음이 한번 울립니다. 배터리 경고 표시 **2** 가 적색으로 계속 켜져 있습니다. 이 경우 측정공구를 최대한 2 시간 밖에 사용할 수 없습니다.

측정공구 스위치를 켤 때 배터리가 약한 경우 바로 신호음이 5 초간 길게 울립니다.

항상 배터리를 모두 동시에 교환해 주십시오. 반드시 제조사의 동일한 용량의 배터리만을 사용하십시오.

- ▶ **장시간 측정공구를 사용하지 않을 경우에는 배터리를 측정공구에서 빼십시오.** 오래 저장할 경우 배터리가 부식하거나 저절로 방전될 수 있습니다.

작동

기계 시동

- ▶ **측정공구로 작업할 때 일정한 조건이 되면 크게 신호음이 납니다. 그러므로 측정공구를 귀에서 멀리 두고 다른 사람이 가까이 있지 않도록 하십시오.** 큰 소리로 인해 청각이 손상될 수 있습니다.
- ▶ **측정공구가 물에 젖거나 직사 광선에 노출되지 않도록 하십시오.**
- ▶ **측정공구를 극심한 온도에서 혹은 온도 변화가 심한 곳에서 사용하지 마십시오.** 예를 들면 측정공구를 자동차 안에 장기간 두지 마십시오. 온도 변화가 심한 경우 측정공구를 사용하기 전에 우선 적당한 온도가 되도록 하십시오. 극심한 온도에서나 온도 변화가 심한 환경에서 사용하면 측정공구의 정확도가 떨어질 수 있습니다.
- ▶ **측정공구에 심하게 충격을 가하거나 떨어뜨리지 마십시오.** 측정공구가 손상되면 정확도에 지장이 있을 수 있습니다. 측정공구에 무리한 외부의 작용이 가해진 경우 정확도를 확인하기 위해 레이저선이나 연직 빔을 이미 있는 가로나 세로로 직각인 기준선이나 확인된 연직점과 비교해 보십시오.
- ▶ **측정공구를 운반할 때 반드시 스위치를 끄십시오.** 스위치가 꺼진 상태에서는 레벨링 장치가 잠겨 있어 심한 움직임에 손상될 염려가 없습니다.

스위치 켜기 / 끄기

측정공구를 **작동하려면** 전원 스위치 **7** 을 **“on”** 위치나 (자동 레벨링 기능 없이 작업할 경우) 혹은 **“on”** 위치로 밉니다 (자동 레벨링 기능으로 작업할 경우). 측정공구의 스위치를 켜면 즉시 레이저빔 발사구 **1** 에서 레이저빔이 발사됩니다.

- ▶ **레이저빔을 사람이나 동물에 향하지 않도록 하고, 먼 거리에서라도 레이저빔 안으로 들여다 보지 마십시오.**
- ▶ **측정공구가 켜져 있는 상태에서 자리를 비우지 말고, 사용 후에는 측정공구의 스위치를 끄십시오.** 레이저빔으로 인해 다른 사람의 눈을 일시적으로 안 보이게 할 수 있습니다.

측정공구의 **스위치를 끄려면** 전원 스위치 **7** 을 **“off”** 위치로 밉니다. 스위치를 끄면 레벨링 장치가 잠기게 됩니다.

최고 허용 운전온도 45°C 를 초과하면 측정공구가 레이저 다이오드를 보호하기 위해 자동으로 꺼집니다. 냉각된 후에 측정공구 작동이 가능하게 되며 스위치를 다시 켤 수 있습니다.

자동 꺼짐 기능 해제하기

측정공구에 약 30 분간 아무런 버튼도 작동하지 않으면 배터리를 보호하기 위해 측정공구가 자동으로 꺼집니다.

자동으로 꺼진 측정공구를 다시 작동하려면 전원 스위치 **7** 을 **“off”** 위치로 밀었다가 측정공구 스위치를

다시 켜거나, 작동 모드 버튼 **5** 나 펄스 기능 버튼 **3** 을 한번 누르면 됩니다.

자동 꺼짐 기능을 해제하려면, (측정공구가 켜진 상태에서) 작동 모드 버튼 **5** 를 3 초 이상 누르십시오. 자동 꺼짐 기능이 해제되면 이를 표시하기 위해 레이저빔이 잠시 깜박입니다.

자동 꺼짐 기능을 다시 작동하려면 측정공구의 스위치를 껐다가 다시 켜거나, 작동 모드 버튼 **5** 를 적어도 3 초 이상 누르면 됩니다.

신호음 기능 해제하기

측정공구의 스위치를 켜면 항상 신호음 기능이 작동합니다.

신호음 기능을 해제하거나 작동하려면 작동 모드 버튼 **5** 와 펄스 기능 버튼 **3** 을 동시에 최소한 3 초 동안 누르면 됩니다.

이 기능의 작동과 해제를 확인하는 의미에서 신호음이 세번 짧게 납니다.

작동 모드

측정공구에는 세가지 작동 모드가 있으며 언제든지 변경이 가능합니다:

- 수평 모드: 수평 레이저면 발사,
- 수직 모드: 수직 레이저면 발사,
- 크로스라인 모드: 수평 및 수직의 레이저면 발사.

측정공구의 스위치를 켜면 수평 모드로 설정되어 있습니다. 작동 모드를 변경하려면 작동 모드 버튼 **5** 를 누르십시오.

세 가지 작동 모드는 모두 자동 레벨링 기능을 작동하거나 해제한 상태로 선택할 수 있습니다.

펄스 기능

레이저 리시버 **17** 을 사용하여 작업하려면 – 선택된 모드에 관계없이 – 반드시 펄스 기능을 작동해야 합니다.

펄스 기능을 작동할 경우 레이저 선이 아주 높은 주파수로 깜박이기 때문에 레이저 리시버 **17** 에서 포착됩니다.

펄스 기능을 작동하려면 버튼 **3** 을 누릅니다. 펄스 기능이 작동하면 표시기 **4** 가 녹색으로 켜집니다.

펄스 기능이 켜져 있으면 사람의 눈에 레이저 선의 가시성이 감소합니다. 그렇기 때문에 레이저 리시버 없이 작업할 경우 버튼 **3** 을 다시 한번 눌러 펄스 기능을 해제하십시오. 펄스 기능이 해제되면 표시기 **4** 가 꺼집니다.

자동 레벨링 기능

자동 레벨링 기능으로 작업하기

측정공구를 평평하고 단단한 바닥에 놓거나, 홀더 **19** 가나 삼각대 **22** 에 고정하십시오.

자동 레벨링 기능으로 작업하려면 전원 스위치 **7** 을 **“on”** 위치로 밉니다.

자동 레벨링 기능은 자동 레벨링 범위 ±4° 내에서 평평하지 않은 상태를 자동으로 보정합니다. 레이저 선이 더 이상 움직이지 않으면 레벨링이 끝난 것입니다.

측정공구가 위치한 바닥면이 4° 이상 경사져 있어서 자동 레벨링 기능이 불가능하면 레이저 선이 빠른 속도로 깜박이기 시작합니다. 신호음 기능이 켜진 상태라면 이 경우 최대 30 초까지 빠른 속도로 신호음이 납니다. 스위치를 켠 후 10 초 동안은 측정공구를 제대로 세울 수 있도록 이 경고음이 나지 않습니다.

측정공구를 수평이 되게 놓고 자동 레벨링이 될 때까지 기다리십시오. 측정공구가 자동 레벨링 범위인 ±4° 내에 있게되면 레이저빔이 계속 발사되고 신호음이 꺼집니다.

사용 중에 흔들림이 있거나 위치가 바뀌게 되면 측정공구가 다시 자동으로 레벨링 보정됩니다. 새로 보정된 후에 에러를 방지하기 위해 수평 및 수직의 레이저 선이 기준점에 맞는지 그 위치를 확인해 보십시오.

자동 레벨링 기능 없이 작업하기

자동 레벨링 기능 없이 작업하려면 전원 스위치 **7** 을 **“on”** 위치로 밉니다. 자동 레벨링 기능이 꺼진 경우 표시기 **6** 에서 적색등이 켜지며 30 초 동안 레이저 선이 천천히 깜박입니다.

자동 레벨링 기능이 해제된 경우 측정공구를 손에 들고 있거나 경사진 바닥에 놓아도 됩니다. 크로스라인 작동 모드 경우 두 개의 레이저 선이 항상 직각으로 만나지 않습니다.

레벨링 정확도

정확도에 미치는 영향

가장 큰 영향을 미치는 것은 주위 온도입니다. 특히 바닥에서부터 위로 가면서 온도 차가 있으면 레이저빔이 굴절될 수 있습니다.

바닥 가까이에서 온도 변화가 가장 심하므로 20 m 이상의 거리를 측정할 경우 반드시 측정공구를 삼각대에 조립하여 사용해야 합니다. 또한 가능하면 측정공구를 작업 표면의 중심에 세우십시오.

외적인 영향 이외에도 또한 떨어뜨리거나 강한 충격 등 기기에 가해지는 영향으로 인해 편차가 발생할 수 있습니다. 그러므로 작업을 시작하기 전에 항상 측정공구의 정확도를 확인하십시오.

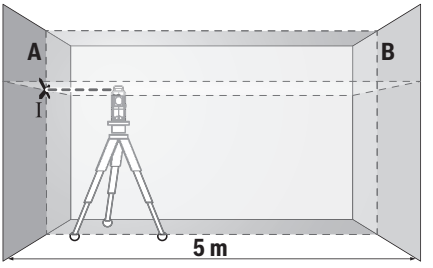
항상 수평 레이저 선의 정확도를 먼저 확인하고나서 수직 레이저 선 정확도를 확인하십시오.

정확도 확인 시 측정공구가 한번이라도 최대 편차를 초과할 경우 보쉬 서비스 센터에 맡겨 수리하십시오.

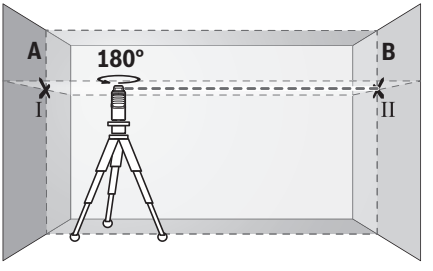
가로축의 수평 레벨링 정확도 테스트하기

이 테스트를 하려면 벽 A 와 B 사이에 단단한 바닥이 있는 5 m 구간의 빈 공간이 필요합니다.

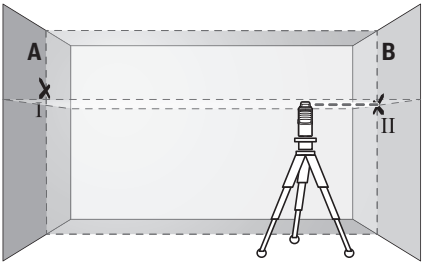
- 측정공구를 벽 A에 가까이하여 삼각대에 조립하거나 단단하고 평평한 바닥에 놓으십시오. 측정공구의 스위치를 켠 다음, 자동 레벨링 기능이 있는 크로스라인 작동 모드를 선택하십시오.



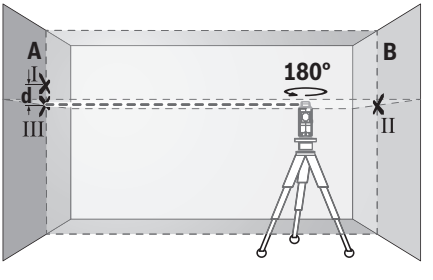
- 레이저를 가까이 있는 벽 A 에 항하게 하고 측정공구가 레벨링하도록 하십시오. 벽에 레이저 선이 서로 교차하는 점의 중심을 표시하십시오 (점 I).



- 측정공구를 180° 돌리고, 다시 레벨링하게 한 후 건너편 벽 B 에 레이저 선의 교차하는 점을 표시하십시오 (점 II).
- 측정공구를 –돌리지 않은 상태로 – 벽 B 에 가까이 두고 스위치를 켠 후 레벨링이 되도록 합니다.



- (삼각대를 사용하거나 혹은 받침대를 사용하여) 측정공구의 레이저 선 교차점이 벽 B 에 이전에 표시했던 점 II 와 정확히 일치하도록 하여 그 높이를 맞춥니다.



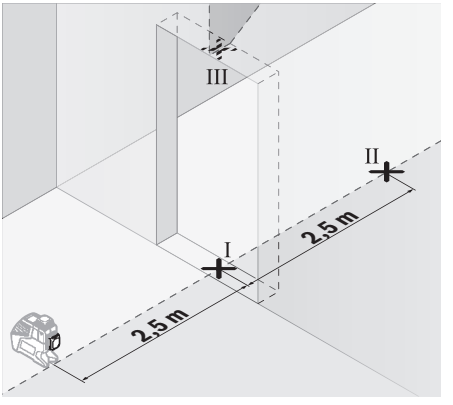
- 높이를 변경하지말고 측정공구를 180° 돌리십시오. 측정공구를 수직 레이저 선이 이미 표시된 점 I 을 통과하도록 하여 벽 A 에 맞추십시오. 측정공구를 레벨링하게 한 후 벽 A 에 레이저 선의 교차점을 표시하십시오 (점 III).
- 벽 A 에 표시된 두 점 I 과 III 의 차이 **d** 는 측정공구의 가로축의 실제 높이 편차입니다.

측정 구간 2 x 5 m = 10 m 의 경우 최대 허용 편차는 다음과 같습니다:
10 m x ±0.2 mm/m = ±2 mm 입니다.
그러므로 점 I 과 III 사이의 간격 **d** 는 반드시 2 mm 이하이어야 합니다.

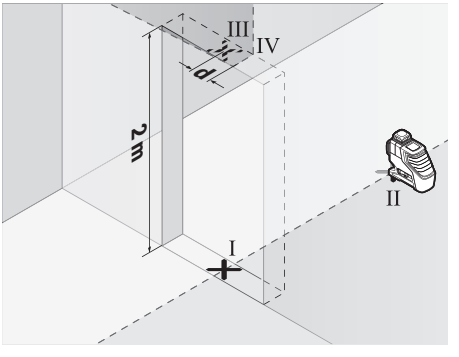
수직선의 레벨링 정확도 확인하기

이 테스트를 하려면 (단단한 바닥에) 문의 양쪽으로 최소한 2.5 m 의 자리가 있는 곳이 필요합니다.

- 측정공구를 문에서 2.5 m 거리에 단단하고 평평한 바닥에 (삼각대를 사용하지 말고) 놓으십시오. 측정공구를 수직 모드로 상태로 자동 레벨링 기능으로 보정한 후에 레이저 선을 문 쪽으로 향하게 합니다.



- 수직 레이저 선의 중심을 문 바닥에 (지점 I), 문의 다른 쪽에 5 m 떨어진 거리에 (지점 II) 그리고 문 위쪽 면에 (지점 III) 에 각각 표시합니다.



- 측정공구를 180° 돌려 문 건너편에 점 II 바로 뒤에 놓으십시오. 측정공구를 레벨링하고 나서 수직 레

이저선의 중심이 정확히 점 I 과 II 를 통과하도록 맞추십시오 .
- 문 위쪽에 레이저 선의 중심을 점 IV 로 표시하십시오 .
- 표시된 두 점 III 과 IV 의 차이 **d** 가 측정공구의 수직 실제 편차입니다 .
- 문 부위의 높이를 측정하십시오 .

최대 허용 편차는 다음과 같이 계산할 수 있습니다 :
문 높이의 2 배 x 0.2 mm/m
실례 : 문 높이가 2 m 인 경우 최대 편차는
2 x 2m x ±0.2 mm/m = ±0.8 mm 입니다 . 그러므로 점 III 과 IV 의 간격은 0.8 mm 이하이어야 합니다 .

사용방법

▶ **표시할 때 반드시 레이저 선의 중심점을 사용하십시오 .** 레이저 선의 폭이 거리에 따라 변화합니다 .

레이저 표적판으로 작업하기

레이저 표적판 **15** 를 사용하면 작업 조건이 불리하거나 먼 거리에서 작업할 때 가시성이 개선됩니다 .

레이저 표적판 **15** 의 절반 정도 반사된 빔은 레이저 선의 가시성을 보완해 주며 , 통과한 절반 정도의 빔을 통해 레이저 표적판 반대편에서도 역시 레이저 선을 알아볼 수 있습니다 .

삼각대를 사용한 작업 (별매 액세서리)

삼각대를 사용하면 바닥이 안정되고 높이를 조절할 수 있는 장점이 있습니다 . 1/4"– 삼각대 연결 부위 **9** 이 있는 측정공구를 삼각대 **22** 이나 시중에서 구매가 가능한 카메라 삼각대의 나사에 끼우십시오 . 시중에서 구매 가능한 건축용 삼각대를 고정하려면 5/8"– 삼각대 연결 부위 **8** 을 사용하십시오 . 삼각대의 잠금 나사로 측정공구를 조이십시오 .

유니버설 홀더로 고정하기 (별매 액세서리) (그림 D 참조)

유니버설 홀더 **19** 를 사용하면 측정공구를 수직면 , 파이프 혹은 자화 가능한 (자기를 띠게 할 수 있는) 소재에 고정할 수 있습니다 . 유니버설 홀더는 또한 스탠드로도 적당하며 측정공구의 높이를 맞추는데 도움이 됩니다 .

측정판을 사용한 작업 (별매 액세서리) (그림 A – B 참조)

측정판 **16** 을 사용하면 바닥에 레이저 표시를 하거나 벽에 레이저 높이를 투영할 수 있습니다 .

제로 부위와 눈금으로 원하는 높이에 대한 차이를 측정할 수 있으며 다른 위치에서 다시 투영될 수 있습니다 . 그러므로 표시하려는 높이에서 측정공구를 정확히 설정하지 않아도 됩니다 .

측정판 **16** 에서는 반사 코팅이 되어 있어 먼 거리에서 혹은 강한 태양 광선에서도 레이저빔을 잘 볼 수 있습니다 . 레이저빔과 평행하게 측정판을 볼 경우에만 명암의 강도가 개선된 것을 확인할 수 있습니다 .

레이저 리시버와 함께 작업하기 (별매 액세서리) (그림 D 참조)

조명 상태가 좋지 않은 조건 (주위가 밝거나 직사 광선의 경우) 혹은 측정 거리가 먼 경우에 작업할 때 레이저 선를 잘 포착하기 위해 레이저 리시버 **17** 을 사용하십시오 . 레이저 리시버를 사용할 경우 펄스 기능을 작동하십시오 (“ 펄스 기능 ” 참조 , 186 면).

레이저용 안경 (별매 액세서리)

레이저용 안경은 주위의 광선을 필터링하여 레이저의 적색 광선을 눈에 더 잘 보이게 합니다 .

▶ **레이저용 안경을 보안경으로 사용하지 마십시오 .** 레이저용 안경은 레이저빔을 더 잘 보기 위해 사용하는 것으로 레이저 방사로부터 보호하지 않습니다 .

▶ **레이저용 안경을 선글라스로 착용하거나 운전할 때 사용하지 마십시오 .** 레이저용 안경을 사용해도 UV 자외선으로부터 완전히 보호할 수 없으며 색상 감별력이 감소합니다 .

작업 실례 (그림 C–H 참조)

측정공구의 사용방법의 실례는 그림이 나와있는 면을 참고하십시오 .

보수 정비 및 서비스

보수 정비 및 유지

반드시 측정공구를 함께 공급된 안전 케이스에 넣어 보관하고 운반하십시오 .

항상 측정공구를 깨끗이 유지하십시오 .

측정공구를 물이나 다른 액체에 넣지 마십시오 .

물기있는 부드러운 천으로 오염된 부위를 깨끗이 닦으십시오 . 세척제나 용제를 사용하지 마십시오 .

특히 레이저빔 발사구 표면을 정기적으로 깨끗이하고 보푸라기가 없도록 하십시오 .

세심한 제작과 검사에도 불구하고 측정공구가 불량한 경우가 있다면 보쉬 지정 전동공구 서비스 센터에 수리를 의뢰하십시오 . 측정공구를 직접 열어 분해하지 마십시오 .

문의 사항이 있거나 스패어 부품을 주문할 때 반드시 측정공구의 타입 표시판에 적힌 10 자리의 제품 번호를 알려 주십시오 .

수리를 해야 할 경우 측정공구를 안전 케이스 **18** 에서 넣어 보내 주십시오 .

보쉬 AS 및 고객 상담

보쉬는 귀하의 제품 및 수리에 관한 문의를 받고 있습니다 .
AS 센터 정보 및 제품에 대한 고객 상담은 하기 고객콜센터 및 이메일 상담을 이용해주시기 바랍니다 .
고객 콜센터 : 080–955–0909
이메일 상담 :
Bosch–pt.hotline@kr.bosch.com

한국로버트보쉬 (주)

경기도 용인시 기흥구 보정동 298 번지
www.bosch-pt.co.kr

처리

측정공구, 액세서리 및 포장 등은 친환경적인 방법으로 재활용될 수 있도록 분류하십시오.

측정공구와 배터리 팩 / 배터리를 가정용 쓰레기로 처리하지 마십시오!

EU 국가만 해당 :

측정공구 폐품에 관한 EU 지침 2012/19/EU 에 따라, 그리고 EU 지침 2006/66/EG 에 따라 고장나거나 소모된 배터리 팩 / 배터리는 분리 수거하여 환경 친화적인 방법으로 재활용하도록 해야 합니다.

위 사항은 사전 예고 없이 변경될 수도 있습니다.

ภาษาไทย

กฎระเบียบเพื่อความปลอดภัย

กล้องเลเซอร์แบบเส้น

ต้องอ่านและปฏิบัติตามคำแนะนำทั้งหมดเพื่อจะได้สามารถใช้เครื่องมือวัดทำงานได้อย่างปลอดภัยอย่าทำให้ป้ายเตือนที่อยู่บนเครื่องมือวัดนี้ลบเลือนเก็บรักษาคำแนะนำเหล่านี้ไว้ให้ดี และหากเครื่องมือวัดนี้ถูกส่งต่อไปยังผู้อื่นให้ส่งมอบคำแนะนำเหล่านี้ไปด้วย

- **ข้อควรระวัง – การใช้อุปกรณ์ปฏิบัติงานหรืออุปกรณ์ปรับแต่งอื่นๆ หรือการใช้วิธีการทำงานที่นอกเหนือไปจากที่กล่าวถึงในที่นี้ อาจทำให้ได้รับรังสีที่เป็นอันตรายได้**
- **เครื่องมือวัดนี้จัดส่งมาพร้อมป้ายเตือน (หมายเลข 12 ในภาพประกอบของเครื่องมือวัด)**

- **หากข้อความของป้ายเตือนไม่ได้พิมพ์เป็นภาษาของท่าน ก่อนใช้งานครั้งแรก ให้ติดป้ายเตือนที่พิมพ์เป็นภาษาของท่านที่จัดส่งมาทับลงบนป้ายเดิม**

อย่าส่องลำแสงเลเซอร์ไปยังคนหรือสัตว์และตัวท่านเองอย่าจ้องมองลำแสงเลเซอร์โดยตรงหรือลำแสงเลเซอร์ที่สะท้อน ในลักษณะนี้จะสามารถทำให้คนตาพร่า ก่อให้เกิดอุบัติเหตุ หรือทำลายดวงตาได้

- **ถ้าแสงเลเซอร์เข้าตา ต้องปิดตาและหันศีรษะออกจากลำแสงในทันที**
- **อย่าทำการเปลี่ยนแปลงใดๆ ที่อุปกรณ์เลเซอร์**
- **อย่าใช้แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์เป็นแว่นนิรภัย** แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ใช้สำหรับมองลำแสงเลเซอร์ให้เห็นชัดเจนขึ้น แต่ไม่ได้ช่วยป้องกันรังสีจากลำแสงเลเซอร์
- **อย่าใช้แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์เป็นแว่นกันแดดหรือใส่ขับรถยนต์** แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ไม่สามารถป้องกันรังสีอัลตราไวโอเลต (UV) ได้อย่างสมบูรณ์ และยังทำให้มองเห็นแสงสีไม่ชัดเจน
- **การซ่อมแซมเครื่องมือวัดควรทำโดยผู้เชียวชาญและใช้อะไหล่แท้เท่านั้น** ทั้งนี้เพื่อให้มั่นใจได้ว่าสามารถใช้งานเครื่องมือวัดได้อย่างปลอดภัยเสมอ
- **อย่าให้เด็กใช้เครื่องมือวัดด้วยเลเซอร์โดยไม่มีผู้ควบคุมดูแล** เด็กๆ อาจทำให้ผู้อื่นตาบอดโดยไม่ตั้งใจ
- **อย่าใช้เครื่องมือวัดในบรรยากาศที่มีโอกาสระเบิด เช่น ในบริเวณที่มีของเหลวติดไฟได้ แก๊ส หรือฝุ่นละออง** ในเครื่องมือวัดสามารถเกิดประกายไฟซึ่งอาจจุดฝุ่นละอองหรือไอระเหยให้ติดไฟได้

แผ่นเป้าหมายเลเซอร์

ต้องกันเครื่องมือวัดและแผ่นเป้าหมายเลเซอร์ 15 ให้ห่างจากเครื่องปรับจังหวะการเต้นของหัวใจด้วยไฟฟ้า แม่เหล็กของเครื่องมือวัดและแผ่นเป้าหมายเลเซอร์จะสร้างสนามแม่เหล็ก ซึ่งสามารถทำให้เครื่องปรับจังหวะการเต้นของหัวใจด้วยไฟฟ้าทำงานบกพร่องได้

- **ต้องกันเครื่องมือวัดและแผ่นเป้าหมายเลเซอร์ 15 ให้ห่างจากสื่อนำข้อมูลที่มีคุณสมบัติเป็นแม่เหล็กและอุปกรณ์ที่ไวต่อแรงดึงดูดแม่เหล็ก** แม่เหล็กของเครื่องมือวัดและแผ่นเป้าหมายเลเซอร์สามารถทำให้ข้อมูลสูญหายอย่างเรียกกลับไม่ได้

รายละเอียดผลิตภัณฑ์และข้อมูลจำเพาะ

โปรดคลี่หน้าที่พับไว้ซึ่งแสดงภาพประกอบเครื่องมือวัด และคลี่ไว้ตลอดเวลาที่อ่านหนังสือคู่มือการใช้งาน

ประโยชน์การใช้งาน

เครื่องมือวัดนี้ใช้สำหรับกำหนดและตรวจสอบเส้นแนวนอนและแนวตั้ง

ข้อมูลเสียง

ระดับความดันเสียงถ่วงน้ำหนักแบบ A
ของสัญญาณเสียงที่ระยะหนึ่งเมตรคือ 80 dB(A)
อย่าถือเครื่องมือวัดใกล้หูของท่าน!

ส่วนประกอบผลิตภัณฑ์

ลำดับเลขของส่วนประกอบผลิตภัณฑ์อ้างถึงส่วนประกอบของเครื่องมือวัดที่แสดงในหน้าภาพประกอบ

1 ช่องทางออกลำแสงเลเซอร์
2 ไฟเตือนแบตเตอรี่ต่ำ
3 ปุ่มฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น
4 สัญลักษณ์ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น
5 ปุ่มรูปแบบการทำงาน
6 ไฟแสดงการทำงานโดยไม่มีการทำระดับอัตโนมัติ
7 สวิทช์เปิด-ปิด
8 ช่องประกอบของขาตั้งแบบสามขาขนาด 5/8"
9 ช่องประกอบของขาตั้งแบบสามขาขนาด 1/4"
10 ฝาแบตเตอรี่
11 ตัวล็อคฝาแบตเตอรี่
12 ป้ายเตือนแสงเลเซอร์
13 หมายเลขเครื่อง
14 แม่เหล็ก
15 แผ่นเป้าหมายเลเซอร์
16 แผ่นวัดพร้อมขาตั้ง*
17 อุปกรณ์รับแสงเลเซอร์*
18 กระเป๋าใส่เครื่องมือวัด*
19 ด้ามจับอเนกประสงค์*
20 ก้านแบบชักยืดได้*
21 แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์*
22 ขาตั้งแบบสามขา*

***อุปกรณ์ประกอบในภาพประกอบหรือในคำอธิบาย ไม่รวมอยู่ในการจัดส่งมาตรฐาน**

ข้อมูลทางเทคนิค

กล้องเลเซอร์แบบเส้น	GLL 2-80 P
หมายเลขสินค้า	3 601 K63 2..
ย่านการทำงาน[1)]	
– มาตรฐาน	20 ม.
– ใช้ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น	15 ม.
– ใช้อุปกรณ์รับแสงเลเซอร์	5–80 ม.
ความแม่นยำการทำระดับ	±0.2 มม./ม.
ย่านการทำระดับอัตโนมัติ ปกติ	±4 °
ระยะเวลาทำระดับ ปกติ	<4 วินาที
อุณหภูมิปฏิบัติงาน	–10 °C ... +45 °C
อุณหภูมิเก็บรักษา	–20 °C ... +70 °C
ความชื้นสัมพัทธ์ สูงสุด	90 %
ระดับเลเซอร์	2
ชนิดเลเซอร์	640 nm, <1 mW
C_6	1
ช่วงส่งคลื่นสั้นที่สุด	1/1600 วินาที
ช่องประกอบกับขาตั้งแบบสามขา	1/4", 5/8"

1) ย่านการทำงานอาจลดลงหากมีสภาวะแวดล้อมที่ไม่เหมาะสม (ต.ย. เช่น แสงอาทิตย์ส่องโดยตรง)

เครื่องมือวัดนี้มีหมายเลขเครื่อง **13** บนแผ่นป้ายรุ่น

กล้องเลเซอร์แบบเส้น	GLL 2-80 P
แบตเตอรี่	4 x 1.5 โวลท์ LR06 (AA)
ระยะเวลาทำงาน	
– ใช้ 2 ระนาบเลเซอร์	9 ชั่วโมง
– ใช้ 1 ระนาบเลเซอร์	18 ชั่วโมง
น้ำหนักตามระเบียบการ-EPTA-Procedure 01/2003	0.7 กก.
ขนาด (ความยาว x ความกว้าง x ความสูง)	159 x 54 x 141 มม.
ระดับการคุ้มกัน	IP 54 (ป้องกันฝุ่นและน้ำกระเด็นเปียก)

1) ย่านการทำงานอาจลดลงหากมีสภาวะแวดล้อมที่ไม่เหมาะสม (ต.ย. เช่น แสงอาทิตย์ส่องโดยตรง)

เครื่องมือวัดนี้มีหมายเลขเครื่อง **13** บนแผ่นป้ายรุ่น

การประกอบ

การใส่/การเปลี่ยนแบตเตอรี่

ขอแนะนำให้ใช้แบตเตอรี่แบบอัลคาไลน์แมงกานีสกับเครื่องมือวัดนี้

เปิดฝาแบตเตอรี่ **10** โดยดันตัวล็อค **11** ไปตามทิศลูกศรและพับฝาแบตเตอรี่ขึ้น ใส่แบตเตอรี่เข้าไป ขณะใส่แบตเตอรี่ต้องดูให้ขั้วแบตเตอรี่อยู่ในตำแหน่งที่ถูกต้องตามที่กำหนดไว้ที่ด้านในฝาแบตเตอรี่

หากแบตเตอรี่อ่อน เสียงสัญญาณจะดังขึ้นหนึ่งครั้งนาน 5 วินาที ไฟเตือนแบตเตอรี่ต่ำ **2** กะพริบสีแดงอย่างต่อเนื่อง เครื่องมือวัดสามารถทำงานต่อไปได้ไม่เกิน 2 ชั่วโมง

หากแบตเตอรี่อ่อนขณะเปิดเครื่องมือวัด เสียงสัญญาณจะดังขึ้นนาน 5 วินาทีในทันทีที่เปิดสวิทช์เครื่องมือวัด

เปลี่ยนแบตเตอรี่ทุกก้อนพร้อมกันเสมอ โดยใช้แบตเตอรี่ยี่ห้อเดียวกันทั้งหมดและมีความจุเท่ากันทุกก้อน

▶ **เมื่อไม่ใช้งานเป็นเวลานาน ให้นำแบตเตอรี่ออกจากเครื่องมือวัด** หากใส่แบตเตอรี่ทิ้งไว้นานๆ แบตเตอรี่จะเกิดการกัดกร่อนและปล่อยประจุไฟฟ้าออกมา

การปฏิบัติงาน

การเริ่มต้นใช้งาน

▶ **ภายใต้เงื่อนไขบางประการ ขณะทำงานเครื่องมือวัดจะปล่อยสัญญาณเสียงดังออกมา ดังนั้นต้องเอาเครื่องมือวัดออกห่างจากหูของท่านหรือบุคคลอื่น** สัญญาณเสียงดัง อาจทำให้การได้ยินบกพร่องได้

▶ **ป้องกันไม่ให้เครื่องมือวัดได้รับความชื้นและโดนแสงแดดส่องโดยตรง**

▶ **อย่าให้เครื่องมือวัดได้รับอุณหภูมิที่สูงมาก หรือรับอุณหภูมิที่เปลี่ยนแปลงมาก** ตัวอย่าง เช่น อย่าปล่อยเครื่องไว้ในรถยนต์เป็นเวลานาน ในกรณีที่อุณหภูมิมีการเปลี่ยนแปลงมาก ต้องปล่อยให้เครื่องมือวัดปรับเข้ากับอุณหภูมิรอบด้านก่อนใช้เครื่องทำงาน ในกรณีที่ได้รับอุณหภูมิที่สูงมาก หรือรับอุณหภูมิที่เปลี่ยนแปลงมาก เครื่องมือวัดอาจมีความแม่นยำน้อยลง

- ▶ **หลีกเลี่ยงอย่าให้เครื่องมือวัดตกหล่นหรือถูกกระทบอย่างแรง** ความเสียหายที่เกิดกับเครื่องมือวัดอาจทำให้ความแม่นยำของเครื่องลดน้อยลง เมื่อเครื่องมือวัดถูกกระทบกระแทกอย่างแรงให้เทียบเส้นเลเซอร์หรือลำแสงแนวดิ่งกับเส้นอ้างอิงในแนวนอนหรือแนวตั้งที่รู้จัก หรือกับจุดดิ่งที่ได้ตรวจสอบแล้ว
- ▶ **ปิดเครื่องมือวัดขณะเคลื่อนย้าย** เมื่อปิดสวิทช์ ชุดทำระดับจะถูกล็อค ถ้าไม่เช่นนั้นการเคลื่อนไหวอย่างรุนแรงอาจทำให้ชุดทำระดับเสียหายได้

การเปิดและปิดเครื่อง

เปิดเครื่องมือวัดทำงานโดยดันสวิทช์เปิด-ปิด **7** ไปที่ตำแหน่ง **"on"** (เมื่อทำงานโดยไม่มีการทำระดับอัตโนมัติ) หรือไปที่ตำแหน่ง **"on"** (เมื่อทำงานด้วยการทำระดับอัตโนมัติ) ทันทีที่เปิดสวิทช์ เครื่องมือวัดจะปล่อยลำแสงเลเซอร์ออกจากช่องทางออก **1**

- ▶ **อย่าส่องลำแสงเลเซอร์ไปยังคนหรือสัตว์ และอย่าจ้องมองลำแสงเลเซอร์แม้จะอยู่ในระยะไกล**
- ▶ **อย่าเปิดเครื่องมือวัดทิ้งไว้โดยไม่ควบคุมดูแล และให้ปิดเครื่องมือวัดหลังใช้งาน** ลำแสงเลเซอร์อาจทำให้บุคคลอื่นตาพร่าได้

ปิดเครื่องมือวัดโดยดันสวิทช์เปิด-ปิด **7** ไปที่ตำแหน่ง **"off"** เมื่อปิดสวิทช์ ชุดทำระดับจะถูกล็อค

หากเครื่องมีอุณหภูมิเกินกว่าอุณหภูมิการใช้งานสูงสุดที่อนุญาตคือ 45 °C เครื่องจะปิดสวิทช์ ทั้งนี้เพื่อปกป้องหลอดเลเซอร์แบบไดโอด เมื่อเครื่องเย็นลงแล้ว เครื่องพร้อมจะทำงาน ให้เปิดสวิทช์เครื่องอีกครั้งได้

การยกเลิกการปิดอัตโนมัติ

หากไม่มีการกดปุ่มใดๆ ที่เครื่องมือวัดเป็นเวลานานประมาณ 30 นาที เครื่องมือวัดจะปิดสวิทช์โดยอัตโนมัติเพื่อปกป้องแบตเตอรี่

เมื่อต้องการเปิดสวิทช์เครื่องมือวัดหลังการปิดสวิทช์โดยอัตโนมัติ ให้ดันสวิทช์เปิด-ปิด **7** ไปที่ตำแหน่ง **"off"** และจากนั้นจึงเปิดสวิทช์เครื่องมือวัดอีกครั้งหนึ่ง หรือให้กดปุ่มรูปแบบการทำงาน **5** หนึ่งครั้ง หรือกดปุ่มฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น **3** หนึ่งครั้ง

เมื่อต้องการยกเลิกการปิดสวิทช์โดยอัตโนมัติ ให้กดปุ่มรูปแบบการทำงาน **5** นานอย่างน้อยที่สุด 3 วินาที (ขณะเครื่องมือวัดเปิดสวิทช์อยู่) เพื่อยืนยันการยกเลิกการปิดสวิทช์โดยอัตโนมัติ ลำแสงเลเซอร์จะกะพริบขึ้นสั้นๆ

เมื่อต้องการเรียกใช้งานการปิดสวิทช์โดยอัตโนมัติ ให้ปิดสวิทช์เครื่องมือวัดและเปิดสวิทช์อีกครั้ง หรือกดปุ่มรูปแบบการทำงาน **5** ค้างไว้นานอย่างน้อยที่สุด 3 วินาที

การยกเลิกเสียงสัญญาณ

เมื่อเปิดสวิทช์เครื่องมือวัด เสียงสัญญาณจะทำงานเสมอ

หากต้องการยกเลิก/เรียกใช้งานเสียงสัญญาณ ให้กดปุ่มรูปแบบการทำงาน **5** และปุ่มฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น **3** พร้อมๆ กัน ค้างไว้นานอย่างน้อยที่สุด 3 วินาที

เพื่อยืนยันการยกเลิกและการเรียกใช้งานเสียงสัญญาณ จะมีเสียงปี๊บสั้นๆ ดังขึ้นสามครั้งสำหรับทั้งสองกรณี

วิธีการปฏิบัติงาน

เครื่องมือวัดนี้มีรูปแบบการทำงานสามประเภท ซึ่งท่านสามารถสับเปลี่ยนใช้ได้ทุกเวลา:

- การทำงานตามแนวนอน: ผลิตระนาบเลเซอร์แนวนอน
- การทำงานตามแนวตั้ง: ผลิตระนาบเลเซอร์แนวตั้ง
- การทำงานแบบเส้นกากบาท: ผลิตระนาบเลเซอร์แนวนอนและแนวตั้ง

เมื่อเปิดสวิทช์ เครื่องมือวัดอยู่ในรูปแบบการทำงานตามแนวนอน ให้กดปุ่มรูปแบบการทำงาน **5** เพื่อเปลี่ยนรูปแบบการทำงาน

ท่านสามารถเลือกทำงานด้วยการทำระดับอัตโนมัติหรือไม่มีการทำระดับอัตโนมัติกับทั้งสามรูปแบบการทำงาน

ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น (pulse)

เมื่อทำงานกับอุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ **17** ต้องเรียกใช้งานฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น – ไม่ว่าจะเลือกรูปแบบการทำงานใดก็ตาม

ในฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น เส้นเลเซอร์จะกะพริบที่ความถี่สูงมาก และด้วยเหตุนี้อุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ **17** จึงสามารถค้นพบเส้นเลเซอร์

เมื่อต้องการเปิดสวิทช์ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น ให้กดปุ่ม **3** เมื่อฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้นเปิดสวิทช์อยู่ สัญลักษณ์ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น **4** สีเขียวจะติดขึ้น

เมื่อฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้นเปิดสวิทช์อยู่ ความสามารถของตามนุษย์ในการมองเห็นเส้นเลเซอร์จะลดลง ดังนั้นเมื่อทำงานโดยไม่มีอุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ จึงต้องปิดฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้นโดยกดปุ่ม **3** อีกครั้ง เมื่อฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้นปิดสวิทช์อยู่ สัญลักษณ์ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น **4** จะดับลง

การทำระดับอัตโนมัติ

การทำงานด้วยการทำระดับอัตโนมัติ

วางเครื่องมือวัดบนอุปกรณ์หนุนที่มั่นคงและราบเสมอกันประกอบเครื่องเข้ากับด้ามจับ **19** หรือกับขาตั้งแบบสามขา **22**

เมื่อทำงานด้วยการทำระดับอัตโนมัติ ให้ดันสวิทช์เปิด-ปิด **7** ไปที่ตำแหน่ง **"on"**

เมื่อเปิดสวิทช์ ฟังชั่นการทำระดับจะปรับความไม่ราบเรียบให้สมดุลภายในย่านการทำระดับอัตโนมัติ ±4° ได้เอง การทำระดับสิ้นสุดลงทันทีที่ลำแสงเลเซอร์ไม่เคลื่อนไหวอีกต่อไป

หากไม่สามารถทำระดับอัตโนมัติได้ ต.ย. เช่น เนื่องจากพื้นผิวที่เครื่องมือวัดตั้งอยู่ เบี่ยงเบนมากกว่า 4° จากระนาบราบ ลำแสงเลเซอร์จะเริ่มกะพริบอย่างรวดเร็ว เมื่อมีการเรียกใช้เสียงสัญญาณ สัญญาณจังหวะเร็วๆ จะดังขึ้นนาน 30 วินาที (สูงสุด) เสียงบอกเหตุนี้จะถูกยกเลิกภายใน 10 วินาทีหลังเปิดสวิทช์ เพื่อปล่อยให้เครื่องมือวัดทำการปรับตั้งเครื่องมือวัดในตำแหน่งราบ และรอให้เกิดการทำระดับอัตโนมัติ ในทันทีที่เครื่องมือวัดอยู่ภายในย่านการทำระดับอัตโนมัติ ±4° ลำแสงเลเซอร์ทั้งหมดจะติดขึ้นอย่างต่อเนื่อง และเสียงสัญญาณจะปิดสวิทช์ลง

ในกรณีที่พื้นสั่นสะเทือนหรือเปลี่ยนตำแหน่งขณะทำงาน เครื่องมือวัดจะทำระดับโดยอัตโนมัติอีกครั้ง เพื่อหลีกเลี่ยง

ความผิดพลาด ให้ตรวจสอบตำแหน่งของเส้นเลเซอร์แนวนอน และแนวตั้งกับจุดอ้างอิงเมื่อทำระดับซ้ำอีกครั้ง

การทำงานโดยไม่มีการทำระดับอัตโนมัติ

สำหรับการทำงานโดยไม่มีการทำระดับอัตโนมัติ ให้ดันสวิทช์เปิด-ปิด **7** ไปที่ตำแหน่ง **"on"** เมื่อการทำระดับอัตโนมัติปิดสวิทช์ ไฟ **6** จะติดขึ้นสีแดง และใน 30 วินาทีแรก ลำแสงเลเซอร์จะกะพริบอย่างช้าๆ

เมื่อการทำระดับอัตโนมัติปิดสวิทช์อยู่ ท่านสามารถใช้มือถือเครื่องมือวัดหรือวางเครื่องบนพื้นผิวลาดเอียงได้ ในการทำงานแบบกากบาท เส้นเลเซอร์สองเส้นไม่จำเป็นต้องวิ่งทำมุมฉากซึ่งกันและกัน

ความแม่นยำการทำระดับ

ผลกระทบต่อความแม่นยำ

อุณหภูมิรอบด้านมีผลต่อความแม่นยำมากที่สุด โดยเฉพาะอย่างยิ่งความแตกต่างของอุณหภูมิจากพื้นขึ้นไปที่ระดับสูงกว่าสามารถเบี่ยงเบนลำแสงเลเซอร์ได้

เนื่องจากบริเวณใกล้พื้นมีการผันผวนของขั้นอุณหภูมิมากที่สุด ดังนั้นเมื่อระยะทางวัดไกลกว่า 20 ม. จึงควรประกอบเครื่องมือวัดเข้ากับขาตั้งแบบสามขาเสมอ หากเป็นไปได้ให้ตั้งเครื่องมือวัดไว้กลางพื้นที่ทำงานด้วย

นอกจากผลกระทบจากภายนอกแล้ว ผลกระทบโดยเฉพาะต่อตัวเครื่อง (เช่น ถูกกระแทกอย่างแรงหรือตกพื้น) สามารถทำให้เกิดความเบี่ยงเบนได้ ดังนั้นต้องตรวจสอบความแม่นยำของเครื่องมือวัดทุกครั้งก่อนเริ่มทำงาน

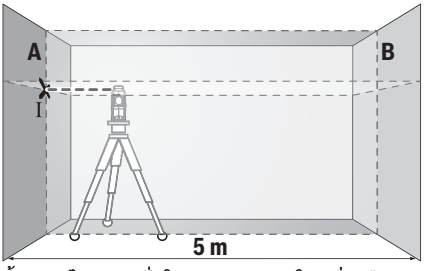
ในขั้นแรก ให้ตรวจสอบความแม่นยำการทำระดับของเส้นเลเซอร์แนวนอน จากนั้นจึงตรวจสอบความแม่นยำการทำระดับของเส้นเลเซอร์แนวตั้ง

หากเครื่องมือวัดมีความเบี่ยงเบนมากกว่าความเบี่ยงเบนสูงสุดในขณะทำการทดสอบครั้งใดครั้งหนึ่ง กรุณาส่งเครื่องให้ศูนย์บริการหลังการขาย บ๊อช ช่อมแซม

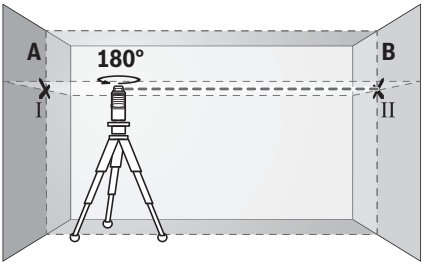
การตรวจสอบความแม่นยำการทำระดับแนวนอนสำหรับแกนขวาง

สำหรับการตรวจสอบ ต้องใช้ระยะทางวัดว่างเปล่ายาว 5 ม. บนพื้นผิวที่มั่นคงระหว่างผนัง A และ B

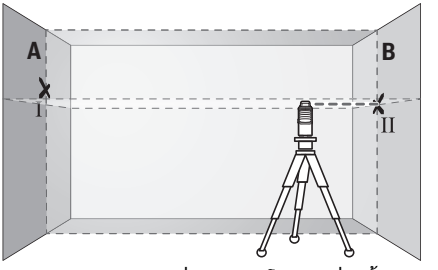
– ประกอบเครื่องมือวัดเข้าบนขาตั้งแบบสามขา หรือวางเครื่องบนพื้นผิวที่มั่นคงและราบเสมอกันใกล้กับผนัง A เปิดสวิทช์เครื่องมือวัด เลือกการทำงานแบบกากบาท พร้อมกับการทำระดับอัตโนมัติ



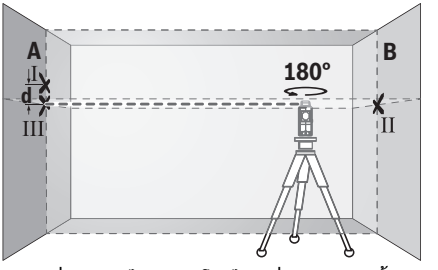
– ชี้เลเซอร์ไปยังผนังฝั่งใกล้ A และปล่อยให้เครื่องมือวัดทำระดับ ทำเครื่องหมายตรงกลางจุดตรงที่เส้นเลเซอร์ไขว้กันบนผนัง (จุด I)



– หมุนเครื่องมือวัดไป 180° ปล่อยให้เครื่องมือวัดทำระดับและทำเครื่องหมายที่จุดไขว้ของเส้นเลเซอร์บนผนังฝั่งตรงข้าม B (จุด II)
– วางเครื่องมือวัดใกล้ผนัง B โดยไม่หมุนเครื่อง เปิดสวิทช์เครื่องมือวัดและปล่อยให้ทำระดับ



– วางแนวความสูงของเครื่องมือวัด (โดยปรับที่ขาตั้งแบบสามขาหรือใช้สิ่งของรองข้างใต้ หากจำเป็น) ในลักษณะให้จุดไขว้ของเส้นเลเซอร์ตกลงบนจุดเครื่องหมายอันก่อน II บนผนัง B อย่างพอดิบพอดี



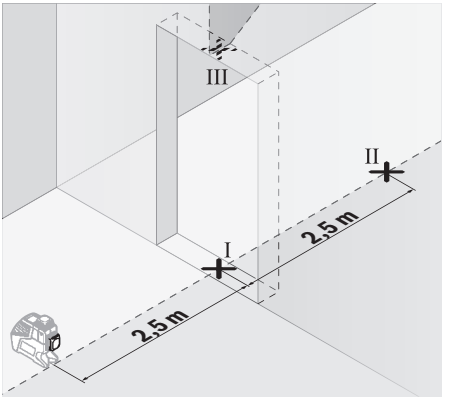
– หมุนเครื่องมือวัดไป 180° โดยไม่เปลี่ยนความสูง ชี้เลเซอร์ไปยังผนัง A ในลักษณะให้เส้นเลเซอร์แนวตั้งวิ่งผ่านจุดที่ทำเครื่องหมายไว้แล้ว I ปล่อยให้เครื่องมือวัดทำระดับ และทำเครื่องหมายที่จุดไขว้ของเส้นเลเซอร์บนผนัง A (จุด III)
– ความต่าง **d** ของจุดเครื่องหมายทั้งสอง I และ III บนผนัง A แสดงความเบี่ยงเบนความสูงของเครื่องมือวัดตามทางแกนขวางในขณะนั้น

บนระยะทางราบของ 2 x 5 ม. = 10 ม. ความเบี่ยงเบนสูงสุดที่อนุญาตคือ:
10 ม. x ±0.2 มม./ม. = ±2 มม.
ดังนั้น ความต่าง **d** ระหว่างจุด I และ III ต้องไม่มากกว่า 2 มม. (สูงสุด)

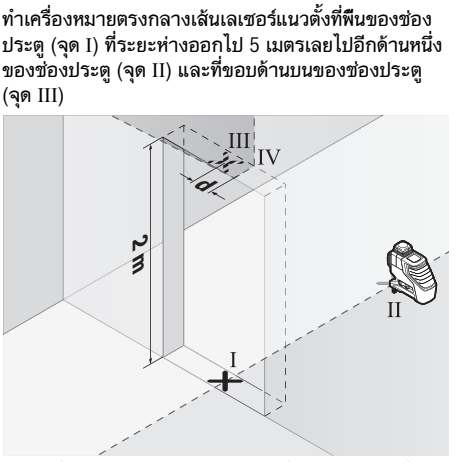
การตรวจสอบความแม่นยำการทำระดับของเส้นแนวตั้ง

สำหรับการตรวจสอบ ต้องใช้ช่องประตูที่มีพื้นที่ว่างแต่ละด้านห่างจากประตูอย่างน้อย 2.5 เมตร (บนพื้นผิวที่มั่นคง)

- วางเครื่องมือวัดบนพื้นผิวที่มั่นคงและราบเสมอกัน (ไม่วางบนขาตั้งแบบสามขา) ให้ห่างจากช่องประตู 2.5 ม. ปล่อยให้เครื่องมือวัดทำระดับขณะอยู่ในรูปแบบการทำงานตามแนวตั้งพร้อมการทำระดับอัตโนมัติ และชี้ลำแสงเลเซอร์ไปที่ช่องประตู



- ทำเครื่องหมายตรงกลางเส้นเลเซอร์แนวตั้งที่พื้นของช่องประตู (จุด I) ที่ระยะห่างออกไป 5 เมตรเลยไปอีกด้านหนึ่งของช่องประตู (จุด II) และที่ขอบด้านบนของช่องประตู (จุด III)



- หมุนเครื่องมือวัดไป 180° และวางเครื่องไว้อีกด้านหนึ่งของช่องประตูตรงเผงหลังจุด II ปล่อยให้เครื่องมือวัดทำระดับ และวางแนวเส้นเลเซอร์แนวตั้งในลักษณะให้จุดกลางของเส้นเลเซอร์วิ่งผ่านจุด I และ II อย่างพอดิบพอดี
- ทำเครื่องหมายตรงกลางเส้นเลเซอร์ที่ขอบด้านบนของช่องประตูให้เป็นจุด IV
- ความต่าง **d** ของจุดเครื่องหมายทั้งสอง III และ IV แสดงความเบี่ยงเบนของเครื่องมือวัดจากเส้นดิ่งในขณะนั้น
- วัดความสูงของช่องประตู

ความเบี่ยงเบนสูงสุดที่อนุญาตคำนวณดังต่อไปนี้:
สองเท่าของความสูงช่องประตู x 0.2 มม./ม.
ตัวอย่าง: สำหรับความสูงช่องประตู 2 ม. ความเบี่ยงเบนสูงสุดควรเป็น
2 x 2 ม. x ±0.2 มม./ม. = ±0.8 มม. ดังนั้นจุด III และ IV ต้องห่างจากกันไม่มากกว่า 0.8 มม. (สูงสุด)

ข้อแนะนำในการทำงาน

- ▶ **ทำเครื่องหมายตรงกลางเส้นเลเซอร์เสมอ** ความกว้างของเส้นเลเซอร์เปลี่ยนไปตามระยะทาง

การทำงานกับแผ่นเป้าหมายเลเซอร์

แผ่นเป้าหมายเลเซอร์ **15** ช่วยให้มองเห็นลำแสงเลเซอร์ได้ดียิ่งขึ้นในสภาวะที่ไม่เหมาะสมและในระยะทางไกลๆ

ส่วนสะท้อนกลับของแผ่นเป้าหมายเลเซอร์ **15** ช่วยให้มองเห็นเส้นเลเซอร์ได้ดียิ่งขึ้น เนื่องจากมีส่วนโปร่งใส จึงสามารถมองเห็นเส้นเลเซอร์จากทางด้านหลังของแผ่นเป้าหมายเลเซอร์ได้ด้วย

การทำงานกับขาตั้งแบบสามขา (อุปกรณ์ประกอบ)

ขาตั้งแบบสามขาช่วยให้สามารถวัดได้อย่างมั่นคงและปรับความสูงได้ สวมเครื่องมือวัดผ่านช่องประกอบของขาตั้งแบบสามขาขนาด 1/4" **9** เข้ากับนเกลียวของขาตั้งแบบสามขา **22** หรือขาตั้งกล้องที่มีจำหน่ายทั่วไป สำหรับการยึดกับขาตั้งก่อสร้างที่มีจำหน่ายทั่วไป ให้ใช้ช่องประกอบของขาตั้งแบบสามขาขนาด 5/8" **8** และขันสกรูล็อคของขาตั้งแบบสามขาเข้าให้แน่น

การยึดกับด้ามจับอเนกประสงค์ (อุปกรณ์ประกอบ) (ดูภาพประกอบ D)

เมื่อใช้ด้ามจับอเนกประสงค์ **19** ช่วย ท่านสามารถติดเครื่องมือวัด ต.ย. เช่น เข้ากับพื้นผิวแนวตั้ง ท่อ หรือวัตถุที่ทำให้เป็นแม่เหล็กได้ เป็นต้น ด้ามจับอเนกประสงค์ยังเหมาะสำหรับใช้เป็นขาตั้งแบบสามขาชนิดตั้งพื้น และทำให้ปรับความสูงของเครื่องมือวัดได้ง่ายขึ้นด้วย

การทำงานกับแผ่นวัด (อุปกรณ์ประกอบ) (ดูภาพประกอบ A–B)

แผ่นวัด **16** ช่วยให้สามารถคัดลอกเส้นเลเซอร์ไว้บนพื้นหรือคัดลอกความสูงเลเซอร์ไว้บนผนังได้

ท่านสามารถใช้จุดศูนย์และมาตราส่วนเพื่อวัดส่วนต่างของความสูงที่ต้องการและนำไปวางเทียบยังสถานที่จุดอื่น ทั้งนี้เพื่อตัดปัญหาการปรับตั้งเครื่องมือวัดไปยังความสูงที่จะต้องคัดลอก ซึ่งต้องปรับตั้งอย่างเที่ยงตรง

แผ่นวัด **16** เคลือบสารสะท้อนกลับที่ช่วยให้มองเห็นลำแสงเลเซอร์ได้ชัดเจนขึ้นในระยะทางไกลๆ หรือเมื่ออยู่ท่ามกลางแสงแดดจ้า ท่านจะเห็นความสว่างที่เข้มข้นเฉพาะเมื่อมองขนานคู่กับลำแสงเลเซอร์ไปยังแผ่นวัดเท่านั้น

การทำงานกับอุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ (อุปกรณ์ประกอบ) (ดูภาพประกอบ D)

ในสภาวะแสงที่ไม่เหมาะสม (สภาพแวดล้อมที่สว่างจ้าแสงแดดส่องตรง) และสำหรับระยะทางราบที่ไกลๆ ให้ใช้อุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ **17** เพื่อค้นหาเส้นเลเซอร์ได้ง่ายขึ้น เมื่อทำงานกับอุปกรณ์รับแสงเลเซอร์ ให้เปิดสวิทช์ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น (ดู "ฟังชั่นการยิงแสงเป็นช่วงสั้น (pulse)" หน้า 191)

แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ (อุปกรณ์ประกอบ)

แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ช่วยกรองแสงสว่างรอบด้านออกไป ทำให้ตามองเห็นแสงสีแดงของเลเซอร์ได้ชัดเจนขึ้น

- ▶ **อย่าใช้แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์เป็นแว่นนิรภัย** แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ใช้สำหรับมองลำแสงเลเซอร์ ให้เห็นชัดเจนขึ้น แต่ไม่ได้ช่วยป้องกันรังสีจากลำแสงเลเซอร์
- ▶ **อย่าใช้แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์เป็นแว่นกันแดดหรือใส่ขับรถยนต์** แว่นสำหรับมองแสงเลเซอร์ไม่สามารถป้องกันรังสีอัลตราไวโอเลต (UV) ได้อย่างสมบูรณ์ และยังทำให้มองเห็นแสงสีไม่ชัดเจน

ตัวอย่างการปฏิบัติงาน (ดูภาพประกอบ C–H)

ตัวอย่างการใช้งานของเครื่องมือวัด กรุณาดูในหน้าแสดงภาพ

การบำรุงรักษาและการบริการ

การบำรุงรักษาและการทำความสะอาด

เก็บรักษาและขนย้ายเครื่องมือวัดเฉพาะเมื่อบรรจุอยู่ภายในกระเป๋าใส่เครื่องมือวัดที่จัดมาให้เท่านั้น

รักษาเครื่องมือวัดให้สะอาดตลอดเวลา

อย่าจุ่มเครื่องมือวัดลงในน้ำหรือของเหลวอื่นๆ

เช็ดสิ่งสกปรกออกด้วยผ้านุ่มที่เปียกหมาดๆ ห้ามใช้สารทำความสะอาดหรือสารละลายใดๆ

ทำความสะอาดพื้นผิวตรงช่องทางออกลำแสงเลเซอร์เป็นประจำ และเอาใจใส่อย่าให้ขุยผ้าติด

เครื่องมือวัดนี้ผ่านกรรมวิธีการผลิตและการทดสอบอย่างละเอียดถี่ถ้วนมาแล้ว ถึงกระนั้น หากเครื่องเกิดขัดข้อง ต้องส่งเครื่องให้ศูนย์บริการหลังการขายที่ได้รับมอบหมายสำหรับเครื่องมือไฟฟ้า บ๊อช ซ่อมแซม อย่าเปิดเครื่องมือวัดด้วยตัวเอง

เมื่อต้องการสอบถามและสั่งซื้ออะไหล่ กรุณาแจ้งหมายเลขสินค้า 10 หลักบนแผ่นป้ายรุ่นของเครื่องมือวัดทุกครั้ง

ในกรณีซ่อมแซม ให้ส่งเครื่องมือวัดโดยบรรจุลงในกระเป๋าใส่เครื่องมือวัด **18**

การบริการหลังการขายและคำแนะนำการใช้งาน

ศูนย์บริการหลังการขายของเรายินดีตอบคำถามเกี่ยวกับการบำรุงรักษาและการซ่อมแซมผลิตภัณฑ์ของท่าน รวมทั้งชิ้นส่วนอะไหล่ ภาพแยกชิ้นประกอบและข้อมูลเกี่ยวกับชิ้นส่วนอะไหล่ยังสามารถดูได้ใน:

www.bosch-pt.com

ทีมงานให้คำแนะนำการใช้งานของ บ๊อช ยินดีตอบคำถามเกี่ยวกับผลิตภัณฑ์ของเราและอุปกรณ์ประกอบของผลิตภัณฑ์

ในกรณีประกัน ซ่อมแซม หรือซื้อชิ้นส่วนมาเปลี่ยน กรุณาติดต่อ ผู้ขายที่ได้รับแต่งตั้งเท่านั้น

ไทย

บริษัท โรเบิร์ต บ๊อช จำกัด
ชั้น 11 ตึกลิเบอร์ตี้ สแควร์
287 ถนนสีลม บางรัก
กรุงเทพฯ 10500
โทรศัพท์ 02 6393111, 02 6393118
โทรสาร 02 2384783
บริษัท โรเบิร์ต บ๊อช จำกัด ตู้ ปณ. 2054
กรุงเทพฯ 10501 ประเทศไทย
www.bosch.co.th

ศูนย์บริการซ่อมและฝึกอบรม บ๊อช
อาคาร ลาซาลทาวเวอร์ ชั้น G ห้องเลขที่ 2
บ้านเลขที่ 10/11 หมู่ 16
ถนนศรีนครินทร์
ตำบลบางแก้ว อำเภอบางพลี
จังหวัดสมุทรปราการ 10540
ประเทศไทย
โทรศัพท์ 02 7587555
โทรสาร 02 7587525

การกำจัดขยะ

เครื่องมือวัด อุปกรณ์ประกอบ และหีบห่อ ต้องนำไปแยกประเภทวัสดุเพื่อนำกลับมาใช้ใหม่โดยไม่ทำลายสภาพแวดล้อม

อย่าทิ้งเครื่องมือวัด และแบตเตอรี่/แบตเตอรี่ชาร์จใหม่ได้ ลงในถังขยะบ้าน!

สำหรับประเทศสมาชิกประชาคมยุโรปเท่านั้น:

ตามระเบียบสหภาพยุโรป 2012/19/EU เครื่องมือวัดที่ใช้ไม่ได้แล้ว และตามระเบียบสหภาพยุโรป 2006/66/EC แพ็คแบตเตอรี่/แบตเตอรี่ที่ชำรุดหรือใช้แล้ว ต้องนำมาคัดแยกเก็บ และนำไปทิ้งโดยไม่ทำลายสภาพแวดล้อม

ขอสงวนสิทธิ์ในการเปลี่ยนแปลงโดยไม่ต้องแจ้งล่วงหน้า

Bahasa Indonesia

Petunjuk-Petunjuk untuk Keselamatan Kerja

Laser garis

Petunjuk lengkap untuk dibaca dan diperhatikan, agar tidak terjadi bahaya dan Anda dapat bekerja dengan aman ketika menggunakan alat pengukur ini. Janganlah sekali-kali menutupi atau melepaskan label tentang keselamatan kerja yang ada pada alat pengukur ini. PERHATIKAN PETUNJUK INI DENGAN BAIK DAN BERIKAN KEPADA PEMILIK ALAT PENGUKUR BERIKUTNYA.

- **Peringatan – jika digunakan sarana penggunaan atau sarana penyetelan yang lain daripada yang disebutkan di sini atau dilakukan cara penggunaan yang lain, bisa terjadi penyinaran yang membahayakan.**
- **Alat pengukur dipasok dengan label untuk keselamatan kerja (pada gambar dari alat pengukur pada halaman bergambar ditandai dengan nomor 12).**

- **Jika teks dari label tentang keselamatan kerja tidak dalam bahasa negara Anda, sebelum penggunaan alat untuk pertama kalinya, tempelkan label dalam bahasa negara Anda yang ikut dipasok di atas label tersebut.**

Jangan arahkan sinar laser ke seseorang atau hewan dan jangan memandang ke sinar laser secara langsung atau melalui pantulan. Hal ini dapat menyebabkan kebutaan, kecelakaan atau kerusakan pada mata.

- **Jika mata Anda terkena sinar laser, tutup mata Anda dan segera jauhkan kepala Anda dari sinar laser.**
- **Jangan buat perubahan pada arah sinar laser.**
- **Janganlah menggunakan kaca mata untuk melihat sinar laser sebagai kaca mata pelindung.** Kaca mata ini berguna untuk melihat sinar laser dengan lebih jelas, akan tetapi tidak melindungi mata terhadap sinar laser.
- **Janganlah memakai kaca mata untuk melihat sinar laser sebagai kaca mata hitam atau jika sedang mengendarai kendaraan.** Kaca mata untuk melihat sinar laser tidak melindungi mata terhadap sinar ultra violet dan membuat mata tidak mengenali warna dengan baik.
- **Biarkan alat pengukur direparasi hanya oleh para teknisi ahli dan hanya dengan menggunakan suku cadang yang asli.** Dengan demikian, keselamatan kerja dengan alat pengukur ini selalu terjamin.
- **Janganlah membiarkan anak-anak menggunakan alat pengukur dengan sinar laser ini tanpa bimbingan.** Tanpa disengaja anak-anak bisa merusakkan mata orang lain dengan sinar laser.
- **Janganlah menggunakan alat pengukur di ruangan yang terancam bahaya terjadinya ledakan, di mana ada cairan, gas atau debu yang mudah terbakar.** Di dalam alat pengukur bisa terjadi bunga api, yang lalu menyulut debu atau uap.

Reflektor (alat pemantulan) sinar laser

Janganlah mendekatkan alat pengukur dan reflektor (alat pemantulan) 15 pada alat pemacu jantung (pacemaker). Magnet-magnet dari alat pengukur dan reflektor (alat pemantulan) mengadakan medan magnet yang bisa mengganggu fungsi dari alat pemacu jantung.

- **Jauhkan alat pengukur dan reflektor (alat pemantulan) 15 dari media penyimpanan data yang magnetis dan alat-alat yang peka magnet.** Daya magnet dari alat pengukur dan reflektor (alat pemantulan) bisa mengakibatkan data-data hilang untuk selamanya.

Penjelasan tentang produk dan daya

Bukakan halaman lipatan dengan gambar dari alat pengukur dan biarkan halaman ini terbuka selama Anda membaca petunjuk-petunjuk untuk penggunaan.

Penggunaan

Alat pengukur ini cocok untuk menentukan dan memeriksa garis mendatar dan garis tegak lurus.

Keterangan tentang kebisikan

Tingkat tekanan suara dari sinyal audio pada jarak satu meter adalah 80 dB(A).
Jangan memegang alat pengukur dekat dengan telinga Anda!

Bagian-bagian pada gambar

Nomor-nomor dari bagian-bagian alat pengukur pada gambar sesuai dengan gambar alat pengukur pada halaman bergambar.

1 Lubang pengedar sinar laser
2 Petanda untuk baterai
3 Tombol untuk fungsi pulsa
4 Simbol fungsi pulsa
5 Tombol untuk menyetel jenis penggunaan
6 Simbol penggunaan tanpa penyetelan otomatis
7 Tombol untuk menghidupkan dan mematikan
8 Ulir untuk tripod 5/8"
9 Ulir untuk tripod 1/4"
10 Tutup kotak baterai
11 Penguncian tutup kotak baterai
12 Label keselamatan kerja dengan laser
13 Nomor model
14 Magnet-magnet

15 Reflektor (alat pemantulan) sinar laser
16 Pelat ukur dengan kaki*
17 Alat penerima laser*
18 Tas pelindung*
19 Penopang universal*
20 Tiang teleskop*
21 Kaca mata untuk melihat sinar laser*
22 Tripod*

*** Aksesori yang ada dalam gambar atau yang dijelaskan tidak termasuk dalam alat pengukur standar yang dipasok.**

Data teknis

Laser garis	**GLL 2-80 P**
Nomor model	3 601 K63 2..
Jarak pengukuran hingga[1)]	
– penggunaan standar	
– penggunaan dengan fungsi pulsa	20 m
– penggunaan dengan alat penerima laser	15 m 5 – 80 m
Ketelitian pengukuran	± 0,2 mm/m
Batas penyetelan otomatis khusus	± 4°
Waktu penyetelan khusus	< 4 s
Suhu kerja	– 10 °C ... + 45 °C
Suhu penyimpanan	– 20 °C ... + 70 °C
Kelembaban udara relatif maks.	90 %
Kelas laser	2
Jenis laser	640 nm, < 1 mW
C_6	1
Lama pulsa yang terpendek	1/1600 s
Ulir untuk tripod	1/4", 5/8"
Baterai	4 x 1,5 V LR06 (AA)
Kemampuan baterai	
– dengan 2 bidang laser	9 h
– dengan 1 bidang laser	18 h
Berat sesuai dengan EPTA-Procedure 01/2003	0,7 kg
Ukuran (panjang x lebar x tinggi)	159 x 54 x 141 mm
Jenis keamanan	IP 54 (lindungan terhadap debu dan air penyiraman)

1) Jarak pengukuran bisa berkurang, jika keadaan sekeliling tidak menguntungkan (misalnya sinar matahari yang langsung).

Anda bisa mengidentifikasikan alat pengukur Anda dengan pasti, dengan nomor seri **13** pada label tipe.

Cara memasang

Memasang/mengganti baterai

Untuk menjalankan alat pengukur ini dianjurkan penggunaan baterai-baterai mangan-alkali.

Untuk membuka tutup kotak baterai **10**, geserkan penguncian tutup kotak baterai **11** dalam arah panah dan bukakan tutup kotak baterai. Pasangkan baterai-baterai. Perhatikan positip dan negatip dari baterai, sesuai dengan gambar pada bagian dalam dari tutup kotak baterai.

Jika baterai-baterai mulai mengosong, berbunyi satu nada sinyal selama 5 detik. Petanda baterai **2** berkedip-kedip merah secara menerus. Alat pengukur masih bisa digunakan selama kurang dari 2 jam.

Jika baterai-baterai pada waktu alat pengukur dihidupkan sudah lemah, nada sinyal 5 detik berbunyi segera setelah alat pengukur dihidupkan.

Gantikanlah selalu semua baterai sekaligus. Gunakanlah baterai-baterai yang sama mereknya dan dengan kapasitas yang sama.

► **Keluarkanlah baterai-baterai dari alat pengukur, jika alat pengukur tidak digunakan untuk waktu yang lama.** Jika baterai disimpan untuk waktu yang lama, baterai bisa berkorosi dan mengosong sendiri.

Penggunaan

Cara penggunaan

► **Selama menggunakan alat pengukur, dalam keadaan tertentu bisa berbunyi nada sinyal yang keras. Oleh sebab itu jauhkan alat pengukur dari telinga Anda atau dari orang lain.** Nada yang keras bisa merusakkan pendengaran.

► **Lindungilah alat pengukur terhadap cairan dan sinar matahari yang langsung.**

► **Jagalah supaya alat pengukur tidak terkena suhu yang luar biasa atau perubahan suhu yang luar biasa.** Misalnya, janganlah meninggalkan alat pengukur untuk waktu yang lama di dalam mobil. Jika ada perubahan suhu yang besar, biarkan alat pengukur mencapai suhu yang merata dahulu sebelum Anda mulai menggunakannya. Pada suhu yang luar biasa atau jika ada perubahan suhu yang luar biasa, ketelitian pengukuran alat pengukur bisa terganggu.

► **Jagalah supaya alat pengukur tidak terbentur atau terjatuh.** Jika alat pengukur rusak, ketelitian pengukuran bisa terganggu. Setelah alat pengukur terbentur atau terjatuh, periksalah garis-garis laser atau sinar-sinar tegak lurus dengan mencocokkan pada garis pedoman horisontal atau vertikal yang dikenal atau pada titik-titik tegak lurus yang sudah diperiksa.

► **Sebelum mengangkut alat pengukur, matikan dahulu alat pengukur.** Jika alat pengukur dimatikan, unit penimbang terkunci, karena unit penimbang ini bisa rusak jika terkena goncangan.

Menghidupkan/mematikan

Untuk **menghidupkan** alat pengukur, dorongkan tombol untuk menghidupkan dan mematikan **7** pada kedudukan **„ on“** (untuk pekerjaan tanpa penyetelan otomatis) atau pada kedudukan **„ on“** (untuk pekerjaan dengan penyetelan otomatis). Segera setelah alat pengukur dihidupkan, alat pengukur mengedarkan garis-garis laser dari lubang-lubang pengedar **1**.

- ► **Janganlah mengarahkan sinar laser pada orang-orang lain atau binatang dan janganlah melihat ke sinar laser, juga tidak dari jarak jauh.**
- ► **Janganlah meninggalkan alat pengukur yang hidup tanpa pengawasan dan matikan segera alat pengukur setelah penggunaannya.** Sinar laser bisa merusakkan mata dari orang-orang lain.

Untuk **mematikan** alat pengukur, dorongkan tombol untuk menghidupkan dan mematikan **7** ke kedudukan **„off“**. Jika alat pengukur dimatikan, unit penimbang terkunci.

Jika suhu kerja maks. yang diizinkan sebesar 45 °C dilampaui, alat pengukur padam sendiri untuk melindungi diode laser. Setelah alat pengukur menjadi dingin, alat pengukur siap pakai dan bisa dihidupkan kembali.

Mematikan pemadaman otomatis

Jika selama kira-kira 30 menit tidak ada tombol pada alat pengukur yang ditekan, untuk menghemat baterai, alat pengukur padam secara otomatis.

Untuk menghidupkan kembali alat pengukur setelah pemadaman otomatis, geserkan dahulu tombol untuk menghidupkan dan mematikan **7** ke posisi **„off“** dan kemudian alat pengukur dihidupkan lagi, atau tekankan satu kali tombol untuk menyetel jenis penggunaan **5** atau tombol untuk fungsi pulsa **3**.

Untuk mematikan pemadaman otomatis, tekankan (pada alat pengukur dalam penyetelan hidup) tombol untuk menyetel jenis penggunaan **5** selama paling sedikit 3 detik. Jika pemadaman otomatis sudah mati, sinar laser-sinar laser berkedip-kedip sebentar sebagai konfirmasinya.

Untuk menghidupkan pemadaman otomatis, matikan alat pengukur dan kemudian hidupkan kembali, atau sebagai gantinya, tekankan tombol untuk menyetel jenis penggunaan **5** selama paling sedikit 3 detik.

Mematikan nada sinyal

Setelah alat pengukur dihidupkan, fungsi nada sinyal selalu dalam keadaan aktif.

Untuk mematikan atau mengaktifkan fungsi nada sinyal, tekankan sekaligus tombol untuk menyetel jenis penggunaan **5** dan tombol untuk fungsi pulsa **3** dan tahankan tekanan selama paling sedikit 3 detik.

Baik pada waktu mengaktifkan maupun mematikan fungsi nada sinyal berbunyi tiga nada sinyal yang pendek sebagai konfirmasinya.

Macam penggunaan

Alat pengukur dilengkapi dengan tiga jenis penggunaan, dan Anda sewaktu-waktu bisa mengganti penggunaannya:

- penggunaan mendatar: menghasilkan satu bidang laser mendatar,
- penggunaan tegak lurus: menghasilkan satu bidang laser tegak lurus,
- penggunaan garis silang: menghasilkan satu bidang laser mendatar dan satu bidang laser tegak lurus.

Setelah dihidupkan, alat pengukur berada pada penggunaan mendatar. Untuk merubah jenis penggunaan, tekan tombol untuk menyetel jenis penggunaan **5**.

Ketiga jenis penggunaan bisa disetelkan dengan dan juga tanpa penyetelan otomatis.

Fungsi pulsa

Untuk penggunaan dengan alat penerima laser **17** harus dihidupkan fungsi pulsa – tidak tergantung dari jenis penggunaan yang dipilih –.

Pada fungsi pulsa garis-garis laser berkedip-kedip dengan frekuensi yang sangat tinggi, sehingga bisa diterima oleh alat penerima laser **17**.

Untuk menghidupkan fungsi pulsa, tekan tombol **3**. Jika fungsi pulsa hidup, petanda **4** menyala hijau.

Bagi mata manusia, garis-garis laser menjadi kurang jelas jika fungsi pulsa dihidupkan. Oleh karena itu pada penggunaan tanpa alat penerima laser, matikan fungsi pulsa dengan cara menekan sekali lagi tombol **3**. Jika fungsi pulsa mati, petanda **4** padam.

Penyetelan otomatis

Bekerja dengan penyetelan otomatis

Pasangkan alat pengukur pada alas yang datar dan keras, kencangkan pada penopang **19** atau tripod **22**.

Untuk pekerjaan dengan penyetelan otomatis, geserkan tombol untuk menghidupkan dan mematikan **7** pada kedudukan **„ on“**.

Penyetelan otomatis menyeimbangkan ketidak rataan dalam batas-batas penyetelan otomatis sebesar ± 4° secara otomatis. Penyetelan otomatis sudah rampung, jika garis laser-garis laser tidak bergerak lagi.

Jika penyetelan otomatis tidak bisa berfungsi, misalnya jika alas keberadaan alat pengukur berbeda lebih dari 4° dari garis mendatar, garis laser-garis laser berkedip-kedip secara cepat. Jika fungsi nada sinyal aktif, berbunyi satu nada sinyal selama paling lama 30 detik secara cepat. Dalam waktu 10 detik setelah alat pengukur dihidupkan, nada peringatan ini mati, supaya alat pengukur bisa dipasangkan.

Letakkan alat pengukur secara datar dan tunggulah sampai dilakukan penyetelan otomatis. Segera setelah alat pengukur berada dalam batas-batas penyetelan otomatis sebesar ± 4°, sinar laser-sinar laser menyala menetap dan nada sinyal mati.

Jika selama penggunaan, alat pengukur digoncangkan atau dipindahkan, alat pengukur melakukan penyetelan otomatis. Setelah penyetelan ini, periksalah posisi dari garis-garis laser mendatar atau tegak lurus terhadap titik-titik patokan, untuk menghindarkan terjadinya kesalahan pengukuran.

Bekerja tanpa penyetelan otomatis

Untuk pekerjaan tanpa penyetelan otomatis, geserkan tombol untuk menghidupkan dan mematikan **7** pada kedudukan

„ on“. Jika penyetelan otomatis dimatikan, simbol penggunaan tanpa penyetelan otomatis **6** menyala merah dan selama 30 detik garis laser-garis laser berkedip-kedip perlahan-lahan.

Jika penyetelan otomatis dimatikan, alat pengukur bisa Anda pegang di tangan atau bisa ditempatkan pada alas yang miring. Pada penggunaan garis silang, kedua garis laser tidak lagi harus bersilangan secara tegak lurus.

Ketelitian pengukuran

Pengaruh terhadap ketelitian

Pengaruh terbesar terhadap ketelitian berasal dari suhu lingkungan sekeliling. Khususnya perbedaan suhu dari bumi ke atas bisa mempengaruhi sinar laser.

Berhubung perbedaan dari lapisan-lapisan suhu di dekat tanah paling besar, alat pengukur mulai jarak pengukuran sebesar 20 m sebaiknya selalu dipasangkan pada satu tripod. Selain itu alat pengukur sebaiknya dipasangkan di tengah medan kerja.

Selain pengaruh dari luar, pengaruh khusus dari alat sendiri (misalnya jika jatuh atau kena benturan yang kuat) bisa mengakibatkan ketidak tepatan. Oleh sebab itu, periksalah selalu ketepatan pengukuran dari alat pengukur setiap kali sebelum menggunakannya.

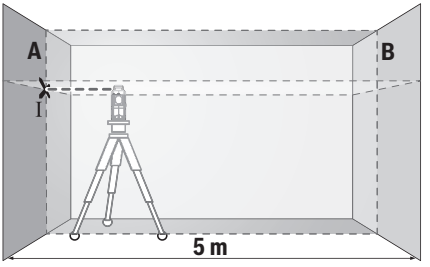
Periksalah selalu pertama-tama ketelitian dari garis laser mendatar dan kemudian ketelitian garis laser tegak lurus.

Jika pada pemeriksaan ketelitian ternyata hasil pengukuran alat pengukur tidak tepat dan melebihi ambang batas maksimal, biarkan alat pengukur direparasikan oleh Service Center Bosch.

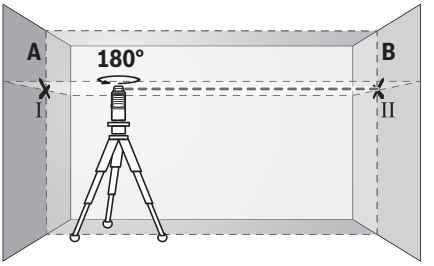
Memeriksa ketelitian pengukuran mendatar dari sumbu melintang

Untuk melakukan pemeriksaan ini, dibutuhkan jarak yang kosong sepanjang 5 m pada alas yang keras di antara dua dinding A dan B.

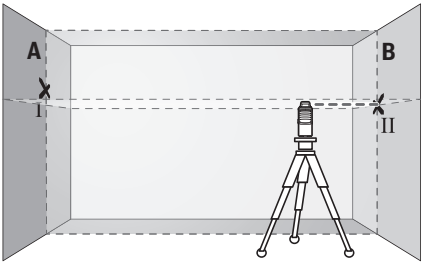
– Pasangkan alat pengukur di dekat dinding A pada satu tripod, atau letakkannya pada alas yang keras dan rata. Hidupkan alat pengukur. Setelkan penggunaan garis silang dengan penyetelan otomatis.



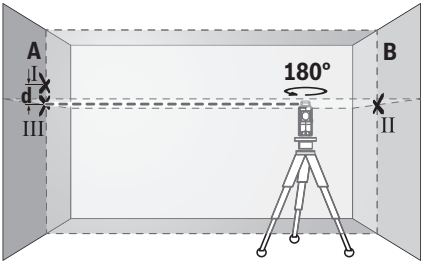
– Bidikkan laser pada dinding A yang di dekat dan biarkan alat pengukur melakukan penyetelan otomatis. Tandai tengah-tengah dari titik pada persilangan garis-garis laser pada dinding (titik I).



– Putarkan alat pengukur sebanyak 180°, biarkan alat pengukur melakukan penyetelan otomatis dan tandai titik potong dari garis-garis laser pada dinding B di seberang (titik II).
– Pindahkan alat pengukur – tanpa memutarkannya – ke dekat dinding B, hidupkan alat pengukur dan biarkan alat pengukur melakukan penyetelan otomatis.



– Setelkan ketinggian alat pengukur sedemikian (dengan menggunakan tripod atau jika perlu dengan ganjelan), sehingga titik potong dari garis-garis laser mengena persis pada titik II pada dinding B yang ditandakan sebelumnya.



– Putarkan alat pengukur sebanyak 180°, tanpa merubah ketinggiannya. Bidikkannya sedemikian pada dinding A, sehingga garis laser tegak lurus melampaui titik I yang telah ditandakan sebelumnya. Biarkan alat pengukur melakukan penyetelan otomatis dan tandai titik potong dari garis-garis laser pada dinding A (titik III).
– Selisih **d** di antara kedua titik-titik I dan III yang ditandakan pada dinding A adalah selisih ketinggian yang sebenarnya dari alat pengukur sepanjang sumbu melintang.

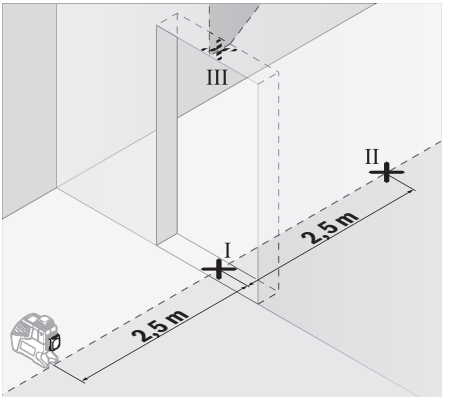
Pada jarak pengukuran sebesar 2 x 5 m = 10 m selisih maksimal yang diizinkan adalah:
10 m x ±0,2 mm/m = ±2 mm.

Dengan demikian selisih **d** di antara titik-titik I dan III yang diizinkan adalah maksimal 2 mm.

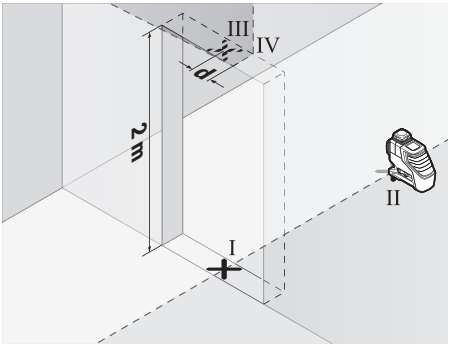
Memeriksa ketelitian pengukuran garis tegak lurus

Untuk melakukan pemeriksaan ini, dibutuhkan lubang tempat pintu di dinding yang terbuka, dan pada setiap sisi dari pintu (pada alas yang keras) paling sedikit harus ada jarak 2,5 m.

– Pasangkan alat pengukur pada jarak 2,5 m dari lubang pintu pada alas yang keras dan rata (tidak pada satu tripod). Biarkan alat pengukur dalam penggunaan tegak lurus dengan penyetelan otomatis melakukan penyetelan otomatis, dan bidikkan garis laser pada lubang pintu.



– Buatkan tanda pada tengah-tengah dari garis laser tegak lurus di lantai di lubang pintu (titik I), pada jarak 5 m di sisi lainnya dari lubang pintu (titik II) serta pada pinggiran atas dari lubang pintu (titik III).



– Putarkan alat pengukur sebanyak 180° dan pasangkan alat pengukur pada sisi lainnya dari lubang pintu yang kosong persis di belakang titik II. Biarkan alat pengukur melakukan penyetelan otomatis dan bidikkan garis laser tegak lurus sedemikian, sehingga tengah-tengahnya persis melalui titik-titik I dan II.
– Berikan tanda pada tengah-tengah dari garis laser pada pinggiran atas dari lubang pintu sebagai titik IV.
– Selisih **d** di antara kedua titik-titik III dan IV yang ditandakan adalah ketidak tepatan alat pengukur yang sebenarnya terhadap garis tegak lurus.
– Ukurkan ketinggian dari lubang pintu.

Ketidak tepatan maksimal yang diizinkan dihitungkan sebagai berikut:
dua kali ketinggian lubang pintu x 0,2 mm/m
Contoh: Jika ketinggian lubang pintu 2 m, ketidak tepatan maksimal yang diizinkan
2 x 2 m x ± 0,2 mm/m = ± 0,8 mm. Ini berarti jarak antara titik-titik III dan IV maksimal boleh sebesar 0,8 mm.

Petunjuk-petunjuk untuk pemakaian

▶ **Berilah tanda hanya pada tengah-tengah dari garis laser.** Kelebaran garis laser berubah sesuai dengan perubahan jarak.

Bekerja dengan reflektor (alat pemantulan)

Dengan reflektor (alat pemantulan) **15** sinar laser menjadi lebih jelas terlihat jika keadaan sekeliling tidak menguntungkan dan pada jarak yang jauh.

Paruh yang memantulkan dari reflektor sinar laser **15** membuat garis laser tampak lebih jelas, dengan bantuan paruh yang transparan garis laser juga tampak dari sebelah belakang dari reflektor sinar laser.

Mengukur dengan tripod (aksesori)

Satu tripod bisa menjadi alas untuk mengukur yang stabil dan ketinggiannya bisa dirubah. Pasangkan alat pengukur dengan ulir untuk tripod 1/4" **9** pada ulir dari tripod **22** atau tripod tustel lainnya yang lazim bisa dibeli. Untuk mengencangkan pada tripod konstruksi bangunan yang lazim bisa dibeli, gunakan ulir untuk tripod 5/8" **8**. Kencangkan alat pengukur dengan baut pengunci dari tripod.

Mengencangkan dengan penopang universal (aksesori) (lihat gambar D)

Dengan menggunakan penopang universal **19** alat pengukur bisa dikencangkan misalnya pada permukaan yang tegak lurus, pipa-pipa atau bahan-bahan yang bisa menjadi magnetis. Penopang universal juga bisa digunakan sebagai tripod lantai dan memudahkan penyetelan ketinggian alat pengukur.

Bekerja dengan pelat ukur (aksesori) (lihat gambar-gambar A – B)

Dengan bantuan pelat ukur **16** Anda bisa memindahkan tanda-tanda laser pada lantai atau ketinggian laser pada dinding.

Dengan medan nol dan skala Anda bisa mengukurkan selisih terhadap ketinggian yang dikehendaki dan memindahkannya ke tempat lain. Dengan demikian Anda tidak harus menyetelkan ketinggian yang dipindahkan secara seksama pada alat pengukur.

Pelat ukur **16** dilapisi dengan lapisan yang memantulkan, yang membuat sinar laser pada jarak yang jauh atau jika matahari bersinar terang terlihat lebih jelas. Kecerahan ini hanya terlihat, jika Anda melihat pada pelat ukur sejajar dengan sinar laser.

Bekerja dengan alat penerima laser (aksesori) (lihat gambar D)

Jika keadaan cahaya tidak menguntungkan (keadaan sekeliling cerah, sinar matahari langsung) dan jika jarak pengukuran jauh, gunakanlah alat penerima laser **17** untuk

membantu menemukan garis-garis laser. Jika Anda bekerja dengan alat penerima laser, hidupkan fungsi pulsa (lihat „Fungsi pulsa“, halaman 197).

Kaca mata untuk melihat laser (aksesori)

Kaca mata untuk melihat laser menyaring cahaya lingkungan. Dengan demikian sinar merah dari laser bagi mata kita tampak lebih cerah.

- ▶ **Janganlah menggunakan kaca mata untuk melihat sinar laser sebagai kaca mata pelindung.** Kaca mata ini berguna untuk melihat sinar laser dengan lebih jelas, akan tetapi tidak melindungi mata terhadap sinar laser.
- ▶ **Janganlah memakai kaca mata untuk melihat sinar laser sebagai kaca mata hitam atau jika sedang mengendarai kendaraan.** Kaca mata untuk melihat sinar laser tidak melindungi mata terhadap sinar ultra violet dan membuat mata tidak mengenali warna dengan baik.

Contoh untuk penggunaan (lihat gambar-gambar C – H)

Contoh untuk berbagai penggunaan dari alat pengukur bisa dilihat pada halaman-halaman bergambar.

Rawatan dan servis

Rawatan dan kebersihan

Simpankan dan transportasikan alat pengukur hanya di dalam tas pelindung yang ikut dipasok.

Jagalah supaya alat pengukur selalu bersih.

Janganlah memasukkan alat pengukur ke dalam air atau cairan lainnya.

Jika alat kotor, bersihkannya dengan lap yang lembab dan lunak. Janganlah menggunakan deterjen atau tiner.

Bersihkanlah secara berkala, terutama permukaan pada lubang pengedar sinar laser, dan perhatikanlah apakah ada bulu yang mencemarinya.

Jika pada suatu waktu alat pengukur tidak berfungsi meskipun alat pengukur telah diproduksikan dan diperiksa dengan teliti, maka reparasinya harus dilakukan oleh Service Center perkakas listrik Bosch yang resmi. Janganlah sekali-kali membuka sendiri alat pengukur.

Jika Anda hendak menanyakan sesuatu atau memesan suku cadang, sebutkan selalu nomor model yang terdiri dari 10 angka dan tercantum pada label tipe alat pengukur.

Jika alat pengukur harus direparasikan, kirimkannya di dalam tas pelindung **18**.

Layanan pasca beli dan konseling terkait pengoperasian

Layanan pasca beli Bosch menjawab semua pertanyaan Anda terkait reparasi dan maintenance serta suku cadang produk ini. Gambar tiga dimensi dan informasi terkait suku cadang dapat Anda lihat di:

www.bosch-pt.com

Tim konseling pengoperasian dari Bosch dengan senang hati membantu Anda, jika Anda hendak bertanya tentang produk-produk kami dan aksesorisnya.

Indonesia

PT Robert Bosch
Palma Tower 9th & 10th Floor
Jl. Let. Jend. TB Simatupang II S/06
Jakarta Selatan 12960
Indonesia
Tel.: (021) 3005 6565
Fax: (021) 3005 5801
E-Mail: boschpowertools@id.bosch.com
www.bosch-pt.co.id

Cara membuang

Alat pengukur, aksesori dan kemasan sebaiknya didaur ulangkan sesuai dengan upaya untuk melindungi lingkungan hidup.

Janganlah membuang alat pengukur dan baterai isi ulang/baterai ke dalam sampah rumah tangga!

Hanya untuk negara-negara UE:

Sesuai dengan peraturan 2012/19/EU alat pengukur-alat pengukur yang tidak dapat digunakan lagi dan sesuai dengan peraturan Eropa 2006/66/EG baterai/baterai yang rusak atau aus harus dipisahkan dari sampah lainnya dan didaur ulangkan sesuai dengan upaya untuk melindungi lingkungan hidup.

Perubahan dapat terjadi tanpa pemberitahuan sebelumnya.

Tiếng Việt

Các Nguyên Tắc An Toàn

Máy laze đường vạch

Phải đọc và chú ý mọi hướng dẫn để đảm bảo an toàn và không bị nguy hiểm khi làm việc với dụng cụ đo. Không bao giờ được làm cho các dấu hiệu cảnh báo trên dụng cụ đo không thể đọc được. HÃY BẢO QUẢN CẨN THẬN CÁC HƯỚNG DẪN NÀY VÀ ĐƯA KÈM THEO KHI BẠN CHUYỂN GIAO DỤNG CỤ ĐO.

- **Lưu ý – Việc sử dụng để hoạt động khác với mục đích thiết kế hay thiết bị điều chỉnh hoặc ứng dụng với qui trình khác với những gì đề cập ở đây đều có thể dẫn đến phơi nhiễm bức xạ nguy hiểm.**
- **Dụng cụ đo được cung cấp kèm theo một nhãn cảnh báo (được đánh số 12 trong phần mô tả chi tiết của dụng cụ đo trên trang hình ảnh).**

- **Nếu bản văn của nhãn cảnh báo không phải là ngôn ngữ của nước bạn, hãy dán nhãn cảnh báo được cung cấp bằng ngôn ngữ của nước bạn chồng lên trước khi vận hành cho lần đầu tiên.**

Không để tia la-ze hướng về phía người hoặc động vật và không nhìn vào tia la-ze trực tiếp hoặc qua phản chiếu. Như vậy, bạn có thể làm lóa mắt người khác, dẫn đến tai nạn hoặc gây hỏng mắt.

- **Nếu tia la-ze hướng vào mắt, bạn phải nhắm mắt lại và ngay lập tức xoay đầu để tránh tia-laze.**
- **Không thực hiện bất cứ thay đổi nào tại thiết bị la-ze.**
- **Không được sử dụng kính nhìn laze như là kính bảo hộ lao động.** Kính nhìn laze được sử dụng để cải thiện sự quan sát luồng laze, nhưng chúng không bảo vệ chống lại tia bức xạ laze.
- **Không được sử dụng kính nhìn laze như kính mát hay dùng trong giao thông.** Kính nhìn laze không đủ khả năng bảo vệ hoàn toàn UV (tia cực tím) và làm giảm sự cảm nhận màu sắc.
- **Chỉ giao dụng cụ đo cho chuyên viên có trình độ chuyên môn và sử dụng phụ tùng chính hãng sửa chữa.** Điều này đảm bảo cho sự an toàn của dụng cụ đo được giữ nguyên.
- **Không cho phép trẻ em sử dụng dụng cụ đo laze mà thiếu sự giám sát.** Chúng có thể vô tình làm người khác mù mắt.
- **Không được vận hành dụng cụ đo ở môi trường dễ gây cháy nổ, ví dụ như ở gần nơi có loại chất lỏng dễ cháy, khí gas hay rác.** Các tia lửa có thể hình thành trong dụng cụ đo và có khả năng làm rác cháy hay ngún khói.

Cọc tiêu laze tấm

Để dụng cụ đo và tấm cọc tiêu laze 15 tránh xa máy điều hòa nhịp tim. Các nam châm của dụng cụ đo và tấm cọc tiêu laze tạo nên một trường có thể làm hư hỏng chức năng của máy điều hòa nhịp tim.

- **Để dụng cụ đo và tấm cọc tiêu laze 15 tránh xa khỏi các thiết bị chứa dữ liệu từ tính hay nhạy cảm với từ tính.** Sự tác động của nam châm của dụng cụ đo và tấm cọc tiêu laze có thể dẫn đến việc dữ liệu bị xóa và không thể phục hồi được.

Mô Tả Sản Phẩm và Đặc Tính Kỹ Thuật

Xin vui lòng mở trang gấp có hình ảnh miêu tả dụng cụ đo và để mở nguyên như vậy trong khi đọc các hướng dẫn sử dụng.

Dành Sử Dụng

Dụng cụ đo được thiết kế để xác định và kiểm tra các mực ngang và dọc (thẳng đứng).

Thông Tin về Tiếng Ồn

Cấp độ áp suất âm thanh gia quyền A của tín hiệu âm thanh tại khoảng cách một mét là 80 dB(A). **Không được để dụng cụ đo sát bên tai của bạn!**

Biểu trưng của sản phẩm

Sự đánh số các biểu trưng của sản phẩm là để tham khảo hình minh họa dụng cụ đo trên trang hình ảnh.

1 Cửa chiếu luồng laze
2 Đèn báo dung lượng pin thấp
3 Núm chức năng xung tín hiệu
4 Đèn báo chức năng xung tín hiệu
5 Núm chế độ vận hành
6 Hoạt động không có đèn báo lấy cốt thủy chuẩn tự động
7 Công tắc Tắt/Mở
8 Phần gắn giá đỡ 5/8"

9 Phần gắn giá đỡ 1/4"
10 Nắp đậy pin
11 Lẫy cài nắp đậy pin
12 Nhãn cảnh báo laze
13 Số mã dòng
14 Nam châm
15 Tấm cọc tiêu laze
16 Thước bảng có đế*
17 Thiết bị thu laze*
18 Túi xách bảo vệ*
19 Bệ đỡ phổ thông*
20 Thanh kéo lồng*
21 Kính nhìn laze*
22 Giá ba chân*

*** Các phụ tùng được minh họa hay mô tả không nằm trong tiêu chuẩn hàng hóa được giao kèm.**

Thông số kỹ thuật

Máy laze đường vạch	GLL 2-80 P
Mã số máy	3 601 K63 2..
Tầm hoạt động[1)]	
– Tiêu chuẩn	20 m
– Với chức năng xung động	15 m
– Với thiết bị thu laze	5–80 m
Cốt Thủy Chuẩn Chính Xác	±0.2 mm/m
Phạm vi tự lấy cốt thủy chuẩn (tiêu biểu)	±4 °
Thời gian lấy cốt thủy chuẩn, tiêu biểu	<4 s
Nhiệt độ hoạt động	–10 °C ... +45 °C
Nhiệt độ lưu kho	–20 °C ... +70 °C
Độ ẩm không khí tương đối, tối đa	90 %
Cấp độ laze	2
Loại laze	640 nm, <1 mW
C_6	1
thời gian ngắn nhất của xung động	1/1600 s
Phần gắn giá đỡ	1/4", 5/8"
Pin	4 x 1.5 V LR06 (AA)
Khoảng thời gian hoạt động	
– Với 2 mặt phẳng laze	9 h
– Với 1 mặt phẳng laze	18 h
Trọng lượng theo Qui trình EPTA-Procedure 01/2003 (chuẩn EPTA 01/2003)	0.7 kg
Kích thước (dài x rộng x cao)	159 x 54 x 141 mm
Mức độ bảo vệ	IP 54 (ngăn được bụi và nước văng vào)

1) Tầm hoạt động có thể bị giảm do điều kiện môi trường xung quanh không thuận lợi (vd. ánh sáng mặt trời chiếu trực tiếp).

Dụng cụ đo có thể nhận biết rõ ràng bằng chuỗi số dòng **13** trên nhãn ghi loại máy.

Sự lắp vào

Lắp/Thay Pin

Khuyến nghị nên sử dụng pin kiềm-mangan cho dụng cụ đo.

Để mở nắp đậy pin **10**, nhấn vào lẫy cài **11** theo chiều mũi tên và lật nắp đậy pin lên. Lắp pin vào. Khi lắp vào, hãy lưu ý lắp đúng đầu cực của pin theo như ký hiệu ghi ở mặt trong nắp đậy pin.

Khi pin bắt đầu yếu, sẽ có tín hiệu âm thanh dài 5 giây phát ra. Đèn báo dung lượng pin thấp **2** liên tục sáng đỏ. Dụng cụ đo vẫn có thể hoạt động trong khoảng gần 2 tiếng.

Khi mở dụng cụ đo lên mà pin yếu, sẽ có tín hiệu âm thanh dài 5 giây phát ra ngay sau khi dụng cụ đo được mở máy.

Luôn luôn thay tất cả pin cùng một lần. Chỉ sử dụng pin cùng một hiệu và có cùng một điện dung.

- ▶ **Tháo pin ra khỏi dụng cụ đo khi không sử dụng trong một thời gian không xác định.** Khi cất lưu kho trong một thời gian không xác định, pin có thể bị ăn mòn và tự phóng hết điện.

Vận Hành

Vận hành Ban đầu

- ▶ **Trong lúc vận hành dụng cụ đo sẽ phát ra tín hiệu âm thanh lớn trong một số trường hợp cụ thể nào đó. Vì vậy, để dụng cụ đo cách xa tai của bạn hay tai những người khác.** Tiếng tín hiệu âm thanh lớn có thể làm tổn thương thính giác.
- ▶ **Bảo vệ dụng cụ đo tránh khỏi ẩm ướt và không để bức xạ mặt trời chiếu trực tiếp vào.**
- ▶ **Không được để dụng cụ đo ra nơi có nhiệt độ cao hay thấp cực độ hay nhiệt độ thay đổi thái quá.** Như ví dụ sau, không được để dụng cụ đo trong xe ôtô trong một thời gian dài hơn mức bình thường. Trong trường hợp có sự thay đổi nhiệt độ

thái quá, hãy để cho dụng cụ đo điều chỉnh theo nhiệt độ chung quanh trước khi đưa vào sử dụng. Trong trường hợp ở trạng thái nhiệt độ cực độ hay nhiệt độ thay đổi thái quá, sự chính xác của dụng cụ đo có thể bị hư hỏng.

- ▶ **Tránh không để dụng cụ đo bị va đập mạnh hay làm rớt xuống.** Làm hỏng dụng cụ đo có thể làm hư hại tính chính xác của nó. Sau khi bị tác động hay va chạm mạnh, hãy đối chiếu đường laze hay đường dây dọi với đường ngang hay thẳng đứng qui chiếu đã biết hay với điểm dây dọi đã được kiểm tra.
- ▶ **Tắt dụng cụ đo trong lúc vận chuyển.** Khi tắt máy, bộ phận lấy cốt thủy chuẩn được khóa lại, bộ phận này có thể bị hư hỏng trong trường hợp bị di chuyển cực mạnh.

Tắt và Mở

Để **mở** dụng cụ đo, đẩy công tắc Tắt/Mở **7** về vị trí **"on"** (khi không vận hành với chế độ lấy cốt thủy chuẩn tự động) hay về vị trí **"on"** (khi vận hành với chế độ lấy cốt thủy chuẩn tự động). Ngay sau khi mở máy, dụng cụ đo phóng luồng laze ra khỏi các cửa chiếu **1**.

- ▶ **Không được chĩa luồng laze vào con người hay động vật và không được tự chính bạn nhìn vào luồng laze, ngay cả khi từ một khoảng cách lớn.**
- ▶ **Không được mở dụng cụ đo rồi để mặc đó, và tắt dụng cụ đo ngay sau khi sử dụng xong.** Những người khác có thể bị luồng laze làm mù mắt.

Để **tắt** dụng cụ đo, đẩy công tắc Tắt/Mở **7** về vị trí **"off"**. Khi tắt máy, bộ phận lấy cốt thủy chuẩn được khóa lại.

Khi vượt quá nhiệt độ hoạt động tối đa cho phép ở mức 45 °C, dụng cụ đo tự tắt để bảo vệ đi-ốt laze. Sau khi nguội trở lại, dụng cụ đo ở trạng thái sẵn sàng hoạt động và ta có thể mở máy để hoạt động trở lại.

Khử Hoạt Chức Năng Tắt Tự Động

Khi không có nút nào trên dụng cụ đo được bấm trong khoảng 30 phút, dụng cụ đo sẽ tự động tắt để tiết kiệm pin.

Để mở máy trở lại sau khi dụng cụ đo được tắt tự động, một là đẩy công tắc Tắt/Mở **7** về vị trí **"off"** và sau đó mở điện cho dụng cụ đo hoạt động trở lại hay là nhấn núm chế độ vận hành **5** một lần hoặc nhấn núm chức năng xung tín hiệu **3** một lần.

Để khử hoạt chức năng tắt tự động, giữ nhấn nút chế độ hoạt động **5** ít nhất là 3 giây (trong khi dụng cụ đo đang hoạt động). Sự khử hoạt chức năng tắt tự động được xác định bằng sự lóe sáng nhanh của các tia laze.

Để cho chế độ tắt tự động hoạt động, tắt dụng cụ đo và sau đó mở lên lại hay nhấn và giữ nhấn núm chế độ vận hành **5** trong ít nhất là 3 giây.

Khử Hoạt Tín Hiệu Âm Thanh

Sau khi mở điện để dụng cụ đo hoạt động, tín hiệu âm thanh luôn luôn được kích hoạt theo mặc định.

Để cho tín hiệu âm thanh hoạt động hoặc không hoạt động, nhấn và giữ nhấn núm chế độ vận hành **5** và núm chức năng xung tín hiệu **3** cùng một lúc trong thời gian ít nhất là 3 giây.

Cả hai sự cho tín hiệu âm thanh hoạt động và không hoạt động được xác nhận bằng ba tiếng bíp ngắn.

Chế Độ Hoạt Động

Dụng cụ đo có ba chế độ hoạt động mà bạn có thể chuyển đổi qua lại trong bất cứ lúc nào:

- Vận hành chiều ngang: tạo ra một mặt phẳng laze nằm ngang,
- Vận hành chiều thẳng đứng: tạo ra một mặt phẳng theo chiều dọc,
- Vận hành chiều ngang và thẳng đứng: tạo ra mặt phẳng laze nằm ngang và dọc.

Sau khi mở máy, dụng cụ đo nằm mặc định ở chế độ vận hành theo chiều ngang. Nhấn núm chế độ vận hành **5** để đổi phương thức hoạt động.

Ta có thể chọn cả ba chế độ hoạt động có hoặc không có chức năng lấy cốt thủy chuẩn tự động.

Chức Năng Xung Tín Hiệu

Khi vận hành với thiết bị thu laze **17**, phải cho chức năng xung tín hiệu hoạt động, – độc lập với chế độ hoạt động được lựa chọn.

Trong chức năng xung tín hiệu, đường chiếu laze nhấp nháy ở tần số rất cao và vì thế nên bộ thu laze **17** có thể nhận biết được.

Để chức năng xung tín hiệu hoạt động, nhấn núm **3**. Khi chức năng xung tín hiệu hoạt động, đèn báo chức năng xung tín hiệu **4** sáng lên màu xanh lá.

Khi chức năng xung tín hiệu hoạt động, thì sự nhìn thấy đường laze bằng mắt người bị giảm đi. Vì thế, đóng chức năng xung tín hiệu lại bằng cách nhấn núm **3** lại lần nữa khi vận hành mà không có thiết bị thu laze. Khi chức năng xung tín hiệu được tắt đi, đèn báo chức năng xung tín hiệu **4** không hoạt động.

Lấy Cốt Thủy Chuẩn Tự Động

Vận Hành với Chức Năng Lấy Cốt Thủy Chuẩn Tự Động

Đặt dụng cụ đo lên nơi bằng phẳng và chắc chắn, gắn dụng cụ vào bệ đỡ **19** hay lên giá đỡ **22**.

Khi vận hành với chế độ lấy cốt thủy chuẩn tự động, đẩy công tắc Tắt/Mở về vị trí **7 "on"**.

Sau khi mở máy, chức năng lất cốt thủy chuẩn sẽ tự động làm cân bằng sự chênh lệch trong phạm vi tự

lấy cốt thủy chuẩn ở mức ±4 °. Sự lấy cốt thủy chuẩn hoàn tất ngay sau khi tia laze không còn di chuyển nữa.

Nếu như sự lấy cốt thủy chuẩn tự động không thể thực hện đươợc, vd. vì mặt phẳng nơi đặt dụng cụ đo lệch nhiều hơn mức 4 ° so với bề mặt phẳng ngang, các đường vạch laze bắt đầu nhấp nháy nhanh. Khi tín hiệu âm thanh hoạt động, tín hiệu nhịp phách nhanh vang lên trong vòng 30 giây (tối đa). Sự báo hiệu này sẽ được tắt trong vòng 10 giây sau khi được mở, nhằm cho phép điều chỉnh dụng cụ đo.

Lắp đặt dụng cụ đo ở vị trí bằng phẳng và đợi cho sự lấy mực thủy chuẩn tự động vận hành. Ngay sau khi dụng cụ đo nằm trong phạm vi tự lấy mực thủy chuẩn ±4 °, tất cả các tia laze sáng lên liên tục và tín hiệu âm thanh được tắt đi.

Trong trường hợp mặt đất bị rung động hay thay đổi vị trí trong lúc vận hành, dụng cụ đo tự động lấy mực trở lại. Để tránh gặp sai sót, hãy kiểm tra vị trí của đường chiếu laze ngang và thẳng đứng, đối chiếu với điểm chuẩn trong khi lấy lại cốt thủy chuẩn.

Vận Hành Không Có Chức Năng Lấy Cốt Thủy Chuẩn Tự Động

Để vận hành không có chức năng lấy cốt thủy chuẩn tự động, đẩy công tắc Tắt/Mở **7** về vị trí **“ on”**. Khi chức năng lấy cốt thủy chuẩn tự động được tắt, đèn báo **6** sáng lên màu đỏ và trong 30 giây đầu, tia laze nhấp nháy chậm.

Khi chức năng lấy cốt thủy chuẩn tự động được tắt đi, có thể dùng tay để giữ dụng cụ đo hay đặt trên một mặt nghiêng. Trong vận hành lấy mực đường ngang và thẳng đứng, hai đường chiếu laze không nhất thiết phải giao nhau để tạo thành góc vuông.

Cốt Thủy Chuẩn Chính Xác

Những Ảnh Hưởng Đến độ Chính xác

Nhiệt độ chung quanh có ảnh hưởng lớn nhất. Đặt biệt là sự thay đổi nhiệt độ xảy ra từ mặt đất tỏa lên có thể làm lệch luồng laze.

Bởi vì sự khác biệt lớn nhất của các tầng nhiệt độ là ở nơi gần mặt đất, nên luôn luôn lắp dụng cụ đo lên giá đỡ khi khoảng cách đo nằm ngoài tầm 20 m. Nếu có thể, cũng nên đặt dụng cụ đo vào chính giữa khu vực làm việc.

Ngoài những tác động từ bên ngoài, những tác động đặt biệt vào thiết bị (như bị va đập mạnh hay bị rơi) có thể dẫn đến sự chệch hướng. Vì thế, hãy kiểm tra độ chính xác của dụng cụ đo trước mỗi lần khởi sự công việc.

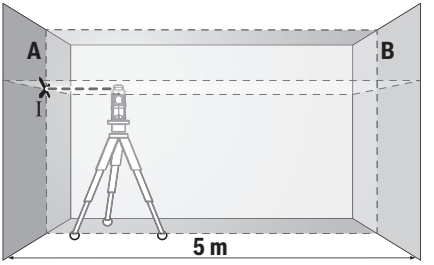
Trước tiên, kiểm tra mực thủy chuẩn chính xác của đường laze ngang và sau đó là mực thủy chuẩn chính xác của đường laze dọc.

Nếu giả như dụng cụ đo chệch hướng vượt mức tối đa tại một trong những lần kiểm tra, xin vui lòng mang đến trạm phục vụ hàng đã bán của Bosch để được sửa chữa.

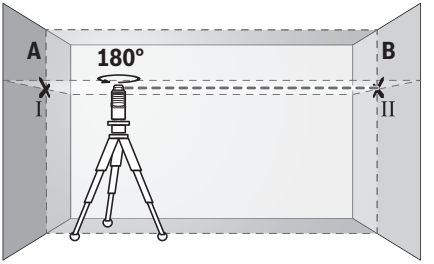
Kiểm Tra Cốt Thủy Chuẩn Ngang Chính Xác của Trục Cạnh Bên

Đối với kiểm tra loại này, khoảng cách đo tự do khoảng 5 m giữa tường A và B cần phải đặt trên một bề mặt ổn định.

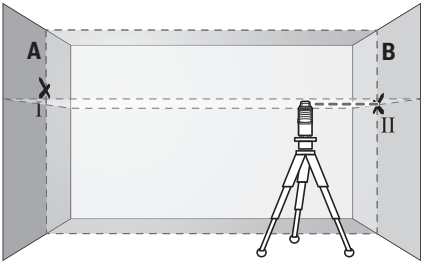
- Lắp dụng cụ đo vào giá đỡ hay đặt trên một bề mặt ổn định và bằng phẳng gần tường A. Cho dụng cụ đo hoạt động. Chọn chức năng lấy mực dường ngang và dọc với chế độ lấy cốt thủy chuẩn tự động.



- Hướng thẳng luồng laze ngang vào tường A cận bên và để dụng cụ đo lấy mực. Đánh dấu tâm điểm nơi các đường laze giao nhau trên tường (điểm I).

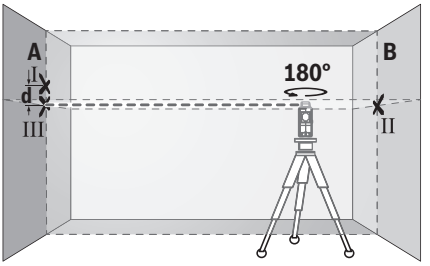


- Xoay dụng cụ đo vòng quanh 180 °, cho dụng cụ đo lấy mực và đánh dấu điểm giao nhau của các đường laze nằm trên tường đối diện B (điểm II).
- Đưa sát vào tường B mà không phải xoay dụng cụ đo. Cho dụng cụ đo hoạt động và chiếu vào.



- So chỉnh chiều cao của dụng cụ đo (nếu cần, sử dụng giá đỡ hay dùng vật kê bên dưới) sao cho

điểm giao nhau của các đường laze chiếu chính xác vào tiêu điểm II đã được đánh dấu trước đó trên tường B.



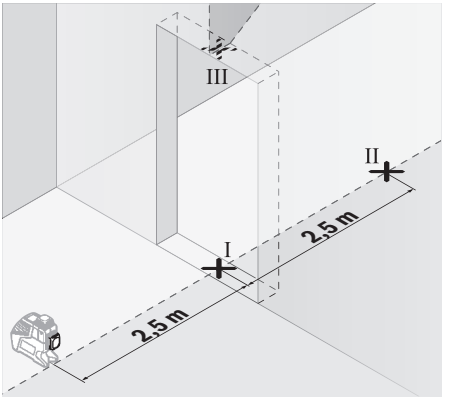
- Không làm thay đổi chiều cao, xoay dụng cụ đo vòng quanh 180 °. Rọi thẳng vào tường A cách sao cho đường laze thẳng đứng đi qua điểm I đã được đánh dấu trước đó, Cho dụng cụ đo lấy mực và đánh dấu điểm giao nhau của các đường laze nằm trên tường A (điểm III).
- Sự sai lệch **d** của hai điểm được đánh dấu I và III trên tường A là kết quả của chiều cao lệch hướng thực tế của dụng cụ đo dọc theo trục bên.

Đối với khoảng cách đo 2 x 5 m = 10 m, độ lệch tối đa cho phép là:
10 m x ±0.2 mm/m = ±2 mm.
Do vậy, độ sai lệch **d** giữa các điểm I và III không được vượt quá 2 mm (tối đa).

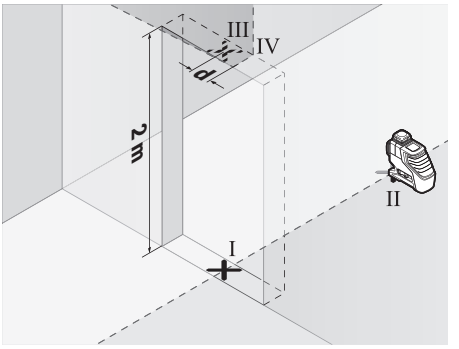
Kiểm Tra Cốt Thủy Chuẩn Chính xác của Mực Thẳng Đứng

Đối với kiểm tra loại này, khung cửa trống cần mỗi bên cửa rộng ít nhất là 2.5 m (trên một bề mặt ổn định).

- Đặt dụng cụ đo lên trên một bề mặt vững chắc và bằng phẳng (không đặt trên giá đỡ) cách khung cửa trống 2.5 m. Cho dụng cụ đo chiếu vào trong khi sự vận hành theo chiều dọc tự lấy mực thủy chuẩn tự động, và hướng thẳng tia laze vào khung cửa trống.



- Đánh dấu tâm điểm của đường laze thẳng đứng ngay tại sàn nhà dưới khung cửa trống (điểm I), và qua phía bên kia khung cửa trống với khoảng cách là 5 mét (điểm II) và ngay tại cạnh trên của khung cửa trống (điểm III).



- Xoay dụng cụ đo vòng quanh 180 ° và đặt dụng cụ phía bên kia của khung cửa trống trực tiếp ngay sau điểm II. Cho dụng cụ đo chiếu vào và so chỉnh đường laze dọc cách sao cho điểm giữa của dụng cụ chạy chính xác ngang qua các điểm I và II.
- Đánh dấu tâm điểm của đường laze nằm ở cạnh trên của khung cửa trống như điểm IV.
- Sự sai lệch **d** của cả hai điểm được đánh dấu III và IV là kết quả của sự lệch hướng thực tế của dụng cụ đo so với đường dây dọi.
- Đo chiều cao của khung cửa trống.

Sự lệch hướng tối đa cho phép được tính toán như sau:
Nhân đôi chiều cao của khung cửa trống
x 0.2 mm/m
Ví dụ: Chiều cao của khung cửa trống là 2 m, sự lệch hướng tối đa có thể là
2 x 2 m x ±0.2 mm/m = ±0.8 mm. Do đó, điểm III và IV có thể không được cách xa nhau vượt quá 0.8 mm (tối đa).

Hướng Dẫn Sử Dụng

▶ **Luôn luôn sử dụng tâm điểm của đường laze để đánh dấu.** Chiều rộng của đường laze thay đổi tùy theo khoảng cách.

Sử dụng cùng với tấm cọc tiêu laze

Tấm cọc tiêu laze **15** làm tăng khả năng nhìn thấy tia laze trong điều kiện không thuận lợi hay từ một khoảng cách lớn.

Bộ phận phản chiếu của tấm cọc tiêu laze **15** làm sự thấy rõ đường laze được tốt hơn. Nhờ vào bộ phận trong suốt, đường laze cũng có thể nhìn thấy được từ mặt sau của tấm cọc tiêu laze.

Thao tác với Giá ba chân (phụ tùng)

Giá đỡ hay giá ba chân tạo sự ổn định, có thể điều chỉnh độ cao trong khi đo. Lắp đặt dụng cụ đo với

phần gắn giá đỡ 1/4" **9** lên trên ổ ren lắp chân của giá đỡ **22** hay giá đỡ máy ảnh có bán ngoài thị trường. Để gắn giá đỡ dùng trong ngành xây dựng có trên thị trường, hãy sử dụng phần gắn giá đỡ 5/8" **8**. Vặn chặt dụng cụ đo bằng núm vặn lắp bắt của giá đỡ.

Gắn lắp vào Bệ Đỡ Phổ Thông (phụ tùng) (xem hình D)

Bằng cách sử dụng bệ đỡ phổ thông **19**, ta có thể gắn dụng cụ đo vào. vd. lên một bề mặt thẳng đứng, đường ống hay các vật liệu từ hóa được. Bệ đỡ phổ thông cũng có thể sử dụng thích hợp như giá đỡ đặt trên mặt đất và làm cho việc điều chỉnh độ cao của dụng cụ đo được dễ dàng hơn.

Vận hành với Thước Bảng (phụ tùng) (xem hình A – B)

Khi sử dụng với thước bảng **16**, ta có thể chiếu tiêu điểm laze lên trên sàn nhà hay chiều cao laze lên trên tường.

Với trường bằng không và với thước chia độ, ta có thể đo chỗ khuỷu hay khoảng cách dốc ngược theo chiều cao yêu cầu hoặc chiếu vào một địa điểm khác. Cách thức này loại bỏ sự cần thiết phải điều chỉnh dụng cụ đo cho thật chính xác đối với chiều cao phải chiếu vào.

Thước bảng **16** được phủ chất liệu phản chiếu ở mặt ngoài để làm tăng mức độ nhìn thấy được luồng laze ở một khoảng cách rộng hoặc dưới ánh sáng chói chang của mặt trời. Sự gia tăng cường độ sáng chỉ có thể nhìn thấy được khi nhìn song song với luồng laze lên trên thước bảng.

Vận hành với thiết bị Thu Laze (phụ tùng) (xem hình D)

Trong điều kiện ánh sáng không thuận lợi (khu vực sáng chói, ánh sáng mặt trời chiếu trực tiếp) hay là ở một khoảng cách lớn, hãy sử dụng thiết bị thu laze để cải thiện sự nhận biết đường chiếu laze **17**. Khi vận hành với thiết bị thu laze, mở chức năng xung tín hiệu lên (xem “Chức Năng Xung Tín Hiệu”, trang 203).

Kính nhìn laze (phụ tùng)

Kính nhìn laze lọc bỏ ánh sáng xung quanh. Cách này làm cho mắt nhìn thấy ánh sáng đỏ của tia laze sáng hơn.

- ▶ **Không được sử dụng kính nhìn laze như là kính bảo hộ lao động.** Kính nhìn laze được sử dụng để cải thiện sự quan sát luồng laze, nhưng chúng không bảo vệ chống lại tia bức xạ laze.
- ▶ **Không được sử dụng kính nhìn laze như kính mát hay dùng trong giao thông.** Kính nhìn laze không đủ khả năng bảo vệ hoàn toàn UV (tia cực tím) và làm giảm sự cảm nhận màu sắc.

Công việc theo Thí dụ (xem hình C–H)

Các ứng dụng mẫu cho dụng cụ đo có thể tra cứu trên các trang hình ảnh.

Bảo Dưỡng và Bảo Quản

Bảo Dưỡng Và Làm Sạch

Chỉ được cất giữ và vận chuyển dụng cụ đo trong túi xách bảo vệ được giao kèm.

Luôn luôn giữ cho dụng cụ đo thật sạch sẽ.

Không được nhúng dụng cụ đo vào trong nước hay các chất lỏng khác.

Lau sạch bụi bẩn bằng một mảnh vải mềm và ẩm. Không sử dụng bất cứ chất tẩy rửa hay dung môi nào.

Thường xuyên lau sạch bề mặt các cửa chiếu laze một cách kỹ lưỡng, và lưu ý đến các tưa vải hay sợi chỉ.

Nếu giả như dụng cụ đo bị trục trặc dù đã được theo dõi cẩn thận trong quá trình sản xuất và đã qua chạy kiểm tra, sự sửa chữa phải do trung tâm bảo hành-bảo trì dụng cụ điện cầm tay Bosch ủy nhiệm thực hiện. Bạn không được tự ý tháo mở dụng cụ đo ra.

Trong mọi thư từ giao dịch và đơn đặt hàng phụ tùng thay thế, xin vui lòng ghi đủ mã số bao gồm 10 con số được ghi trên nhãn loại của dụng cụ đo.

Trong trường hợp sửa chữa, xin gửi dụng cụ đo được bọc trong túi xách bảo vệ **18**.

Dịch Vụ Sau Khi Bán và Dịch Vụ Ứng Dụng

Bộ phận phục vụ hàng sau khi bán của chúng tôi sẽ trả lời các câu hỏi liên quan đến việc bảo trì và sửa chữa các sản phẩm cũng như các phụ tùng thay thế của bạn. Hình ảnh chi tiết và thông tin phụ tùng thay thế có thể tìm hiểu theo địa chỉ dưới đây:
www.bosch-pt.com
Bộ phận dịch vụ ứng dụng Bosch sẽ hân hạnh trả lời các câu hỏi liên quan đến các sản phẩm của chúng tôi và linh kiện của chúng.

Việt Nam

Công ty Trách Nhiệm Hữu Hạn Robert Bosch
Việt Nam, PT/SVN
Tầng 10,194 Golden Building
473 Điện Biên Phủ
Phường 25, Quận Bình Thạnh
Thành Phố Hồ Chí Minh
Việt Nam
Tel.: (08) 6258 3690 Ext 413
Fax: (08) 6258 3692
hieu.lagia@vn.bosch.com
www.bosch-pt.com

Thải bỏ

Dụng cụ đo, phụ kiện và bao bì phải được phân loại để tái chế theo hướng thân thiện với môi trường.

Không được thải bỏ dụng cụ đo và pin/pin nạp điện lại được vào chung với rác sinh hoạt!

Chỉ dành cho các nước EC:

Căn cứ theo Chính sách Hướng dẫn Thực hiện của Châu Âu 2012/19/EU, dụng cụ đo không còn sử dụng được nữa, và căn cứ theo Chính sách Hướng dẫn Thực hiện của Châu Âu 2006/66/EC, bộ nguồn pin/pin đã bị hư hỏng hay hết công dụng phải được thu gom riêng biệt và thải bỏ theo cách ứng xử đúng với môi trường.

Được quyền thay đổi nội dung mà không phải thông báo trước.

لدول الاتحاد الأوروبي فقط:

حسب التوجيه الأوروبي 2012/19/EU يجب أن يتم جمع عدد القياس الغير صالحة للاستعمال، وحسب التوجيه الأوروبي 2006/66/EC يجب أن يتم جمع المراكم/البطاريات التالفة أو المستهلكة على انفراد ليتم التخلص منها بطريقة منصفة بالبيئة عن طريق التدوير.

نحتفظ بحق إدخال التعديلات.

- افتل عدة القياس بمقدار 180° واركنها على الجانب الآخر من فتحة الباب مباشرة خلف النقطة II. اسمع بتسوية عدة القياس ووجه خط الليزر العامودي بحيث يمر منتصفه من النقطتين I و II بدقة.
- علّم منتصف خط الليزر على الحافة العلوية بفتحة الباب على أنه النقطة IV.
- إن الفرق **d** بين النقطتين III و IV يشكل تفاوت عدة القياس الحقيقي عن الشاقول.
- يقاس ارتفاع فتحة الباب.

يحسب التفاوت الأقصى المسموح بالطريقة التالية:

ضعف ارتفاع فتحة الباب x 0,2 مم/م

مثال: يبلغ التفاوت الأقصى المسموح عندما يبلغ ارتفاع فتحة الباب 2 م 2 x 2 م x ± 0,2 مم/م = ± 0,8 مم. أي أنه يجوز أن تبعد التقطتين III و IV عن بعضها بمسافة أقصاها 0,8 مم.

ملاحظات شغل

◀ **يستخدم دائما منتصف خط الليزر للتعليم فقط.** يتغير عرض خط الليزر مع تغيير البعد.

العمل بواسطة لوحة تنشين الليزر

إن لوحة تنشين الليزر

15 تحسن إمكانية رؤية شعاع الليزر عندما تكون الأجواء غير ملائمة وبالمسافات الكبيرة.

إن النصف العاكس بلوحة تنشين الليزر **15** يحسن إمكانية رؤية خط الليزر، ويمكن من خلال النصف الشفاف رؤية خط الليزر أيضا من الجانب الخلفي بلوحة تنشين الليزر.

العمل بواسطة المنصب الثلاثي القوائم (من التوابع)

يشكل المنصب الثلاثي القوائم قاعدة قياس ثابتة وقابلة لضبط الارتفاع. ركز عدة القياس بحاضن المنصب الثلاثي القوائم ¼ إنش **9** على أسنان لولبة المنصب **22** أو على منصب آلات تصوير متداول. من أجل تثبيته على منصب إنشاءات متداول ينبغي استخدام حاضن المنصب الثلاثي القوائم 5/8 إنش **8**. ثبت عدة القياس عن طريق إحكام شد لولب التثبيت بالمنصب.

التثبيت بواسطة الحامل العام (من التوابع) (تراجع الصورة D)

يمكن تثبيت عدة القياس بالاستعانة بالحامل العام **19** على السطوح العمودية ، والأنابيب أو المواد المغناطيسية. يصلح الحامل العام للاستخدام كمنصب أرضي أيضا وهو يسهل تسوية ارتفاع عدة القياس.

العمل بصفيحة القياس (من التوابع) (تراجع الصور A–B)

يمكنك بالاستعانة بصفيحة القياس **16** أن تنقل علامة الليزر إلى الأرض أو ارتفاع الليزر إلى الجدار.

يمكنك بواسطة حقل الصفر على المقياس أن تقيس فرق الارتفاع بالنسبة لارتفاع مرغوب وأن تضيفه بمكان آخر. ويؤدي ذلك إلى عدم ضرورة إعادة ضبط عدة القياس بشكل دقيق على الارتفاع المرغوب نقله.

إن صفيحة القياس **16** مزودة بطلاء عاكس وهو يحسن إمكانية رؤية شعاع الليزر على بعد كبير أو عندما تشع أشعة الشمس بقوة. يمكنك أن تلاحظ زيادة شدة النصوع فقط إن وجهت نظرك إلى صفيحة القياس إضافة إلى شعاع الليزر.

العمل مع مستقبل الليزر (من التوابع) (تراجع الصورة D)

استخدم مستقبل الليزر **17** عندما تكون ظروف الإضاءة غير ملائمة (محيط فاتح، أشعة شمس مباشرة) وعلى مسافات كبيرة من أجل تحسين إمكانية العثور على خطوط الليزر. شغل وظيفة النبض عند العمل بواسطة مستقبل الليزر (يراجع "وظيفة النبض"، الصفحة 211).

نظارات رؤية الليزر (من التوابع)

إن نظارات رؤية الليزر تقوم بترشيح الضوء المحيط، وبذلك يبدو ضوء الليزر الأحمر أكثر سطوعا للعين.

◀ **لا تستخدم نظارات رؤية الليزر كنظارات واقية.** غرض نظارات رؤية الليزر هو تحسين إمكانية رؤية شعاع الليزر ولكنها لا تحمي من إشعاعات الليزر.

◀ **لا تستخدم نظارات رؤية الليزر كنظارات شمسية أو في نظام المرور.** لا تؤمن نظارات رؤية الليزر وقاية كاملة من الأشعة الفوق بنفسجية وهي تخفض إمكانية التعرف على الألوان.

أمثلة شغل (تراجع الصور C–H)

يعثر على أمثلة لاستخدامات عدة القياس على صفحات الرسوم التخطيطية.

الصيانة والخدمة

الصيانة والتنظيف

خزن وانقل عدة القياس بحقيبة الوقاية المرفقة فقط.

حافظ دائما على نظافة عدة القياس.

لا تغطس عدة القياس في الماء أو غيرها من السوائل.

امسح الأوساخ بواسطة قطعة نسيج طرية ورطبة. لا تستعمل مواد التنظيف أو المواد المحلة.

نظف خاصة السطوح عند فتحة خروج الليزر بشكل منتظم وانتبه للنسالة أثناء ذلك.

عند حدوث أي خلل بعدة القياس بالرغم من أنها قد صنعت بعناية فائقة واجتازت اختبارات عديدة توجب تصليحها في مركز خدمة وكالة شركة بوش للعدد الكهربائية. لا تفتح عدة القياس بنفسك.

يرجى بشكل ضروري ذكر رقم الصنف بالمراتب العشر حسب لائحة طراز عدة القياس عند الاستشارة وعند إرسال طلبيات قطع الغيار.

ترسل عدة القياس في حال توجب تصليحها في حقيبة الوقاية **18**.

خدمة الزبائن ومشورة الاستخدام

يجيب مركز خدمة الزبائن على أسئلتكم بصدد تصليح وصيانة المنتج وأيضا بما يخص قطع الغيار. يعثر على الرسوم الممددة وعلى المعلومات عن قطع الغيار بموقع:

www.bosch-pt.com

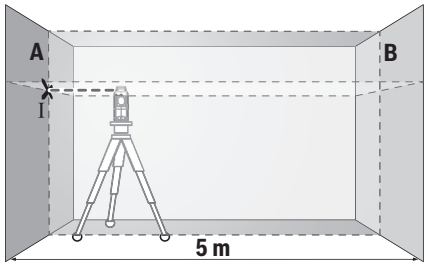
سيكون من دواعي سرور فرقة مشورة الاستخدام بشركة بوش أن تساعدكم بخصوص الأسئلة عن منتجاتنا وتوابعها.

يرجى التوجه إلى التاجر المختص بما يتعلّق بأمور الضمان والتصليح وتأمين قطع الغيار.

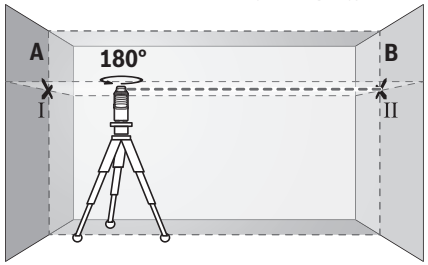
التخلص من العدة الكهربائية

يجب التخلص من عدة القياس والتوابع والتغليف بطريقة منصفة بالبيئة عن طريق النفايات القابلة لإعادة التصنيع.

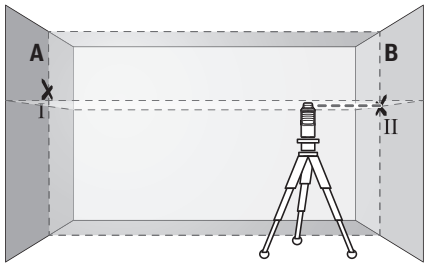
لا ترم عدد القياس والمراكم/البطاريات في النفايات المنزلية!



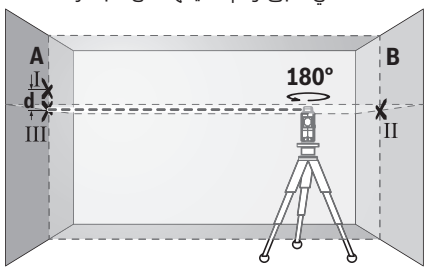
- وجه الليزر على الجدار القريب A. اترك عدة القياس لتقوم بالتسوية. علم منتصف النقطة التي يتصالب بها خطا الليزر على الجدار (النقطة I).



- ابرم عدة القياس بمقدار 180° درجة، اسمح لها أن تقوم بالتسوية وعلّم منتصف نقطة تصالب خطي الليزر على الجدار المقابل B (النقطة II).
- اركن عدة القياس - دون تدويرها - بقرب الجدار B، شغلها واسمح لها أن تقوم بالتسوية.



- ابدأ بتسوية ارتفاع عدة القياس (بواسطة المنصب الثلاثي القوائم أو من خلال وضع شيء ما تحتها عند الضرورة) بحيث تصيب نقطة تصالب خطي الليزر بدقة النقطة II التي سبق وتم تعليمها على الجدار B.



- ابرم عدة القياس بمقدار 180° درجة دون أن تغير ارتفاعها. وجهها على الجدار A بحيث يمر خط الليزر العامودي عبر النقطة I التي سبق وتم تعليمها. اسمح لها أن تقوم بالتسوية وعلّم نقطة تصالب خطي الليزر على الجدار A (النقطة III).
- إن الفرق **d** بين النقطتين I و III المعلمتين على الجدار A يشكل تفاوت الارتفاع الحقيقي بعدة القياس على مسار المحور الجانبي.

يبلغ التفاوت الأقصى المسموح بمسافة قياس قدرها 2 x 5 م = 10 م:

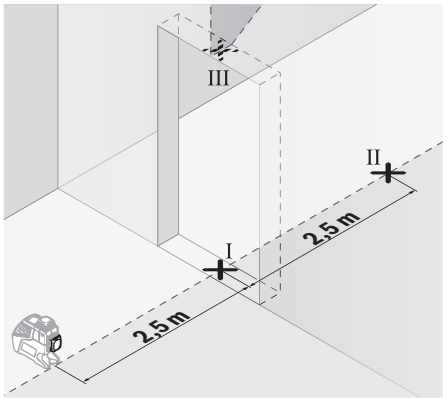
10 م x ± 0,2 مم/م= ± 2 مم.

أي أنه يجوز أن يبلغ الفرق d بين النقطتين I و III 2 مم كحد أعلى.

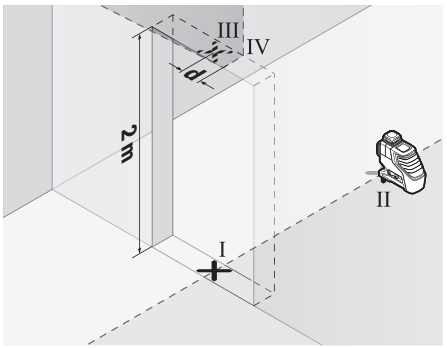
تفحص دقة التسوية بالخط العامودي

لكي يتم التفحص، فإنك بحاجة إلى فتحة باب يتوفر على كل من جانبيها خلاء (على أرضية ثابتة) يبلغ 2,5 م على الأقل.

- اركن عدة القياس أمام فتحة الباب على بعد 2,5 م على أرضية ثابتة ومستوية (لا تستعمل المنصب الثلاثي القوائم). اسمح بتسوية عدة القياس بالتشغيل العامودي مع آلية التسوية، ووجه خطوط الليزر على فتحة الباب.



- علّم منتصف خط الليزر العامودي على أرض فتحة الباب (النقطة I) وعلى بعد 5 م على الجانب الآخر من فتحة الباب (النقطة II) وأيضا على الحافة العلوية بفتحة الباب (النقطة III).



المركز **"off"**أولا وأن تشغل عدة القياس بعد ذلك، أو أن تضغط مرة واحدة على زر أنواع التشغيل **5** أو على زر وظيفة النبض **3**.

لإلغاء آلية الإطفاء، يحافظ على ضغط مفتاح أنواع التشغيل **5** (عندما تكون عدة القياس في وضع التشغيل) لمدة 3 ثا على الأقل. إن تم إلغاء آلية الإطفاء، تخفق أشعة الليزر للحظة للتأكيد.

من أجل تشغيل آلية الإطفاء، ينبغي إطفاء عدة القياس ثم إعادة تشغيلها، أو يمكن عوضا عن ذلك أن يضغط على مفتاح أنواع التشغيل **5** باستمرار لمدة 3 ثا على الأقل.

إطفاء الإشارة الصوتية

يتم تشغيل الإشارة الصوتية دائما عند تشغيل عدة القياس.

من أجل تشغيل أو إطفاء المؤشر الصوتي يضغط بنفس الوقت على مفتاح أنواع التشغيل **5** وعلى زر وظيفة النبض **3** ويحافظ على إبقائهما بحالة الانضغاط لمدة ٣ ثا على الأقل.

ويتم إطلاق ثلاث إشارات صوتية قصيرة للتأكيد سواء عند التشغيل أو عند الاطفاء.

أنواع التشغيل

تمتاز عدة القياس بثلاثة أنواع للتشغيل، ويمكن الانتقال من نوع لآخر في أية لحظة:

- التشغيل الأفقي: بشكل مستوى ليزر أفقي،
- التشغيل العامودي: بشكل مستوى ليزر عامودي،
- التشغيل بالخطوط المتصالبة: بشكل مستوى ليزر أفقي ومستوى ليزر عامودي.

تكون عدة القياس بنوع التشغيل الأفقي عند تشغيلها. يضغط زر أنواع الشغيل **5** من أجل تغيير نوع التشغيل.

يمكن اختيار أنواع التشغيل الثلاثة مع أو دون آلية التسوية.

وظيفة النبض

عند العمل بواسطة مستقبل الليزر **17** يجب – وبغض النظر عن نوع التشغيل الذي تم اختياره – أن يتم تشغيل وظيفة النبض.

تخفق خطوط الليزر بتردد عال جدا بوظيفة النبض، مما يسمح لمستقبل الليزر **17** من العثور عليها.

يضغط الزر **3** من أجل تشغيل وظيفة النبض. يضيء المؤشر **4** باللون الأخضر عندما تكون وظيفة النبض قيد التشغيل.

تقل إمكانية رؤية خطوط الليزر بواسطة العين البشرية عند تشغيل وظيفة النبض. لذلك تطفأ وظيفة النبض عند العمل دون مستقبل الليزر من خلال إعادة الضغط على الزر **3**. يطفأ المؤشر **4** عند إطفاء وظيفة النبض.

آلية التسوية

الشغل مع آلية التسوية

اركن عدة القياس على أرضية أفقية وثابتة، وثبتها على الحامل **19** أو المنصب الثلاثي القوائم **22**.

من أجل العمل مع آلية التسوية يدفع مفتاح التشغيل والإطفاء **7** إلى المركز **"on"**.

تعادل آلية التسوية بعد التشغيل التعرجات ضمن مجال التسوية الذاتية من ±4° بشكل آلي. يكون قد تم ختم التسوية فور توقف خطوط الليزر عن الحركة.

إن لم تكن التسوية الآلية ممكنة، مثلا لأن أرضية ركن عدة القياس تتفاوت عن الأفق أكثر من 4 فإن خطوط الليزر تخفق بإيقاع سريع. إن كان قد تم تشغيل المؤشر الصوتي، تنطلق إشارة صوتية بإيقاع سريع لمدة أقصاها 30 ثا. يطفأ هذا الإنذار ضمن 10 ثا بعد التشغيل، من أجل إتاحة المجال لتهيئة عدة القياس.

اركن عدة القياس بوضعية أفقية وانتظر لتقوم بالتسوية الذاتية. ستضيء أشعة الليزر باستمرار فور تواجد عدة القياس ضمن مجال التسوية الذاتية البالغ ±4° وستطفأ الإشارة الصوتية.

يتم إعادة تسوية عدة القياس بشكل آلي عند الاضطرابات أو عند تغيير الوضعية أثناء التشغيل. تفحص مركز خطوط الليزر الأفقية أو العامودية بعد إعادة التسوية نظرا إلى النقط المرجعية من أجل تجنب الأخطاء.

العمل دون آلية التسوية

ادفع مفتاح التشغيل والإطفاء **7** إلى المركز **"on"** من أجل العمل بلا آلية التسوية. يضئ المؤشر **6** بالأحمر وتخفق خطوط الليزر لمدة 30 ثا بإيقاع بطيء عندما تكون آلية التسوية مطفأة.

يمكن حمل عدة القياس باليد بطلاقة أو ركنها على أرضية ملائمة عند اطفاء آلية التسوية. لم يعد من الضروري أن يتقاطع خطا الليزر بشكل قائم عند التشغيل المتصالب.

دقة التسوية

عوامل مؤثرة على الدقة

تشكل درجة الحرارة المحيطية التأثير الأكبر على الدقة. ويمكن بشكل خاص لتفاوتات درجات الحرارة المتوجهة من الأرض إلى الأعلى أن تؤدي إلى انحراف شعاع الليزر.

بما أن تراكب درجات الحرارة يبلغ حده الأعلى على مقربة من الأرض، فيفضل أن يتم تركيب عدة القياس على المنصب الثلاثي القوائم دائما ابتداء من مسافة قياس قدرها 20 م. كما يفضل نصب عدة القياس بمنتصف مساحة العمل إن أمكن ذلك.

يمكن أيضا للعوامل المتعلقة بالجهاز (السقوط أو الصدمات الشديدة مثلا) إضافة إلى العوامل الخارجية أن تؤدي إلى التفاوت بالقياس. لذلك ينبغي تفحص دقة القياس بعدة القياس قبل البدئ بالعمل كل مرة.

تفحص دائما دقة التسوية بخط الليزر الأفقي أولا ثم دقة التسوية بخط الليزر العامودي.

اسمح بتصليح عدة القياس لدى مركز خدمة الزبائن بشركة بوش لو تجاوزت التفاوت الأقصى بإحدى عمليات التفحص.

تفحص دقة التسوية الأفقية للمحور العرضي

لكي يتم التفحص، فإنك بحاجة إلى مسافة قياس خالية على أرضية ثابتة ببعد يبلغ حوالي 5 م بين جدارين A و B.

- ركب عدة القياس قرب الجدار A على منصب ثلاثي القوائم أو اركنها على أرضية ثابتة مستوية. شغل عدة القياس. عيرها على التشغيل بالخطوط المتصالبة مع آلية التسوية.

البيانات الفنية

ليزر خطي	GLL 2-80 P
رقم الصنف	3 601 K63 2..
مجال العمل[1]	
- نموذجي	20 متر
- مع وظيفة النبض	15 متر
- مع مستقبل الليزر	5–80 متر
دقة التسوية	±0,2 مم/متر
مجال التسوية الذاتية النموذجية	±4°
مدة التسوية النموذجية	< 4 ثا
درجة حرارة التشغيل	−10 °C... +45 °C
درجة حرارة التخزين	−20 °C ... +70 °C
الرطوبة الجوية النسبية القصوى	90 %
درجة الليزر	2
طراز الليزر	640 نانومتر، <1 ميلیواط
C_6	1
مدة أقصر نبضة	1/600 ثا
حاضن المنصب الثلاثي القوائم	1/4"، 5/8"
بطاريات	4 x 1,5 فولط LR06 (AA)
مدة التشغيل	
- مع مستويي ليزر اثنين	9 ساعة
- مع مستوى ليزر واحد	18 ساعة
الوزن حسب EPTA-Procedure 01/2003	0,7 كغ
المقاسات (الطول x العرض x الارتفاع)	159 x 54 x 141 مم
نوع الوقاية	IP 54 (وقاية من الغبار ورذاذ الماء)

1) قد يقل مجال العمل من خلال شروط الأجواء الغير ملائمة (مثلا: التعرض لأشعة الشمس المباشرة).لتمييز عدة القياس بوضوح، يرجع إلى الرقم المتسلسل **13** على لافتة الطراز.

التركيب

تركيب/استبدال البطاريات

ينصح باستخدام بطاريات المنغنيز القلوي لتشغيل عدة القياس.

من أجل فتح غطاء حجرة البطاريات **10** يدفع مفتاح التثبيت **11** باتجاه السهم ويقلب غطاء حجرة البطاريات. ركب البطاريات. انتبه أثناء ذلك إلى وصل الأقطاب بالشكل الصحيح حسب الصور بالجانب الداخلي بغطاء حجرة البطاريات.

عندما تضعف البطاريات تطلق إشارة صوتية مرة واحدة لمدة 5 ثا. يخفق مؤشر التحذير للبطارية **2** بالأحمر بشكل مستمر. يمكن متابعة تشغيل عدة القياس لمدة لا تتجاوز 2 سا.

إن كانت البطاريات ضعيفة عند تشغيل عدة القياس، تطلق الإشارة الصوتية لمدة 5 ثا بعد تشغيل عدة القياس فورا.

استبدل دائما جميع البطاريات في آن واحد. استخدم فقط بطاريات من نفس المنتج وبنفس السعة.

- **انزع البطاريات عن عدة القياس عند عدم استعمالها لفترة طويلة.** قد تتآكل البطاريات عند خزنها لفترة طويلة فتقوم بتفريغ نفسها.

التشغيل

بدء التشغيل

- **تصدر أصوات إشارة عالية بظروف معينة عند تشغيل عدة القياس. لذلك ينبغي المحافظة على إبعاد عدة القياس عن الإذن وعن الأشخاص الآخرين.** إن الصوت العالي قد يضر قدرة السمع.
- **احم عدة القياس من الرطوبة ومن أشعة الشمس المباشرة.**
- **لا تعرض عدة القياس لدرجات الحرارة القصوى أو للتقلبات الحرارية.** لا تتركها في السيارة لفترة طويلة مثلا. اسمح لعدة القياس أن تتوصل إلى درجة حرارة معتدلة قبل تشغيلها عند توفر التقلبات الشديدة بدرجات الحرارة. قد تخل درجات الحرارة القصوى أو التقلبات الشديدة بدرجات الحرارة بدقة عدة القياس.
- **تجنب الصدمات الشديدة بعدة القياس أو سقوطها.** إن إصابة عدة القياس بالأضرار قد تؤثر على الدقة. قارن خطوط الليزر أو اشعاع الشاقول مع خط مرجعي أفقي أو شاقولي معلوم أو مع نقط شاقول مفحوصة لتفحص الدقة بعد سقوطها أو صدمها بشدة.
- **اطفئ عدة القياس عندما تقوم بنقلها.** يتم إقفال وحدة التأرجح عند الإطفاء، فقد تتلف من خلال الحركات الشديدة.

التشغيل والإطفاء

من أجل **تشغيل** عدة القياس يدفع مفتاح التشغيل والإطفاء **7** إلى المركز **"on"** (من أجل العمل دون آلية التسوية) أو إلى المركز **"on"** (من أجل العمل مع آلية التسوية). ترسل عدة القياس فورا بعد تشغيلها خطوط ليزر من فتحات الخرج **1**.

- **لا توجه شعاع الليزر على الأشخاص أو الحيوانات ولا توجه أنت نظرك إلى شعاع الليزر، ولا حتى عن بعد كبير.**
- **لا تترك عدة القياس قيد التشغيل دون مراقبة واطفئ عدة القياس بعد استعمالها.** قد يتم إعماء بصر أشخاص آخرين بشعاع الليزر.

من أجل **إطفاء** عدة القياس يدفع مفتاح التشغيل والإطفاء **7** إلى المركز **"off"**. يتم إقفال وحدة التأرجح عند الإطفاء.

يتم الإطفاء عند تجاوز درجة حرارة التشغيل القصوى المسموحة البالغة 45 °C من أجل وقاية صمام الليزر الثنائي. تمسي عدة القياس صالحة للتشغيل بعد التبريد ويمكن إعادة تشغيلها عندئذ.

إلغاء آلية الإطفاء

إن لم يضغط أي مفتاح بعدة القياس لمدة 30 د تقريبا، فإن عدة القياس تطفأ بشكل آلي من أجل صيانة البطاريات.

لكي يتم تشغيل عدة القياس بعد انطفائها بشكل آلي، يمكنك إما أن تدفع مفتاح التشغيل والإطفاء **7** إلى

عربي

تعليمات الأمان

ليزر خطي

يجب قراءة ومراعاة جميع الإرشادات للعمل بعدة القياس بأمان وبلا مخاطرات. لا تتلف اللافتات التحذيرية الموجودة على عدة القياس أبدا. احتفظ بهذه التعليمات بحالة جيدة، واحرص على إرفاقها بعدة القياس في حالة إعطائها لشخص آخر.

- **احترس – إن استخدمت تجهيزات تحكم أو ضبط غير التي تم ذكرها هنا أو إن تم تطبيق أساليب عمل أخرى، فقد يؤدي ذلك إلى تعرّض إشعاعي خطير.**
- **يتم تسليم عدة القياس مع لافتة تحذيرية (تم الإشارة إليها بصورة عدة القياس على صفحة الرسوم التخطيطية بالرقم 12).**

- **إن لم يكن النص على اللافتة التحذيرية بلغة بلدك، فالصق عليه الملصقة المرفقة بلغة بلدك قبل الاستخدام للمرة الأولى.**

لا توجه شعاع الليزر على الأشخاص أو الحيوانات ولا توجه نظرك إلى شعاع الليزر المباشر أو المنعكس. حيث يتسبب ذلك في إبهار الأشخاص أو في وقوع حوادث أو حدوث أضرار بالعينين.

- **في حالة سقوط أشعة الليزر على العين، فقم بغلقها على الفور، وأبعد رأسك عن شعاع الليزر.**
- **لا تقم بإجراء تغييرات على جهاز الليزر.**
- **لا تستخدم نظارات رؤية الليزر كنظارات واقية.** غرض نظارات رؤية الليزر هو تحسين إمكانية رؤية شعاع الليزر ولكنها لا تحمي من إشعاعات الليزر.
- **لا تستخدم نظارات رؤية الليزر كنظارات شمسية أو في نظام المرور.** لا تؤمن نظارات رؤية الليزر وقاية كاملة من الأشعة الفوق بنفسجية وهي تخفض إمكانية التعرف على الألوان.
- **اسمح بتصليح عدة القياس من قبل العمال المؤهلين والمتخصصين وباستعمال قطع الغيار الأصلية فقط.** يؤمن ذلك المحافظة على أمان عدة القياس.
- **لا تسمح للأطفال باستخدام عدة قياس الليزر دون مراقبة.** قد يقوموا بإعماء بصر الآخرين بشكل غير مقصود.
- **لا تشتغل بواسطة عدة القياس في محيط معرض لخطر الانفجار الذي تتوفر به السوائل أو الغازات أو الأغبرة القابلة للاحتراق.** قد يُنتج الشرر في عدة القياس، فيشعل هذه الأغبرة أو الأبخرة.

لوحة تنشين الليزر

لا تقترب بعدة القياس وبلوحة تنشين الليزر 15 من الناظمات القلبية الصنعية. يتشكل من قبل المغناطيس بعدة القياس وبلوحة تنشين الليزر مجال قد يخل بوظيفة الناظمات القلبية الصنعية.

- **حافظ على إبعاد عدة القياس ولوحة تنشين الليزر 15 عن وسائط حفظ المعلومات المغناطيسية وعن الأجهزة الحساسة بالمغناطيس.** قد يؤدي تأثير المغناطيس بعدة القياس وبلوحة تنشين الليزر إلى فقدان المعلومات بطريقة غير قابلة للاستعادة.

وصف المنتج والأداء

يرجى فتح الصفحة المثنية المزودة برسوم عدة القياس وتركها مفتوحة أثناء قراءة كراسة الاستعمال.

الاستعمال المخصص

لقد خصصت عدة القياس لاستنتاج وتفحص الخطوط الأفقية والعامودية.

معلومات عن الضجيج

يبلغ مستوى ضغط الصوت الخاص بالإشارة الصوتية والمقدر بالفئة A من مسافة متر 80 ديسيبل (A).

لا تضع عدة القياس على أذنك!

الأجزاء المصورة

يستند ترقيم الأجزاء المصورة إلى رسوم عدة القياس الموجودة على صفحة الرسوم التخطيطية.

1 مخرج اشعاع الليزر
2 التحذير للبطارية
3 زر وظيفة النبض
4 مؤشر وظيفة النبض
5 زر أنواع التشغيل
6 مؤشر العمل بلا آلية تسوية
7 مفتاح التشغيل والإطفاء
8 حاضن المنصب الثلاثي القوائم 5/8 إنش
9 حاضن المنصب الثلاثي القوائم 1/4 إنش
10 غطاء حجرة البطاريات
11 تثبيت غطاء حجرة البطاريات
12 لافتة تحذير-الليزر
13 الرقم المتسلسل
14 مغناطيس
15 لوحة تنشين الليزر
16 صفيحة قياس مع قاعدة*
17 مستقبل الليزر*
18 حقيبة وقاية*
19 حامل عام*
20 قضيب متراكب*
21 نظارات رؤية الليزر*
22 منصب ثلاثي القوائم*

*** إن التوابع الموصوفة أو الموجودة في الرسم ليست محتواة في إطار التوريد الاعتيادي.**

محل اتصال **8** که دارای رزوه اتصال "5/8 اینچ می باشد، استفاده کنید. ابزار اندازه گیری را بوسیله پیچ تثبیت سه پایه، محکم و مستقر کنید.

نحوه اتصال بوسیله گیره مهار یونیورسال (متعلقات) (رجوع شود به تصویر D)

بوسیله گیره مهار یونیورسال **19**، می توانید ابزار اندازه گیری را بطور مثال به سطوح عمودی، لوله ها و یا اشیاء مغناطیس شونده (آهنربایش پذیر) متصل و محکم کنید. علاوه بر این میتوان گیره مهار یونیورسال را بعنوان سه پایه زمینی مورد استفاده قرار داد و تنظیم ارتفاع ابزار اندازه گیری را تسهیل نمود.

نحوه کار با صفحه اندازه گیری (متعلقات) (رجوع شود به تصاویر A-B)

به کمك صفحه اندازه گیری **16** می توانید علامت گذاری لیزری را روی کف (زمین) و نیز ارتفاع لیزر را روی دیوار منتقل کنید.

به کمک منطقه صفر و درجه بندی مقیاس می توانید اختلاف یا جابجایی در ارتفاع دلخواه را اندازه گیری کنید و آنرا به یك محل دیگر منتقل کنید. به این ترتیب تنظیم دقیق ابزار اندازه گیری در ارتفاعی که باید انتقال انجام بگیرد، حذف می شود.

صفحه اندازه گیری **16** مجهز به یك روکش بازتابنده است که قابل رؤیت بودن پرتو لیزر را در فواصل زیاد و همچنین تحت تابش شدید نور خورشید بهبود می بخشد. این تقویت و بهبود روشنائی منحصراً زمانی قابل تشخیص است که به موازات پرتو لیزر، به صفحه اندازه گیری نگاه بکنید.

نحوه کار با دریافت کننده (دیتکتور) لیزر (متعلقات) (رجوع شود به تصویر D)

تحت شرایط نامساعد نوری (محیط خیلی روشن، تابش مستقیم نور خورشید) و در فواصل زیاد، برای پیدا کردن بهتر خطوط لیزر از دریافت کننده لیزر **17** استفاده کنید. در کار با دریافت کننده لیزر، عملکرد ضربان را روشن کنید (رجوع شود به مبحث "عملکرد ضربان (تپش)"، صفحه 217).

عینک مخصوص دید پرتو لیزر (متعلقات)

عینك مخصوص دید پرتو لیزر، نور اطراف را فیلتر می کند. به این ترتیب نور قرمز لیزر روشنتر دیده می شود.

- **از عینک مخصوص دید پرتو لیزر بعنوان عینک ایمنی استفاده نکنید.** عینک مخصوص دید پرتو لیزر برای تشخیص بهتر پرتو لیزر است ولیکن نمی تواند از چشم شما در برابر پرتو لیزر محافظت کند.
- **از عینک مخصوص دید پرتو لیزر بعنوان عینک آفتابی و یا هنگام رانندگی استفاده نکنید.** عینک مخصوص دید پرتو لیزر محافظت و ایمنی کامل را در برابر تشعشات ماورای بنفش ارائه نمی دهد و قدرت درجه تشخیص رنگ را نیز کاهش می دهد.

مثال های عملی (رجوع شود به تصاویر C-H)

نمونه هائی در رابطه با امکانات کاربرد ابزار اندازه گیری در صفحه تصاویر قابل مشاهده اند.

مراقبت و سرویس

مراقبت، تعمیر و تمیز کردن دستگاه

نگهداری و حمل و نقل ابزار اندازه گیری باید فقط بوسیله کیف محافظ ضمیمه شده انجام بگیرد.

ابزار اندازه گیری را همواره تمیز نگاه دارید.

ابزار اندازه گیری را در آب و یا سایر مایعات غوطه ور نکنید.

برای پاک کردن آلودگی از یک دستمال نرم و مرطوب استفاده کنید. از کاربرد مواد پاک کننده و یا حلال خودداری کنید.

بخصوص سطوح حول روزنه خروجی لیزر را بطور مرتب تمیز کنید و در این رابطه توجه داشته باشید که از دستمال بدون پُرز استفاده کنید.

در صورت از کار افتادن ابزار اندازه گیری، با وجود دقت بسیاری که در مراحل تولید و آزمایش آن صورت گرفته است، باید برای تعمیر آن به یکی از تعمیرگاه های مجاز و مراکز خدمات پس از فروش ابزارآلات برقی بوش مراجعه کنید. ابزار اندازه گیری را هرگز سر خود باز نکنید.

برای هرگونه سئوال و یا سفارش ابزار یدکی و متعلقات، لطفاً حتماً شماره فنی ده رقمی کالا را مطابق برچسب روی ابزار اندازه گیری اطلاع دهید.

به هنگام لزوم تعمیر، ابزار اندازه گیری را در داخل کیف محافظ **18** قرار داده و ارسال کنید.

خدمات پس از فروش و مشاوره با مشتریان

دفتر خدمات پس از فروش به سئوالات شما در باره تعمیرات، سرویس و همچنین قطعات یدکی و متعلقات پاسخ خواهد داد. تصاویر و اطلاعات در باره قطعات یدکی و متعلقات را میتوانید در سایت نامبرده زیر جستجو نمایید:

www.bosch-pt.com

تیم مشاور خدمات پس از فروش شرکت بوش با کمال میل به سئوالات شما در باره خرید، طرز استفاده و تنظیم محصولات و متعلقات پاسخ میدهد.

برای استفاده از گارانتی، تعمیر دستگاه و تهیه ابزار یدکی فقط به افراد متخصص مراجعه کنید.

از رده خارج کردن دستگاه

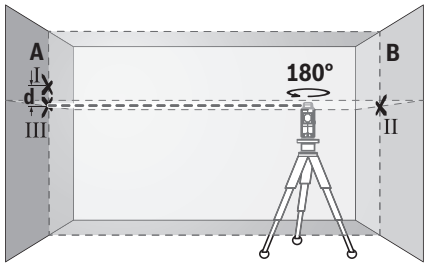
ابزار اندازه گیری، متعلقات و بسته بندی ها باید به طریق مناسب با حفظ محیط زیست از رده خارج و بازیافت شوند.

ابزار های اندازه گیری و باتریها/باتری های قابل شارژ را داخل زباله دان خانگی نیاندازید!

فقط برای کشورهای عضو اتحادیه اروپا:

دستگاههای کهنه و غیر قابل استفاده الکتریکی طبق آئین نامه و دستورالعمل اروپائی 2012/19/EU و باتریهای خراب یا فرسوده بر اساس آیین نامه ی اروپایی 2006/66/EC بایستی جداگانه و متناسب با محیط زیست جمع آوری شوند.

حق هرگونه تغییری محفوظ است.



- ابزار اندازه گیری را بدون اینکه تغییری در ارتفاع آن بدهید، 180° درجه بچرخانید. آنرا طوری به طرف دیوار A تنظیم کنید که خط عمودی لیزر از مرکز نقطه علامت گذاری شده I عبور کند. بگذارید ابزار اندازه گیری تراز بشود و نقطه مرکز محل تقاطع خطوط لیزر را بر روی دیوار A علامتگذاری کنید (نقطه III).
- اختلاف **d** مابین دو نقطه I و III علامتگذاری شده روی دیوار A، نتیجه میزان انحراف یا اختلاف واقعی ارتفاع ابزار اندازه گیری در امتداد محور عرضی است.

در مسافت اندازه گیری به مقدار

10 m = 2 x 5 m (10 متر)، حداکثر اختلاف یا خطای مجاز به شرح زیر است:

10 m x ± 0,2 mm/m = ± 2 mm

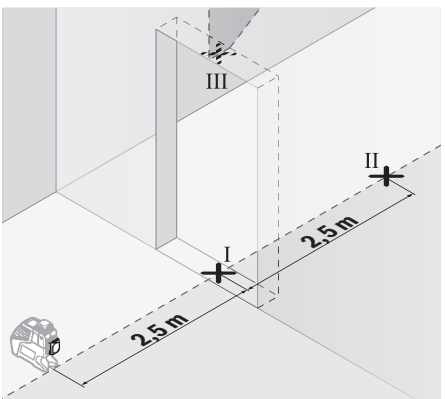
(10 متر x ± 0,2 میلیمتر در متر = ± 2 میلیمتر).

در نتیجه اختلاف d بین نقاط I و III باید حداکثر 2 میلیمتر باشد.

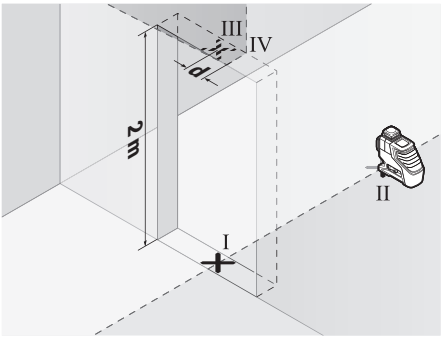
نحوه کنترل دقت تراز خط عمودی

برای کنترل به یک بازشو دَر (بر روی یک سطح مستحکم) که در هر طرف آن حداقل 2,5 متر فضای آزاد باشد نیاز است.

- ابزار اندازه گیری را به فاصله 2,5 متر از برش دَر (بازشو دَر) بر روی یک سطح محکم و مسطح مستقر کنید (آنرا بر روی یک سه پایه قرار ندهید). بگذارید ابزار اندازه گیری در عملکرد عمودی با تراز اتوماتیک تراز بشود و خط لیزر را بطرف بازشو دَر تنظیم کنید.



- نقطه مرکز خط لیزر عمودی را بر روی زمین (کف) بازشو دَر علامتگذاری کنید (نقطه I)، در فاصله 5 متری از طرف دیگر برش دَر (نقطه II) را و همچنین در حاشیه بالای بازشو دَر (نقطه III) را علامتگذاری کنید.



- ابزار اندازه گیری را 180° درجه بچرخانید و آنرا در طرف دیگر بازشو دَر مستقیماً در پشت نقطه II مستقر کنید. بگذارید ابزار اندازه گیری تراز بشود و خط لیزر عمودی را طوری تنظیم کنید که مرکز آن دقیقاً از میان نقاط I و II عبور کند.
- نقطه مرکز خط لیزر را در حاشیه بالای بازشو دَر بعنوان نقطه IV علامتگذاری کنید.
- اختلاف **d** مابین دو نقطه علامتگذاری شده III و IV، نتیجه میزان انحراف یا اختلاف واقعی ابزار اندازه گیری نسبت به خط عمودی است.
- ارتفاع بازشو دَر را اندازه گیری کنید.

حداکثر میزان اختلاف مجاز به شرح زیر محاسبه می شود:

دو برابر ارتفاع بازشو دَر x 0,2 mm/m

بطور مثال: در ارتفاع یک بازشو دَر به اندازه 2 متر، حداکثر میزان اختلاف مجاز می تواند معادل

2 x 2 m x ± 0,2 mm/m = ± 0,8 mm باشد. در نتیجه نقاط علامتگذاری شده III و IV، می توانند حداکثر معادل 0,8 میلیمتر و نه بیش از آن، از هم فاصله داشته باشند.

راهنمائی های عملی

◀ **همواره مرکز خط لیزر را برای علامتگذاری انتخاب کنید.** پهنای خط لیزر با تغییر فاصله تغییر می کند.

نحوه کار با صفحه هدف لیزر

صفحه هدف لیزر **15**، قابل رؤیت بودن پرتو لیزر را تحت شرائط نامساعد و همچنین از فواصل دور بهبود می بخشد.

نیمه بازتابنده و منعکس کننده صفحه هدف لیزر **15**، قابل رؤیت بودن بهتر پرتو لیزر را ممکن میسازد و از طریق نیمه دیگر شفاف آن، پرتو لیزر از طرف عقب (پشت) صفحه هدف لیزر نیز قابل تشخیص است.

نحوه کار با سه پایه (متعلقات)

سه پایه یک پایگاه ثابت و محکم با قابلیت تغییر و تنظیم ارتفاع برای اندازه گیری را فراهم می سازد. ابزار اندازه گیری را از محل اتصال **9** سه پایه بر روی رزوه اتصال 1/4" اینچ سه پایه **22** قرار بدهید یا آنرا یا بر روی یک سه پایه عکاسی قابل تهیه در بازار، مستقر کنید. برای نصب ابزار اندازه گیری بر روی یک سه پایه معمولی ساختمانی، از

می رسد. این صدای سیگنال بعد از مدت 10 ثانیه پس از روشن کردن ابزار اندازه گیری، خاموش می شود تا بتوان ابزار اندازه گیری را تنظیم نمود.

ابزار اندازه گیری را بطور افقی مستقر کنید و منتظر تراز شدن اتوماتیک ابزار اندازه گیری بمانید. به محض اینکه ابزار اندازه گیری در محدوده تراز شوندگی خودکار معادل ±4° درجه قرار بگیرد، پرتوهای لیزر بصورت پیوسته روشن شده و صدای سیگنال خاموش می شود.

در صورت ایجاد ارتعاشات، تکانهای شدید و یا تغییر مکان ابزار اندازه گیری در حین کار، ابزار اندازه گیری دوباره بطور اتوماتیک تراز می شود. پس از تراز شدن مجدد، وضعیت پرتو خطوط افقی و خطوط عمودی لیزر را نسبت به نقاط مبدأ کنترل کنید تا از بروز خطا جلوگیری بعمل آید.

نحوه کار بدون تراز اتوماتیک

برای کار با ابزار اندازه گیری بدون تراز اتوماتیک، دکمه روشن و خاموش **7** را در وضعیت **"on"** (روشن) قرار بدهید. در صورت خاموش بودن تراز اتوماتیک، نشانگر **6** به رنگ قرمز روشن شده و خطوط لیزر در آغاز به مدت 30 ثانیه بطور آهسته بصورت چشمک زن روشن می شوند.

چنانچه تراز اتوماتیک خاموش باشد، می توانید ابزار اندازه گیری را بطور آزاد در دست نگهدارید و یا آنرا بر روی یک سطح مناسب قرار بدهید. در عملکرد متقاطع، دو خط لیزر لزوماً بطور عمود بر یکدیگر قرار ندارند.

دقت تراز کردن

عوامل تاثیر گذارنده در دقت عمل

بیشترین تاثیر را دمای محیط کار دارد. بخصوص اختلافات و تفاوت دما در سیر جریان دما از سطح پائین (کف) به بالا می توانند پرتو لیزر را منحرف کنند.

از آنجا که قشرهای دما در نزدیکی زمین (کف) بیشتر و متراکم تر از نقاط دیگر است، بایستی که ابزار اندازه گیری را برای مسافتهای اندازه گیری بیش از 20 متر، همواره روی یک سه پایه نصب کنید. ابزار اندازه گیری را حتی الامکان در مرکز سطح و محدوده کار قرار بدهید.

در کنار عوامل تاثیر گذارنده خارجی، عوامل تاثیر گذارنده خاص در رابطه با خودِ دستگاه نیز وجود دارند (بعنوان مثال افتادن یا ضربه شدید) که می توانند باعث خطا در اندازه گیری و ایجاد اختلال بشوند. به این دلیل باید هر بار قبل از شروع به کار، دقتِ عمل ابزار اندازه گیری را کنترل کنید.

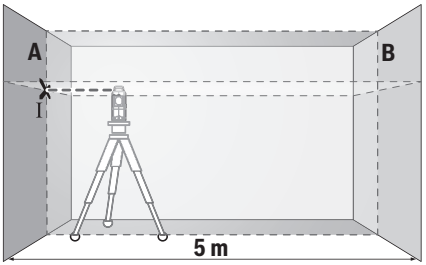
هر بار نخست دقت تراز خط لیزر افقی، سپس دقت تراز خط لیزر عمودی را کنترل کنید.

چنانچه میزان خطای ابزار اندازه گیری در طی یکی از آزمایش ها از حداکثر میزان خطا (اختلاف) فراتر رود، آنگاه باید ابزار اندازه گیری را توسط خدمات پس از فروش بوش تعمیر کنید.

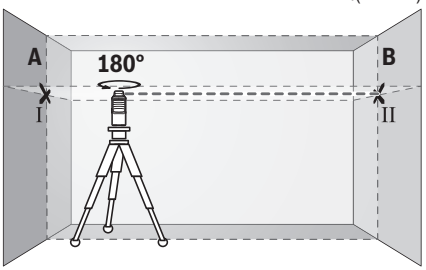
نحوه کنترل دقت تراز شدن افقی محور عرضی

برای کنترل به یک مسافت اندازه گیری معادل 5 متر با سطح اتکاء (زمینه) ثابت و محکم مابین دو دیوار A و B نیاز دارید.

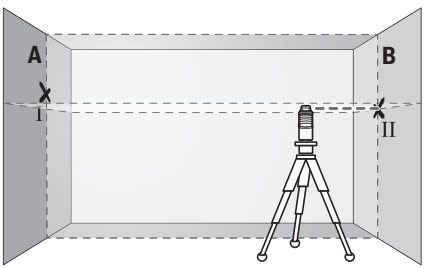
- ابزار اندازه گیری را در نزدیکی دیوار A روی یک سه پایه مونتاژ کنید و یا آنرا روی یك سطح ثابت، محکم و صاف قرار بدهید. ابزار اندازه گیری را روشن کنید. عملکرد خطوط متقاطع با تراز اتوماتیک را انتخاب کنید.



- لیزر را به طرف و در نزدیکی دیوار A تنظیم کنید و بگذارید ابزار اندازه گیری تراز بشود. نقطه مرکز محل تقاطع خطوط لیزر را بر روی دیوار علامتگذاری کنید (نقطه I).



- ابزار اندازه گیری را 180° درجه بچرخانید و بگذارید تراز بشود و نقطه مرکز محل تقاطع خطوط لیزر را بر روی دیوار مقابل یعنی دیوار B علامتگذاری کنید (نقطه II).
- ابزار اندازه گیری را بدون چرخاندن آن، نزدیك به دیوار B قرار بدهید، آنرا روشن کنید و بگذارید تراز بشود.



- ارتفاع ابزار اندازه گیری را طوری تنظیم کنید (بوسیله سه پایه و یا در صورت لزوم با قرار آن بر روی یک شیئ) که نقطه محل تقاطع خطوط لیزر دقیقاً بر روی نقطه II موجود بر روی دیوار B که پیشاپیش علامت گذاری شده است، قرار بگیرد.

عمودی قائم را نسبت به یک خط مبدأ (مرجع) مشخص افقی یا یک خط مبدأ عمودی و یا بوسیله نقاط عمودی (قائم) از قبل کنترل شده، مقایسه و کنترل کنید.

- **همواره ابزار اندازه گیری را به هنگام حمل و نقل آن خاموش کنید.** با خاموش کردن ابزار اندازه گیری، واحد اندازه گیری تراز قفل می شود، در غیر اینصورت امکان آسیب دیدگی آن به هنگام حرکت های شدید وجود دارد.

نحوه روشن و خاموش کردن

برای **روشن کردن** ابزار اندازه گیری، دکمه روشن و خاموش **7** را در وضعیت **"on"** (برای کار بدون تراز اتوماتیک) و یا در وضعیت **"on"** (برای کار با تراز اتوماتیک) فشار بدهید. ابزار اندازه گیری بلافاصله پس از روشن کردن آن، خطوط لیزر از داخل روزنه های **1** ارسال می کند.

- **جهت پرتو لیزر را به طرف اشخاص و یا حیوانات نگیرید و خودتان هم مستقیماً به پرتو لیزر نگاه نکنید، حتی از فاصله دور.**
- **ابزار اندازه گیری را در حالت روشن بدون نظارت در جائی قرار ندهید و پس از استفاده از ابزار اندازه گیری، آنرا خاموش کنید.** امکان آسیب دیدن چشم اشخاص دیگر وجود دارد.

برای **خاموش کردن** ابزار اندازه گیری، دکمه روشن و خاموش **7** را در وضعیت **"off"** (خاموش) فشار بدهید. با خاموش کردن ابزار اندازه گیری، واحد اندازه گیری تراز قفل می شود.

چنانچه دمای محیط کار از حداکثر دمای مجاز معادل با 45 °C سانتیگراد فراتر رود، ابزار اندازه گیری از طریق خاموش کننده اتوماتیک ابزار، برای حفاظت از دیودهای لیزر خاموش می شود. پس از خنک شدن، ابزار اندازه گیری مجدداً آماده کار می باشد.

نحوه خاموش کردن (غیر فعال ساختن) خاموش کننده اتوماتیک

چنانچه برای مدت تقریباً 30 دقیقه هیچیک از دکمه های ابزار اندازه گیری فشار داده نشود، ابزار اندازه گیری برای حفظ طول عمر باتری ها، بطور اتوماتیک خاموش می شود.

برای روشن کردن مجدد ابزار اندازه گیری پس از خاموش شدن اتوماتیک آن، هم میتوان کلید روشن و خاموش **7** را نخست در موقعیت **"off"** (خاموش) قرار داد و سپس ابزار اندازه گیری را روشن نمود، و هم میتوان دکمه انتخاب نوع عملکرد **5** و یا دکمه عملکرد ضربان **3** را یکبار فشار داد.

برای خاموش کردن و غیر فعال ساختن خاموش کننده اتوماتیک، دکمه **5** را در حالیکه ابزار اندازه گیری روشن است، حداقل به مدت 3 ثانیه فشار بدهید. چنانچه خاموش کننده اتوماتیک فعال (روشن) نباشد، پرتوهای لیزر برای تأیید عملکرد، برای مدت کوتاهی بصورت چشمک زن روشن می شوند.

برای روشن و فعال کردن خاموش کننده اتوماتیک، ابزار اندازه گیری را خاموش کرده و آنرا مجدداً روشن کنید، و یا دکمه انتخاب نوع عملکرد **5** را حداقل به مدت 3 ثانیه فشار بدهید.

نحوه خاموش کردن و غیر فعال ساختن سیگنال صوتی

پس از روشن کردن ابزار اندازه گیری، سیگنال صوتی نیز همواره روشن و فعال است.

برای فعال/غیر فعال ساختن (روشن و خاموش کردن) صدای سیگنال، همزمان دکمه انتخاب نوع عملکرد **5** و همچنین دکمه عملکرد ضربان **3** را حداقل به مدت 3 ثانیه فشار بدهید.

به هنگام روشن شدن و خاموش شدن صدای سیگنال، سه صدای سیگنال کوتاه در هر دو حالت برای تأیید عملکرد به گوش می رسد.

انواع عملکردها

ابزار اندازه گیری دارای سه نوع عملکرد می باشد که میتوان هر زمان از میان عملکردها یکی را انتخاب کرد و نوع عملکرد را تغییر داد:

- عملکرد افقی: یک سطح لیزر افقی تولید می کند،
- عملکرد عمودی: یک سطح لیزر عمودی تولید می کند،
- عملکرد متقاطع: یک سطح لیزر افقی و یک سطح لیزر عمودی تولید می کند.

پس از روشن کردن ابزار اندازه گیری، دستگاه در عملکرد افقی قرار دارد. برای تغییر نوع عملکرد، دکمه انتخاب عملکرد **5** را فشار بدهید.

هر سه نوع عملکرد را می توان هم با تراز اتوماتیک و هم بدون تراز اتوماتیک انتخاب نمود.

عملکرد ضربان (تپش)

برای کار با دریافت کننده (گیرنده) لیزر **17**، باید عملکرد ضربان روشن بشود و این امر بستگی به نوع عملکرد انتخاب شده ندارد.

در عملکرد ضربان، خطوط لیزر با فرکانس بسیار بالا بطور چشمک زن ظاهر می شوند و از این طریق برای دریافت کننده لیزر **17** قابل یافتن می شوند.

برای روشن کردن عملکرد ضربان، دکمه **3** را فشار بدهید. چنانچه عملکرد ضربان روشن باشد، چراغ نشانگر **4** به رنگ سبز روشن می شود.

خطوط لیزر در صورت روشن بودن عملکرد ضربان برای چشم انسان کمتر قابل مشاهده است. از اینرو به هنگام کار بدون دریافت کننده لیزر، عملکرد ضربان را از طریق فشار دادن مجدد دکمه **3** خاموش کنید. در صورت خاموش بودن عملکرد ضربان، چراغ نشانگر **4** خاموش می شود.

تراز اتوماتیک

نحوه کار با تراز اتوماتیک

ابزار اندازه گیری را بر روی یک قرارگاه (زمینه) افقی ثابت، مسطح و محکم قرار بدهید، آنرا بر روی گیره مهار **19** و یا بر روی سه پایه **22** نصب کنید.

برای کار با تراز اتوماتیک، کلید روشن و خاموش **7** را در وضعیت **"on"** فشار بدهید.

تراز اتوماتیک ناهمواری ها را در محدوده ترازشوندگی خودکار ±4° درجه بطور اتوماتیک تراز می کند. چنانچه پرتو خطوط لیزر از حرکت باز ایستد، آنگاه تراز شدن ابزار به پایان رسیده است.

چنانچه تراز شدن اتوماتیک بنا به دلایلی امکان پذیر نباشد، بطور مثال چنانچه سطح قرارگاه ابزار اندازه گیری به مقدار بیش از 4° درجه با سطح افقی اختلاف داشته باشد، آنگاه خطوط لیزر بطور سریع بصورت چشمک زن روشن می شوند. در صورت روشن بودن سیگنال صوتی، یک صدای سیگنال به مدت حداکثر 30 ثانیه با ریتم سریع به گوش

16 صفحه اندازه گیری با پایه*
17 دریافت کننده (دیتکتور) لیزر*
18 کیف محافظ حمل دستگاه*
19 گیره مهار یونیورسال*
20 میله تلسکوپی*
21 عینک مخصوص دید پرتو لیزر*
22 سه پایه*

*** کلیه متعلقاتی که در تصویر و یا در متن آمده است، بطور معمول همراه دستگاه ارائه نمی شود.**

مشخصات فنی

لیزر خطی	GLL 2-80 P
شماره فنی	3 601 K63 2..
محدوده کاری[1] - استاندارد - با عملکرد ضربان - با دریافت کننده (گیرنده) لیزر	 20 m 15 m 5–80 m
دقت تراز کردن	±0,2 mm/m
محدوده تراز شوندگی خودکار (در خصوص این نوع دستگاه)	±4°
زمان تراز شدن (در خصوص این نوع دستگاه)	< 4 s
دمای کاری	−10 °C ... +45 °C
دمای نگهداری در انبار	−20 °C ... +70 °C
حداکثر رطوبت نسبی هوا	90 %
کلاس لیزر	2
مشخصات پرتو لیزر	640 nm, < 1 mW
	1
کوتاهترین مدت ضربان (تپش)	1/1 600 s
(رزوه) محل اتصال سه پایه	1/4", 5/8"
باتری ها	4 x 1,5 V LR06 (AA)
مدت زمان کارکرد - با 2 سطح لیزر - با 1 سطح لیزر	 9 h 18 h
وزن مطابق استاندارد EPTA-Procedure 01/2003	0,7 kg
اندازه (طول × عرض × ارتفاع)	159 x 54 x 141 mm
نوع/درجه ایمنی	IP 54 (ایمنی در برابر گرد و غبار و نفوذ آب)

1) محدوده کاری (اندازه گیری) ممکن است تحت شرایط نامناسب محیطی (از جمله تحت تابش مستقیم نور خورشید) کاهش پیدا کند. برای مشخص کردن دقیق مدل ابزار اندازه گیری، شماره سری **13** بر روی برچسب دستگاه (پلاک مدل) درج شده است.

نصب

نحوه قرار دادن/تعویض باتری

برای کار با ابزار اندازه گیری استفاده از باطری های قلیائی منگنز یا آلکالاین (alkali-manganese) توصیه می شود.

برای باز کردن درپوش محفظه باتری **10**، دکمه قفل کننده **11** را در جهت علامت فلش فشار بدهید و درپوش محفظه باتری را باز کنید. باتری ها را جاگذاری کنید. هنگام جاگذاری باتری ها، به قرار دادن صحیح قطب های باتری طبق علامتگذاری در داخل محفظه باتری توجه کنید.

چنانچه باتری ها ضعیف شده باشند، یک صدای سیگنال برای یکبار به مدت 5 ثانیه به گوش می رسد و نشانگر میزان شارژ باتری **2**، بصورت چشمک زن و به رنگ قرمز بطور پیوسته روشن می شود. در این حالت می توان ابزار اندازه گیری را برای مدت زمان کمتر از 2 ساعت همچنان مورد استفاده قرار داد.

چنانچه باتری ها به هنگام روشن کردن ابزار اندازه گیری ضعیف باشند، یک صدای سیگنال به مدت 5 ثانیه، بلافاصله پس از روشن کردن ابزار اندازه گیری، به گوش می رسد.

همواره باطری ها را همزمان تعویض کنید. منحصراً از باطری های ساخت یک سازنده و با ظرفیت های برابر استفاده کنید.

◀ **چنانچه برای مدت زمان طولانی از ابزار اندازه گیری استفاده نمی کنید، باتری ها را از داخل دستگاه خارج کنید.** باتری ها ممکن است در صورت انبار کردن طولانی مدت دچار فرسودگی و زنگ زدگی شده و خود به خود تخلیه بشوند.

نحوه کاربرد دستگاه

نحوه کاربرد دستگاه

◀ **تحت شرایط خاصی در حین بکارگیری ابزار اندازه گیری، یک سیگنال (هشدار) با صدای بلند ایجاد می شود. به این دلیل بایستی ابزار اندازه گیری را از نزدیکی گوش خود و همچنین سایر افراد دور نگهدارید.** صدای بلند مزبور ممکن است به گوش و شنوائی آسیب برساند.

◀ **ابزار اندازه گیری را در برابر رطوبت و تابش مستقیم نور خورشید محفوظ بدارید.**

◀ **ابزار اندازه گیری را در معرض دمای حاد (گرما و سرمای شدید) و همچنین تغییر درجه حرارت شدید قرار ندهید.** ابزار اندازه گیری را بطور مثال برای مدت طولانی در داخل خودرو قرار ندهید. در صورت نوسان شدید دما، نخست بگذارید ابزار اندازه گیری خود را با دمای محیط وفق بدهد، پیش از اینکه آنرا مورد استفاده قرار بدهید. دمای حاد (گرما و سرمای شدید) و یا نوسان شدید دما می تواند در دقت اندازه گیری تأثیر منفی بگذارد.

◀ **ابزار اندازه گیری را در برابر ضربه های شدید محافظت کنید و از به زمین افتادن آن جلوگیری بعمل آورید.** هرگونه آسیب دیدگی در ابزار اندازه گیری، می تواند در دقت عمل آن تأثیر منفی بگذارد. پس از بروز هر گونه ضربه به ابزار اندازه گیری و یا در صورت به زمین افتادن آن، بایستی خطوط لیزر و یا لیزر

فارسی

راهنمائی های ایمنی

لیزر خطی

جهت کار کردن بی خطر و ایمن با ابزار اندازه گیری به تمام راهنماییها توجه کنید. برچسب های هشدار بر روی ابزار برقی را هرگز نپوشانید. این راهنماییها را خوب نگهدارید و آن را هنگام دادن ابزار اندازه گیری فراموش نکنید.

- **احتیاط – چنانچه دستورالعمل و نحوه بکارگیری دیگری غیر از این دستورالعمل مورد استفاده قرار بگیرد و یا تجهیزات دیگری برای تنظیم و تراز کردن مورد استفاده قرار بگیرد و یا روش کار دیگری به اجراء درآید، خطراتی در رابطه با پرتو لیزر وجود خواهد داشت.**
- **ابزار اندازه گیری با یک برچسب هشدار ارسال می شود (در تصویر ابزار اندازه گیری روی صفحه تا شو با شماره 12 مشخص شده است).**

- **برچسب هشدار را قبل از راه اندازی اولیه با برچسب ارسالی زبان کشور خود جایگزین کنید.**

جهت پرتو لیزر نباید به طرف افراد و یا حیوانات باشد و خودتان هم مستقیماً به پرتو لیزر نگاه نکنید. اینگونه ممکن است منجر به خیره شدگی افراد، بروز سانحه یا آسیب دیدگی چشم گردد.

- **در صورت برخورد پرتوی لیزر به چشم، چشمها را فورا ببندید و سر را از محدوده ی پرتوی لیزر خارج کنید.**
- **هیچ گونه تغییری در تنظیمات لیزر انجام ندهید.**
- **از عینک مخصوص دید پرتو لیزر بعنوان عینک ایمنی استفاده نکنید.** عینک مخصوص دید پرتو لیزر برای تشخیص بهتر پرتو لیزر است ولیکن نمی تواند از چشم شما در برابر پرتو لیزر محافظت کند.
- **از عینک مخصوص دید پرتو لیزر بعنوان عینک آفتابی و یا هنگام رانندگی استفاده نکنید.** عینک مخصوص دید پرتو لیزر محافظت و ایمنی کامل را در برابر تشعشات ماورای بنفش ارائه نمی دهد و قدرت درجه تشخیص رنگ را نیز کاهش می دهد.
- **تعمیر این ابزار اندازه گیری باید منحصراً توسط افراد متخصص و فقط تحت استفاده از قطعات اصل انجام بگیرد.** به این ترتیب ایمنی ابزار اندازه گیری تضمین می شود.
- **اجازه ندهید که اطفال بدون نظارت ابزار اندازه گیری لیزری را مورد استفاده قرار بدهند.** زیرا خطر تابش ناخواسته اشعه به چشم دیگران و آسیب دیدن بینائی آنها وجود دارد.
- **ابزار اندازه گیری را در محیط و اماکنی که در آن خطر انفجار وجود داشته و یا در آن اماکن، مایعات قابل احتراق، گازها و یا گرد و غبار موجود باشد، مورد استفاده قرار ندهید.** امکان تولید جرقه هایی توسط ابزار اندازه گیری وجود دارد که می تواند منجر به اشتعال گرد و غبار و یا بخارهای موجود در هوا بشود.

صفحه هدف لیزر

از نزدیک کردن ابزار اندازه گیری و صفحه هدف لیزر 15 به باتری قلب خودداری کنید. بوسیله آهنرباهای ابزار اندازه گیری و همچنین صفحه هدف لیزر، یک میدان مغناطیسی تولید می شود که می تواند در عملکرد باتری قلب تأثیر منفی بگذارد.

- **ابزار اندازه گیری و همچنین صفحه هدف لیزر 15 را از رسانه های اطلاعات مغناطیسی و همچنین دستگاههای حساس در برابر مغناطیس دور نگهدارید.** تحت تأثیر آهنرباهای ابزار اندازه گیری و صفحه هدف لیزر، امکان از بین رفتن غیر قابل برگشت اطلاعات وجود دارد.

تشریح دستگاه و عملکرد آن

لطفاً صفحه تا شده این دفترچه راهنما را که حاوی تصویر ابزار اندازه گیری است، باز کنید و هنگام خواندن این دفترچه راهنما، آنرا باز نگهدارید.

موارد استفاده از دستگاه

این ابزار اندازه گیری برای محاسبه، کنترل و مشخص کردن خطوط افقی و خطوط عمودی در نظر گرفته شده است.

اطلاعات صوتی و مربوط به صدا

سطح فشار صوتی برای سیگنال صوتی برای یک متر فاصله برابر است با (80 dB A).

ابزار اندازه گیری را نزدیک گوش نگه ندارید!

اجزاء دستگاه

شماره های اجزاء دستگاه که در تصویر مشاهده میشود، مربوط به شرح ابزار اندازه گیری می باشد که تصویر آن در این دفترچه راهنما آمده است.

1 منفذ (دهانه) خروج پرتو لیزر
2 نشانگر میزان شارژ باتری
3 دکمه عملکرد ضربان (تپش)
4 نشانگر عملکرد ضربان (تپش)
5 دکمه انتخاب نوع عملکرد
6 نشانگر عملکرد بدون تراز اتوماتیک
7 کلید قطع و وصل
8 رزوه 8/5 اینچ، محل اتصال سه پایه
9 رزوه 4/1 اینچ، محل اتصال سه پایه
10 درپوش محفظه باطری
11 قفل کننده درپوش محفظه باطری
12 برچسب هشدار پرتو لیزر
13 شماره فنی/شماره سری
14 آهنرباها
15 صفحه هدف لیزر